

S セメスター (S1・S2 ターム) 科目紹介

p.5 より、S セメスター (S1・S2 ターム) に開講される科目の科目紹介 (シラバス) が掲載されていますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。シラバスは本冊子以外にも、UTAS にログインの上、画面上「シラバス」メニューから「(シラバス参照)」を選択することでも参照ができます。UTAS 上のシラバスは本冊子の科目紹介よりも多くの情報が掲載されていますので、履修を考えている授業については、UTAS 上のシラバスも併せて参照するようにしてください。具体的には、「授業計画」「学習上のアドバイス」などの項目は、UTAS 上のシラバスのみに掲載されています。

科目紹介 (シラバス) 例 (科目ごとに掲載されている項目・情報は異なります)

| 時間割コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 単位 | 教室 | 対象 |
|--|----|-------|-------|----|----|----|----|----|
| ① | ② | 東大概論 | 駒場 太郎 | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
| 講義題目 目標概要 評価方法 ⑧ 教科書 ガイダンス | | | | | | | | |

①時間割コード

それぞれの授業に割り振られている固有の番号です。UTAS でシラバスを参照する際などに使用します。

②開講区分

授業が開講される期間を示します。それぞれの表示は以下の期間での開講を表します。

| 開講区分 | 正式名称 | 授業の開講期間 |
|------|---------|----------|
| S | S セメスター | 概ね 4~7 月 |
| S1 | S1 ターム | 概ね 4~5 月 |
| S2 | S2 ターム | 概ね 6~7 月 |

授業日の詳細については、表紙裏の授業等日程を参照してください。

③所属

教養学部 (総合文化研究科) が開講する授業は、開講元の部会名又は学科 (専攻) が掲載されています。他学部・研究科等が開講する授業は、当該学部・研究科等の名前が掲載されています。

開講所属凡例

| |
|-------------|
| 教養学部前期課程部会 |
| 英語 |
| ドイツ語 |
| フランス語・イタリア語 |
| 中国語 |
| 韓国朝鮮語 |
| ロシア語 |
| スペイン語 |
| 古典語・地中海諸言語 |
| 法・政治 |
| 経済・統計 |
| 社会・社会思想史 |
| 国際関係 |
| 歴史学 |
| 国文・漢文学 |
| 文化人類学 |
| 哲学・科学史 |
| 心理・教育学 |
| 人文地理学 |
| 物理 |
| 化学 |
| 生物 |
| 情報・図形 |
| 宇宙地球 |
| 相関自然 |
| スポーツ・身体運動 |
| 数学 |
| PEAK 前期 |
| 日本語 |
| 先進科学 |

| |
|---------|
| 教養学部 |
| 統合自然科学科 |

| |
|---------------|
| 総合文化研究科 |
| 言語情報科学専攻 |
| 超域文化科学専攻 |
| 表象文化論コース |
| 超域文科化学専攻 |
| 比較文学比較文化コース |
| 地域文化研究専攻 |
| 地域文化研究専攻 |
| アジア・日本文化研究コース |

| |
|-----------------------|
| その他（後期課程諸学部、全学センターなど） |
| 情報メディア科学委員会 |
| 法学部 |
| 医学部 |
| 新領域創成科学研究科 |
| 先端科学技術研究センター |
| 生産技術研究所 |
| 人間の安全保障プログラム |
| etc. |

④曜限

授業が行われる曜限が掲載されています。「集中講義」と記載されている授業は、特定の日程や授業期間外に行われることがありますので、授業内容を確認してください。

⑤単位

当該授業に合格した場合に得られる単位数が掲載されています。当項目の掲載がない科目については、『履修の手引き』p.6 に掲載されている内容に従います。

⑥教室

授業が行われる教室が掲載されています。表記と対応する号館・建物は以下のとおりです。

| 教室名称 | 建物名称 |
|---------------|------|
| 101～192 | 1号館 |
| 511～534 | 5号館 |
| 721～762 | 7号館 |
| 900 | 講堂 |
| 10-101～10-308 | 10号館 |
| 1101～1109 | 11号館 |
| 1211～1233 | 12号館 |
| 1311～1341 | 13号館 |

| 教室名称 | 建物名称 |
|--------------------|-----------------|
| KALS | 17号館2階 |
| E21～E49 | 情報教育棟 |
| K101～K502 (下2桁目が0) | 21KOMCEE West |
| K011～K214 (下2桁目が1) | 21KOMCEE East |
| 学際交流ホール | アドミニストレーション棟3階 |
| 18号館ホール | 18号館1階 |
| 音楽実習室 | コミュニケーションプラザ 北館 |
| | |

駒場キャンパスの建物配置図については教養学部前期課程 HP の建物配置図を参照してください。教室欄に「シラバス参照」と記載されている授業は、上表以外の教室や駒場キャンパス以外の場所で開講される授業のため、正しい開講場所をシラバスやガイダンス等で確認してください。

また、初回のみ通常と異なる教室で行われる授業や、授業開始後に教室変更が行われる授業がありますので、シラバスや掲示板・教養学部前期課程 HP のお知らせを随時確認し、実際に授業が行われる教室を正確に把握するようにしてください。

⑦対象

授業の対象となる科類やクラスが掲載されています。欄内の数字は組番号を表し、複数クラスが対象の場合は「6,16-18,20」のように範囲を示しています（この場合は17組も対象クラスに含みます）。「奇数」「偶数」と記載のある場合には、学生証番号末尾の数字の奇数・偶数で対象学生を示しています。本項目で指定されていない科類・クラス等に所属している学生は当該授業の履修登録を行うことができないので、注意してください。

⑧科目紹介の内容

具体的な科目紹介の内容が掲載されています。授業によっては、履修にあたっての注意点等が挿入されています。不明な点は教務課に必ず確認の上、履修登録を行うようにしてください。

英語の履修について

既修外国語の英語は各科目1単位または2単位で、計5単位の科目群であり、英語一列（教養英語）・英語二列S（アカデミック・ディスカッション）・英語二列W（アカデミック・ライティング）に分けられる（その他に総合科目L系列3単位）。

英語一列（教養英語）は共通教科書とこれに関連する音声教材を使用する習熟度別の授業である。英語二列Sも同じく習熟度別の授業であり、文科生、理科生ともFLOW(Fluency-Oriented Workshop)のプログラムにより実施する。英語二列Wは、文科生はALESA(Active Learning of English for Students of the Arts)、理科生はALESS(Active Learning of English for Science Students)のプログラムにより実施する。

●本冊子においては、p.6から「英語一列」「英語二列S」「英語二列W」のシラバスが掲載されている。

●「英語一列」「英語二列S」「英語二列W」は所属クラスに応じてあらかじめ指定された授業を履修する。「英語一列」「英語二列S」は習熟度別にクラスが分けられている。

●「英語一列」「英語二列S」「英語二列W」の3科目をそれぞれのターム・セメスターに履修するかについては、所属クラスにより異なり、下表の4つのグループにあらかじめ分けられる。「(クラス指定総合科目L)」と記載されている部分については、総合科目L系列「英語中級」が所属クラスに対するクラス指定の授業として開講される。

| 所属クラス | ターム・セメスター | | | |
|---|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 1S1 | 1S2 | 1A1 | 1A2 |
| | 1S | | 1A | |
| 文一二 (8,11,22,25-26) 文三 (5,7,11,14,19) 理一 (1-4,12,17,18,20,23,31,35-36,39) 理二三 (11,13,20,23) | 英語一列① | 英語二列S | (クラス指定 総合科目L) | 英語一列② |
| | (クラス指定総合科目L) | | 英語二列W | |
| 文一二 (5-6,13,15,16,18-19,24) 文三 (6,10,12,17) 理一 (7,9,13,19,25,28,30,34,37) 理二三 (6-7,18,19,22) | 英語一列① | (クラス指定 総合科目L) | 英語二列S | 英語一列② |
| | 英語二列W | | (クラス指定総合科目L) | |
| 文一二 (1-3,7,10,17,20-21,23,27-28) 文三 (1-3,9,15-16) 理一 (8,11,16,21,24,27,29,33) 理二三 (4,8,9,14,17,21) | 英語二列S | 英語一列① | 英語一列② | (クラス指定 総合科目L) |
| | (クラス指定総合科目L) | | 英語二列W | |
| 文一二 (4,9,12,14) 文三 (4,8,13,18,20) 理一 (5-6,10,14-15,22,26,32,38) 理二三 (1-3,5,10,12,15-16,24) | (クラス指定 総合科目L) | 英語一列① | 英語一列② | 英語二列S |
| | 英語二列W | | (クラス指定総合科目L) | |

外国語（英語一列・特別クラス）

英語一列（教養英語）・特別クラス

≪英語一列①（教養英語）≫

| | |
|----------|--|
| 目標・概要 | 「教養英語」は、本学教養学部の英語部会教員が教養課程における英語学習のために作成した、理科生、文科生を問わず学生の知的関心に応える高度で分野横断的な内容をもつ教科書『教養英語読本』と、これに関連したリスニング教材を使用して行う授業である。リスニング教材（音声）およびスクリプトは下記「関連ホームページ」で配信する。クラスは、学生の習熟度に合わせて三段階に分かれており、それぞれのグループの学生にもっとも適した進度や授業方法を採用する。その際、全クラスで共通して学習する部分を一定量設けて試験範囲とし、これに実力問題を加えた統一定期試験を実施する。 |
| 授業の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・「教養英語」が行われる時間帯には、それぞれ複数のクラスが設けられている。各クラスの教室割当は教務課掲示板に掲示する（他の語学クラスとは違うので注意すること）。 ・「教養英語」では、習熟度に応じて三つのグループを設定している。 グループ1：約300名。授業は英語で行われる。指定された共通部分以外のテキストの範囲もカバーし、テキストの内容理解に加え、作文・ディスカッションなど応用的な活動も含まれる。 グループ2：約900名。授業は原則として日本語で行われる。指定された共通部分以外のテキストの範囲もカバーし、テキストの正確な読解に加え、作文・ディスカッションなど各教員の個性を生かした応用的な活動も含まれる。 グループ3：約1800名。授業は原則として日本語で行われる。指定された共通部分をカバーし、語彙・文法等を重視しながら読解力の養成を目指す。それを元にした発展的な活動を含むこともある。 ・具体的な授業スケジュール（教材の選択、利用方法、必要な準備など）は、授業開始後に各クラスで教員から伝達される。 |
| 成績評価方法 | 定期試験（統一試験）および平常点 |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 教養英語読本 I 著者（訳者） 東京大学教養学部英語部会（編） 出版社 東京大学出版会 |
| 関連ホームページ | http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/efas/ |

≪英語特別クラス≫

非英語圏からの留学生、及び入試の外国語を英語以外で受験した者で、かつ英語の履修を希望する者は、英語部会の許可を得て「英語特別クラス」の履修で「英語一列①」「英語二列」「総合科目L系列 英語中級」の単位に充当することができる。履修希望者は第一週のガイダンス（日時、場所は掲示を参照）に出席すること。

| 授業科目名 | 担当教員 | 教室 | 開講 | 曜限 | 対象クラス |
|-------|--------------|-----|----|-----|---|
| 英語一列① | 教養英語 担当教員 | 各教室 | S1 | 火 3 | 1年文一二（13,24-25）文三（11,17）理一（1-4,9,18-19）理二三（7,13） |
| | | | | 火 4 | 1年文一二（6,8,18）文三（5,7,12）理一（20,30-31,34-35）理二三（11,18,22） |
| | | | | 水 2 | 1年文一二（5,15,19,26）文三（6,19）理一（7,12,23,28,36）理二三（6,23） |
| | | | | 水 3 | 1年文一二（11,16,22）文三（10,14）理一（13,17,25,37,39）理二三（19-20） |
| | | | S2 | 火 3 | 1年文一二（1-3,7,9,27）文三（1-3,8-9）理一（5-6,16,27）理二三（1-3,5,12,17） |
| | | | | 火 4 | 1年文一二（4,21,23）文三（16,18）理一（21-22,32,38）理二三（8,14-15） |
| | | | | 水 2 | 1年文一二（10,14,20）文三（4,13）理一（11,14-15,24）理二三（4,9-10） |
| | | | | 水 3 | 1年文一二（12,17,28）文三（15,20）理一（8,10,26,29,33）理二三（16,21,24） |

外国語（英語二列S）

| Fluency-Oriented Workshop (FLOW) | | | | | |
|----------------------------------|-----|--|-----------------------------|--------|---|
| 授業の目標・概要 | | The course aims to build students' confidence and ability to engage fluently and critically in a classroom discussion, to be aware of their weaknesses, and to have the tools to improve autonomously. | | | |
| 成績評価方法 | | Grades are based on active participation in class activities and on related assignments. | | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | | | |
| 時間割コード | 開講 | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 30401 | S 1 | 火 3 | ナオミ バーマン | K402 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30402 | S 1 | 火 3 | BORDILOVSKAYA Anna | 115 教室 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30403 | S 1 | 火 3 | Kartika Diana | 534 教室 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30404 | S 1 | 火 3 | NADADUR KANNAN Rajalakshmi | 114 教室 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30405 | S 1 | 火 3 | ホールマン フランシス キャンドラー | 515 教室 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30406 | S 1 | 火 3 | シンドレイエーバ ガリーナ | 516 教室 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30407 | S 1 | 火 3 | ハンセン キャサリン | 10-206 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30408 | S 1 | 火 3 | PULIDO ARCAS Jesus Alberto | 116 教室 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30409 | S 1 | 火 3 | BUENO Alex Falcon | 149 教室 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30410 | S 1 | 火 3 | WEITEMIER Adam | 150 教室 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30411 | S 1 | 火 3 | SHOKOUHI Marjan | 118 教室 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30412 | S 1 | 火 3 | 沈 尚玉 | 10-304 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30414 | S 1 | 火 3 | マニナン ジョン | 517 教室 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30415 | S 1 | 火 3 | テラシマ アレクサンドラ | 152 教室 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 31757 | S 1 | 火 3 | DIETZ Richard | 153 教室 | 1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17) |
| 30523 | S 1 | 火 4 | テラシマ アレクサンドラ | 152 教室 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30525 | S 1 | 火 4 | DIETZ Richard | 153 教室 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30526 | S 1 | 火 4 | BORDILOVSKAYA Anna | 115 教室 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30527 | S 1 | 火 4 | RUIZ TADA Elisa | 151 教室 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30528 | S 1 | 火 4 | Kartika Diana | 534 教室 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30529 | S 1 | 火 4 | WEITEMIER Adam | 150 教室 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30530 | S 1 | 火 4 | SHOKOUHI Marjan | 118 教室 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30531 | S 1 | 火 4 | ジェームズ エリンガー | 112 教室 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30532 | S 1 | 火 4 | ROBB Nigel | K301 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30533 | S 1 | 火 4 | ナオミ バーマン | K402 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30534 | S 1 | 火 4 | VANDEN BUSSCHE, Eric Armand | 157 教室 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30535 | S 1 | 火 4 | シンドレイエーバ ガリーナ | 516 教室 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30536 | S 1 | 火 4 | BUENO Alex Falcon | 149 教室 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30537 | S 1 | 火 4 | 沈 尚玉 | 10-202 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30538 | S 1 | 火 4 | ハンセン キャサリン | 10-206 | 1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14) |
| 30654 | S 1 | 水 2 | ディーエル グレゴリー ロジャース | 10-102 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30655 | S 1 | 水 2 | ROBB Nigel | K114 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30656 | S 1 | 水 2 | PULIDO ARCAS Jesus Alberto | 516 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30657 | S 1 | 水 2 | RUIZ TADA Elisa | 515 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |

| | | | | | |
|-------|-----|-----|-----------------------------|--------|---------------------------------------|
| 30658 | S 1 | 水 2 | ジェームズ エリンガー | 117 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30659 | S 1 | 水 2 | ホールマン フランシス キャンドラー | 116 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30660 | S 1 | 水 2 | マニナン ジョン | 517 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30661 | S 1 | 水 2 | テラシマ アレクサンドラ | 114 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30662 | S 1 | 水 2 | モレノ ペナランダ ラケル | 10-304 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30663 | S 1 | 水 2 | ハンセン キャサリン | 534 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30664 | S 1 | 水 2 | ネルソン シャリティー | 115 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30665 | S 1 | 水 2 | 木村 大輔 | 149 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30666 | S 1 | 水 2 | BROOKS Britton | 150 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30668 | S 1 | 水 2 | シンドレイエーバ ガリーナ | 151 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 31780 | S 1 | 水 2 | VANDEN BUSSCHE, Eric Armand | 152 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 31759 | S 1 | 水 2 | DIETZ Richard | 518 教室 | 1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9) |
| 30749 | S 1 | 水 3 | BROOKS Britton | 150 教室 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30750 | S 1 | 水 3 | 沈 尚玉 | 10-204 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30751 | S 1 | 水 3 | NADADUR KANNAN Rajalakshmi | 117 教室 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30752 | S 1 | 水 3 | モレノ ペナランダ ラケル | 10-202 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30753 | S 1 | 水 3 | ディーエル グレゴリー ロジャース | 10-102 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30754 | S 1 | 水 3 | テラシマ アレクサンドラ | 114 教室 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30755 | S 1 | 水 3 | WEITEMIER Adam | 515 教室 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30756 | S 1 | 水 3 | シンドレイエーバ ガリーナ | 151 教室 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30757 | S 1 | 水 3 | BUENO Alex Falcon | 118 教室 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30758 | S 1 | 水 3 | SEDDON Ryan John | 516 教室 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30759 | S 1 | 水 3 | ネルソン シャリティー | 115 教室 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30760 | S 1 | 水 3 | ハンセン キャサリン | 534 教室 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30761 | S 1 | 水 3 | SHOKOUHI Marjan | K112 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30762 | S 1 | 水 3 | VANDEN BUSSCHE, Eric Armand | 149 教室 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 30763 | S 1 | 水 3 | Kartika Diana | K113 | 1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21) |
| 40052 | S 2 | 火 3 | BORDILOVSKAYA Anna | 115 教室 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40053 | S 2 | 火 3 | ホールマン フランシス キャンドラー | 515 教室 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40055 | S 2 | 火 3 | マニナン ジョン | 517 教室 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40057 | S 2 | 火 3 | テラシマ アレクサンドラ | 152 教室 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40058 | S 2 | 火 3 | ハンセン キャサリン | 10-206 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40059 | S 2 | 火 3 | 沈 尚玉 | 10-304 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40060 | S 2 | 火 3 | WEITEMIER Adam | 150 教室 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40061 | S 2 | 火 3 | NADADUR KANNAN Rajalakshmi | 114 教室 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40062 | S 2 | 火 3 | Kartika Diana | 534 教室 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40063 | S 2 | 火 3 | ナオミ バーマン | K402 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40064 | S 2 | 火 3 | BUENO Alex Falcon | 149 教室 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40065 | S 2 | 火 3 | SHOKOUHI Marjan | 118 教室 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40066 | S 2 | 火 3 | PULIDO ARCAS Jesus Alberto | 116 教室 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40301 | S 2 | 火 3 | DIETZ Richard | 153 教室 | 1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13) |
| 40095 | S 2 | 火 4 | ジェームズ エリンガー | 112 教室 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |

外国語（英語二列S）

| | | | | | |
|-------|-----|-----|-----------------------------|--------|-------------------------------------|
| 40097 | S 2 | 火 4 | ROBB Nigel | K301 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40098 | S 2 | 火 4 | DIETZ Richard | 153 教室 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40099 | S 2 | 火 4 | BORDILOVSKAYA Anna | 115 教室 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40100 | S 2 | 火 4 | BUENO Alex Falcon | 149 教室 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40101 | S 2 | 火 4 | 沈 尚玉 | 10-202 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40102 | S 2 | 火 4 | ナオミ バーマン | K402 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40103 | S 2 | 火 4 | RUIZ TADA Elisa | 151 教室 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40104 | S 2 | 火 4 | Kartika Diana | 534 教室 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40105 | S 2 | 火 4 | テラシマ アレクサンドラ | 152 教室 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40106 | S 2 | 火 4 | WEITEMIER Adam | 150 教室 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40107 | S 2 | 火 4 | SHOKOUHI Marjan | 118 教室 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40108 | S 2 | 火 4 | ハンセン キャサリン | 10-206 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40109 | S 2 | 火 4 | VANDEN BUSSCHE, Eric Armand | 157 教室 | 1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11) |
| 40151 | S 2 | 水 2 | ROBB Nigel | K114 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40152 | S 2 | 水 2 | BROOKS Britton | 150 教室 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40153 | S 2 | 水 2 | モレノ ペナランダ ラケル | 10-304 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40154 | S 2 | 水 2 | RUIZ TADA Elisa | 515 教室 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40155 | S 2 | 水 2 | PULIDO ARCAS Jesus Alberto | 516 教室 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40156 | S 2 | 水 2 | 木村 大輔 | 149 教室 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40157 | S 2 | 水 2 | テラシマ アレクサンドラ | 114 教室 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40158 | S 2 | 水 2 | ネルソン シャリティー | 115 教室 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40159 | S 2 | 水 2 | マニナン ジョン | 517 教室 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40161 | S 2 | 水 2 | ハンセン キャサリン | 534 教室 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40162 | S 2 | 水 2 | DIETZ Richard | 518 教室 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40163 | S 2 | 水 2 | ホールマン フランシス キャンドラー | 116 教室 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40164 | S 2 | 水 2 | ディーエル グレゴリー ロジャース | 10-102 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40165 | S 2 | 水 2 | ジェームズ エリンガー | 117 教室 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40304 | S 2 | 水 2 | VANDEN BUSSCHE, Eric Armand | 152 教室 | 1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23) |
| 40166 | S 2 | 水 3 | テラシマ アレクサンドラ | 114 教室 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40168 | S 2 | 水 3 | ハンセン キャサリン | 534 教室 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40169 | S 2 | 水 3 | BROOKS Britton | 150 教室 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40170 | S 2 | 水 3 | SEDDON Ryan John | 516 教室 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40171 | S 2 | 水 3 | モレノ ペナランダ ラケル | 10-202 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40172 | S 2 | 水 3 | NADADUR KANNAN Rajalakshmi | 117 教室 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40173 | S 2 | 水 3 | VANDEN BUSSCHE, Eric Armand | 149 教室 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40174 | S 2 | 水 3 | 沈 尚玉 | 10-204 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40175 | S 2 | 水 3 | ネルソン シャリティー | 115 教室 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40176 | S 2 | 水 3 | WEITEMIER Adam | 515 教室 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40177 | S 2 | 水 3 | Kartika Diana | K113 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40178 | S 2 | 水 3 | BUENO Alex Falcon | 118 教室 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40179 | S 2 | 水 3 | SHOKOUHI Marjan | K112 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |
| 40180 | S 2 | 水 3 | ディーエル グレゴリー ロジャース | 10-102 | 1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20) |

外国語 (英語二列 W)

| Active Learning of English for Students of the Arts (ALESA) | | 開講区分 | S |
|---|---|------|---|
| 授業の目標・概要 | This course introduces students to the skill of building an effective written argument in English supported by sources and evidence and to the conventions of formal writing. By the end of the course, students will: - be able to present a clear position which is supported by evidence and addresses alternative points of view; - understand the organisation and rhetorical features of an argumentative essay; - be familiar with basic stylistic conventions of academic writing. | | |
| 授業の方法 | Class activities will include reading and analyzing argumentative writing in English; developing a position on a issue on the basis of individual research; engaging in a variety of pre-writing exercises; drafting and revising an essay; and using peer feedback to improve students' own and others' work in discussion and written comments. The class is taught in English, and students are encouraged to speak English in class. Graduate-student teaching assistants are available in the Komaba Writers' Studio to help students with their research, writing, and discussion. | | |
| 成績評価方法 | Grades are based on writing assignments, discussion, and participation in class activities. | | |
| 関連ホームページ | http://ale.c.u-tokyo.ac.jp/ | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTAS を参照すること | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
|------------|-----|-----------------------------|--------|-------------------------|
| 30040 | 月 2 | 沈 尚玉 | 10-204 | 1年 文一二(6,14)文三(4,10,20) |
| 30041 | 月 2 | ユウ ジョアン | 116 教室 | 1年 文一二(6,14)文三(4,10,20) |
| 30042 | 月 2 | SHOKOUHI Marjan | 10-102 | 1年 文一二(6,14)文三(4,10,20) |
| 30043 | 月 2 | ディーエル グレゴリー ロジャース | E35 教室 | 1年 文一二(6,14)文三(4,10,20) |
| 30044 | 月 2 | ナオミ バーマン | K201 | 1年 文一二(6,14)文三(4,10,20) |
| 30046 | 月 2 | Kartika Diana | K302 | 1年 文一二(6,14)文三(4,10,20) |
| 30047 | 月 2 | ホールマン フランシス キャンドラー | 117 教室 | 1年 文一二(6,14)文三(4,10,20) |
| 30048 | 月 2 | ネルソン シャリティー | E25 教室 | 1年 文一二(6,14)文三(4,10,20) |
| 30049 | 月 2 | BROOKS Britton | 120 教室 | 1年 文一二(6,14)文三(4,10,20) |
| 30050 | 月 2 | BUENO Alex Falcon | 118 教室 | 1年 文一二(6,14)文三(4,10,20) |
| 30069 | 月 2 | モレノ ペナランダ ラケル | K401 | 1年 文一二(6,14)文三(4,10,20) |
| 30907 | 木 2 | BROOKS Britton | 149 教室 | 1年 文一二(4,9,18)文三(17) |
| 30908 | 木 2 | ディーエル グレゴリー ロジャース | E39 教室 | 1年 文一二(4,9,18)文三(17) |
| 30909 | 木 2 | VANDEN BUSSCHE, Eric Armand | 114 教室 | 1年 文一二(4,9,18)文三(17) |
| 30910 | 木 2 | DIETZ Richard | 150 教室 | 1年 文一二(4,9,18)文三(17) |
| 30911 | 木 2 | ネルソン シャリティー | E35 教室 | 1年 文一二(4,9,18)文三(17) |
| 30912 | 木 2 | ハンセン キャサリン | 534 教室 | 1年 文一二(4,9,18)文三(17) |
| 30913 | 木 2 | 片山 晶子 | E38 教室 | 1年 文一二(4,9,18)文三(17) |
| 30914 | 木 2 | SHOKOUHI Marjan | 10-202 | 1年 文一二(4,9,18)文三(17) |
| 30915 | 木 2 | BUENO Alex Falcon | 115 教室 | 1年 文一二(4,9,18)文三(17) |
| 30916 | 木 2 | Kartika Diana | K402 | 1年 文一二(4,9,18)文三(17) |
| 30981 | 木 3 | 片山 晶子 | E38 教室 | 1年 文一二(13,15,24)文三(13) |
| 30982 | 木 3 | BROOKS Britton | 116 教室 | 1年 文一二(13,15,24)文三(13) |
| 30983 | 木 3 | SHOKOUHI Marjan | 10-202 | 1年 文一二(13,15,24)文三(13) |
| 30984 | 木 3 | ネルソン シャリティー | E35 教室 | 1年 文一二(13,15,24)文三(13) |
| 30985 | 木 3 | BUENO Alex Falcon | 115 教室 | 1年 文一二(13,15,24)文三(13) |
| 30986 | 木 3 | ハンセン キャサリン | 534 教室 | 1年 文一二(13,15,24)文三(13) |
| 30987 | 木 3 | ディーエル グレゴリー ロジャース | E39 教室 | 1年 文一二(13,15,24)文三(13) |
| 30988 | 木 3 | DIETZ Richard | 518 教室 | 1年 文一二(13,15,24)文三(13) |

| | | | | |
|-------|-----|-----------------------------|--------|------------------------|
| 30989 | 木 3 | Kartika Diana | K201 | 1年 文一二(13,15,24)文三(13) |
| 31779 | 木 3 | VANDEN BUSSCHE, Eric Armand | 114 教室 | 1年 文一二(13,15,24)文三(13) |
| 31086 | 金 1 | 沈 尚玉 | 10-204 | 1年 文一二(12,19)文三(8,12) |
| 31087 | 金 1 | ユウ ジョアン | 116 教室 | 1年 文一二(12,19)文三(8,12) |
| 31088 | 金 1 | VANDEN BUSSCHE, Eric Armand | 118 教室 | 1年 文一二(12,19)文三(8,12) |
| 31089 | 金 1 | 片山 晶子 | E25 教室 | 1年 文一二(12,19)文三(8,12) |
| 31090 | 金 1 | BROOKS Britton | 515 教室 | 1年 文一二(12,19)文三(8,12) |
| 31091 | 金 1 | ネルソン シャリティー | E35 教室 | 1年 文一二(12,19)文三(8,12) |
| 31092 | 金 1 | DIETZ Richard | 119 教室 | 1年 文一二(12,19)文三(8,12) |
| 31093 | 金 1 | ディーエル グレゴリー ロジャース | E42 教室 | 1年 文一二(12,19)文三(8,12) |
| 31166 | 金 3 | BROOKS Britton | 515 教室 | 1年 文一二(5,16)文三(6,18) |
| 31167 | 金 3 | ハンセン キャサリン | 534 教室 | 1年 文一二(5,16)文三(6,18) |
| 31168 | 金 3 | ディーエル グレゴリー ロジャース | E38 教室 | 1年 文一二(5,16)文三(6,18) |
| 31169 | 金 3 | 沈 尚玉 | 10-304 | 1年 文一二(5,16)文三(6,18) |
| 31170 | 金 3 | DIETZ Richard | 119 教室 | 1年 文一二(5,16)文三(6,18) |
| 31171 | 金 3 | VANDEN BUSSCHE, Eric Armand | 156 教室 | 1年 文一二(5,16)文三(6,18) |
| 31172 | 金 3 | ネルソン シャリティー | E39 教室 | 1年 文一二(5,16)文三(6,18) |
| 31173 | 金 3 | ユウ ジョアン | 116 教室 | 1年 文一二(5,16)文三(6,18) |

外国語 (英語二列 W)

| Active Learning of English for Science Students (ALESS) | | 開講区分 | S | |
|---|--|----------------------------|--------|----------------------------|
| 授業の目標・概要 | In this course, students learn about formal scientific writing and style in English; the organization, language, and rhetoric of scientific papers; and the process of writing and preparing formal papers through peer review and revision. | | | |
| 成績評価方法 | Grades are based on writing a research paper, giving a presentation, weekly written assignments, and on participation in class activities. | | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | | |
| 時間割コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 30070 | 月 2 | SEDDON Ryan John | 517 教室 | 1 年 理一(5,13,19) |
| 30071 | 月 2 | BORDILOVSKAYA Anna | 518 教室 | 1 年 理一(5,13,19) |
| 30072 | 月 2 | 神島 智子 | 119 教室 | 1 年 理一(5,13,19) |
| 30073 | 月 2 | 木村 大輔 | K501 | 1 年 理一(5,13,19) |
| 30074 | 月 2 | マニナン ジョン | KALS | 1 年 理一(5,13,19) |
| 30075 | 月 2 | テラシマ アレクサンドラ | 534 教室 | 1 年 理一(5,13,19) |
| 30076 | 月 2 | タヴァレス ヴァスケス ジェーゴ | K303 | 1 年 理一(5,13,19) |
| 31756 | 月 2 | PULIDO ARCAS Jesus Alberto | 516 教室 | 1 年 理一(5,13,19) |
| 30121 | 月 3 | BORDILOVSKAYA Anna | 518 教室 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30122 | 月 3 | モレノ ベナランダ ラケル | K401 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30124 | 月 3 | WEITEMIER Adam | 515 教室 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30125 | 月 3 | 神島 智子 | 119 教室 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30126 | 月 3 | NADADUR KANNAN Rajalakshmi | 115 教室 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30127 | 月 3 | ナオミ バーマン | KALS | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30128 | 月 3 | PULIDO ARCAS Jesus Alberto | 516 教室 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30129 | 月 3 | RUIZ TADA Elisa | 114 教室 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30130 | 月 3 | 木村 大輔 | K501 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30131 | 月 3 | ROBB Nigel | 10-102 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30132 | 月 3 | ジェームズ エリンガー | 118 教室 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30133 | 月 3 | テラシマ アレクサンドラ | 534 教室 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30134 | 月 3 | SEDDON Ryan John | 517 教室 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30135 | 月 3 | マニナン ジョン | E39 教室 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30136 | 月 3 | ユウ ジョアン | 116 教室 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30137 | 月 3 | ホールマン フランシス キャンドラー | 117 教室 | 1 年 理一(9,14-15,25,28,34) |
| 30222 | 月 4 | ジェームズ エリンガー | 118 教室 | 1 年 理一(7)理二三(1-3,10,15) |
| 30223 | 月 4 | WEITEMIER Adam | 515 教室 | 1 年 理一(7)理二三(1-3,10,15) |
| 30224 | 月 4 | ユウ ジョアン | 116 教室 | 1 年 理一(7)理二三(1-3,10,15) |
| 30225 | 月 4 | RUIZ TADA Elisa | 114 教室 | 1 年 理一(7)理二三(1-3,10,15) |
| 30226 | 月 4 | ROBB Nigel | 10-102 | 1 年 理一(7)理二三(1-3,10,15,24) |
| 30227 | 月 4 | マニナン ジョン | E39 教室 | 1 年 理一(7)理二三(1-3,10,15) |
| 30228 | 月 4 | NADADUR KANNAN Rajalakshmi | 115 教室 | 1 年 理一(7)理二三(1-3,10,15) |
| 30302 | 火 1 | ROBB Nigel | 10-102 | 1 年 理一(10)理二三(12,19) |
| 30303 | 火 1 | NADADUR KANNAN Rajalakshmi | 114 教室 | 1 年 理一(10)理二三(12,19) |

| | | | | |
|-------|-----|----------------------------|--------|----------------------|
| 30304 | 火 1 | RUIZ TADA Elisa | 517 教室 | 1 年 理一(10)理二三(12,19) |
| 30305 | 火 1 | 神島 智子 | 534 教室 | 1 年 理一(10)理二三(12,19) |
| 30306 | 火 1 | ジェームズ エリンガー | 116 教室 | 1 年 理一(10)理二三(12,19) |
| 30307 | 火 1 | モレノ ベナランダ ラケル | K401 | 1 年 理一(10)理二三(12,19) |
| 30308 | 火 1 | SEDDON Ryan John | 516 教室 | 1 年 理一(10)理二三(12,19) |
| 30609 | 水 1 | マニナン ジョン | K301 | 1 年 理一(6,22,32,38) |
| 30610 | 水 1 | BORDILOVSKAYA Anna | 518 教室 | 1 年 理一(6,22,32,38) |
| 30611 | 水 1 | PULIDO ARCAS Jesus Alberto | 516 教室 | 1 年 理一(6,22,32,38) |
| 30613 | 水 1 | ホールマン フランシス キャンドラー | 116 教室 | 1 年 理一(6,22,32,38) |
| 30614 | 水 1 | RUIZ TADA Elisa | 515 教室 | 1 年 理一(6,22,32,38) |
| 31758 | 水 1 | モレノ ベナランダ ラケル | 10-201 | 1 年 理一(6,22,32,38) |
| 30615 | 水 1 | ナオミ バーマン | K201 | 1 年 理一(6,22,32,38) |
| 30616 | 水 1 | ジェームズ エリンガー | 117 教室 | 1 年 理一(6,22,32,38) |
| 30617 | 水 1 | タヴァレス ヴァスケス ジェーゴ | KALS | 1 年 理一(6,22,32,38) |
| 30943 | 木 2 | 木村 大輔 | 116 教室 | 1 年 理一(26,30) |
| 30944 | 木 2 | モレノ ベナランダ ラケル | E41 教室 | 1 年 理一(26,30) |
| 30945 | 木 2 | RUIZ TADA Elisa | 151 教室 | 1 年 理一(26,30) |
| 31110 | 金 1 | WEITEMIER Adam | 120 教室 | 1 年 理二三(5-6,18) |
| 31111 | 金 1 | SEDDON Ryan John | 516 教室 | 1 年 理二三(5-6,18) |
| 31112 | 金 1 | BORDILOVSKAYA Anna | 517 教室 | 1 年 理二三(5-6,18) |
| 31113 | 金 1 | NADADUR KANNAN Rajalakshmi | 518 教室 | 1 年 理二三(5-6,18) |
| 31114 | 金 1 | PULIDO ARCAS Jesus Alberto | 534 教室 | 1 年 理二三(5-6,18) |
| 31760 | 金 1 | ホールマン フランシス キャンドラー | 152 教室 | 1 年 理二三(5-6,18) |
| 31201 | 金 3 | WEITEMIER Adam | 114 教室 | 1 年 理二三(7,22) |
| 31202 | 金 3 | SEDDON Ryan John | 117 教室 | 1 年 理二三(7,22) |
| 31204 | 金 3 | ホールマン フランシス キャンドラー | 149 教室 | 1 年 理二三(7,22) |
| 31205 | 金 3 | ROBB Nigel | 10-102 | 1 年 理二三(7,22) |
| 31761 | 金 3 | ナオミ バーマン | 151 教室 | 1 年 理二三(7,22) |
| 31256 | 金 4 | テラシマ アレクサンドラ | 515 教室 | 1 年 理一(37)理二三(16,24) |
| 31257 | 金 4 | ナオミ バーマン | 151 教室 | 1 年 理一(37)理二三(16,24) |
| 31258 | 金 4 | BORDILOVSKAYA Anna | 517 教室 | 1 年 理一(37)理二三(16,24) |
| 31259 | 金 4 | 神島 智子 | 516 教室 | 1 年 理一(37)理二三(16,24) |
| 31260 | 金 4 | ROBB Nigel | 10-102 | 1 年 理一(37)理二三(16,24) |
| 31261 | 金 4 | NADADUR KANNAN Rajalakshmi | 518 教室 | 1 年 理一(37)理二三(16,24) |
| 31262 | 金 4 | PULIDO ARCAS Jesus Alberto | 534 教室 | 1 年 理一(37)理二三(16,24) |

基礎科目 ドイツ語

| ドイツ語 | | 開講区分 | S | | |
|---------------------------------|--|---------|----------------|---------|---------------------------|
| 授業の目標・概要 | <p>一列・二列では共通教材『Einblicke』（東京大学教養学部ドイツ語部会編）を用いて、週二回の授業により、文法と読解を中心に、会話練習を交えながら総合的にドイツ語を学習する。</p> <p>履修者は必ず、同一クラスの一列と二列を履修すること。一列もしくは二列のみの履修は認められない。</p> <p>なお、L系列の科目、特にドイツ語初級（演習）も積極的に履修することを勧める。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | <p>平常点および試験によって行う。なお、1年生Sセメスターの一列・二列には同一の成績がつく。</p> | | | | |
| 教科書 | <p>次の教科書を使用する。</p> <p>書名 ドイツ語共通教科書『Einblicke』</p> <p>著者（訳者） 東京大学教養学部ドイツ語部会編</p> | | | | |
| 関連ホームページ | <p>http://deutsch.c.u-tokyo.ac.jp/</p> | | | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | | | |
| 時間割コード | 曜限 | 授業科目名 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 30056 | 月2 | ドイツ語一列① | 田中 純 | 155 教室 | 1年 文一二(22) |
| 30060 | 月2 | ドイツ語一列① | 石原 あえか | 10-203 | 1年 文三(15) |
| 30086 | 月2 | ドイツ語一列① | 梶谷 真司 | 1212 教室 | 1年 理一(30) |
| 30087 | 月2 | ドイツ語一列① | 齊藤 渉 | 1213 教室 | 1年 理一(32) |
| 30159 | 月3 | ドイツ語一列① | 森井 裕一 | 149 教室 | 1年 理一(29) |
| 30161 | 月3 | ドイツ語一列① | 田中 純 | 155 教室 | 1年 理一(33) |
| 30288 | 火1 | ドイツ語一列① | 高橋 亮介 | 105 教室 | 1年 文一二(1)文三(1)理一(1)理二三(1) |
| 30446 | 火3 | ドイツ語一列① | 石田 勇治 | 1312 教室 | 1年 文一二(20) |
| 30453 | 火3 | ドイツ語一列① | 足立 信彦 | 1222 教室 | 1年 文三(16) |
| 30468 | 火3 | ドイツ語一列① | 竹峰 義和 | 1214 教室 | 1年 理一(31) |
| 30553 | 火4 | ドイツ語一列① | 稲葉 治朗 | 1232 教室 | 1年 理二三(19) |
| 30703 | 水2 | ドイツ語一列① | 一條 麻美子 | K212 | 1年 理二三(17) |
| 30704 | 水2 | ドイツ語一列① | 足立 信彦 | 1226 教室 | 1年 理二三(20) |
| 30925 | 木2 | ドイツ語一列① | 大石 紀一郎 | 10-203 | 1年 文一二(21) |
| 30946 | 木2 | ドイツ語一列① | 竹峰 義和 | 1214 教室 | 1年 理一(28) |
| 31212 | 金3 | ドイツ語一列① | 森 芳樹 | 1222 教室 | 1年 理二三(18) |
| 31253 | 金4 | ドイツ語一列① | 一條 麻美子 | 1222 教室 | 1年 理一(27) |
| 30234 | 月4 | ドイツ語二列 | 三宅 晶子 | 150 教室 | 1年 理二三(20) |
| 30447 | 火3 | ドイツ語二列 | 平松 英人 | 1211 教室 | 1年 文一二(21) |
| 30467 | 火3 | ドイツ語二列 | 日名 淳裕 | 1212 教室 | 1年 理一(28) |
| 30547 | 火4 | ドイツ語二列 | 久保 哲司 | 1222 教室 | 1年 理一(27) |
| 30583 | 火5 | ドイツ語二列 | 久保 哲司 | 1222 教室 | 1年 理二三(18) |
| 30695 | 水2 | ドイツ語二列 | 原田 晶子 | 1214 教室 | 1年 理一(33) |
| 31255 | 水3 | ドイツ語二列 | 原田 晶子 | 1214 教室 | 1年 理一(30) |
| 30924 | 木2 | ドイツ語二列 | 石田 勇治 | 157 教室 | 1年 文一二(20) |
| 30926 | 木2 | ドイツ語二列 | 田中 純 | 159 教室 | 1年 文一二(22) |
| 30931 | 木2 | ドイツ語二列 | 足立 信彦 | 1312 教室 | 1年 文三(16) |
| 30947 | 木2 | ドイツ語二列 | 識名 章喜 | 122 教室 | 1年 理一(31) |
| 30948 | 木2 | ドイツ語二列 | 中丸 禎子 | 1212 教室 | 1年 理一(32) |
| 31028 | 木4 | ドイツ語二列 | SCHWARZ Thomas | 515 教室 | 1年 文一二(1)文三(1)理一(1)理二三(1) |

基礎科目 ドイツ語

| | | | | | |
|-------|-----|--------|--------|---------|-------------|
| 31211 | 金 3 | ドイツ語二列 | 工藤 達也 | 1214 教室 | 1 年 理二三(17) |
| 31213 | 金 3 | ドイツ語二列 | 稲葉 治朗 | 1311 教室 | 1 年 理二三(19) |
| 31240 | 金 4 | ドイツ語二列 | 石原 あえか | 10-308 | 1 年 文三(15) |
| 31254 | 金 4 | ドイツ語二列 | 工藤 達也 | 1214 教室 | 1 年 理一(29) |

基礎科目 フランス語

| フランス語 | | 開講区分 | S | | |
|---------------------------------|---|----------|---------------|---------|---------------------------|
| 授業の目標・概要 | <ul style="list-style-type: none"> ●1年生初修クラス 一列・二列の授業では、初級文法の教科書を用いて文法を中心にフランス語の全体を見渡す。文科生・理科生ともに、発音・聴解・表現などの実践的な授業を行う総合科目L系列「国際コミュニケーション」科目も開講されるので、積極的に履修をしてほしい。 ●既修クラス フランス語既修者を対象とする。中級レベルの会話・実習を中心に授業を進める。教材については担当教員が指定する。 ※講義の詳細については、UTASも参照すること。 | | | | |
| 成績評価方法 | 平常点（小テスト、出席、発言等）と定期試験で総合的に評価する方法をベースにした評価方法がとられる。詳細についてはUTASも参照にして確認をとること。 | | | | |
| 教科書 関連ホームページ | その他。 http://langue-fr.c.u-tokyo.ac.jp | | | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | | | |
| 時間割 コード | 曜限 | 授業科目名 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 30057 | 月2 | フランス語一列① | 飛嶋 隆信 | 108 教室 | 1年 文一二(24) |
| 30061 | 月2 | フランス語一列① | 森元 庸介 | 158 教室 | 1年 文三(18) |
| 30088 | 月2 | フランス語一列① | 大森 晋輔 | 1214 教室 | 1年 理一(37) |
| 30163 | 月3 | フランス語一列① | 今橋 映子 | 512 教室 | 1年 理一(38) |
| 30164 | 月3 | フランス語一列① | 泉 美知子 | 157 教室 | 1年 理一(39) |
| 30210 | 月4 | フランス語一列① | 大森 晋輔 | 1214 教室 | 1年 文一二(23) |
| 30217 | 月4 | フランス語一列① | 大池 惣太郎 | 121 教室 | 1年 文三(17) |
| 30218 | 月4 | フランス語一列① | 郷原 佳以 | 149 教室 | 1年 文三(19) |
| 30219 | 月4 | フランス語一列① | 森元 庸介 | 158 教室 | 1年 文三(20) |
| 30289 | 火1 | フランス語一列① | COUCHOT Herve | 101 教室 | 1年 文一二(2)文三(2)理一(2)理二三(2) |
| 30472 | 火3 | フランス語一列① | 鈴木 順子 | 113 教室 | 1年 理二三(21) |
| 30473 | 火3 | フランス語一列① | 関俣 賢一 | 162 教室 | 1年 理二三(23) |
| 30474 | 火3 | フランス語一列① | 斎藤 かぐみ | 1213 教室 | 1年 理二三(24) |
| 30539 | 火4 | フランス語一列① | 関俣 賢一 | 162 教室 | 1年 文一二(25) |
| 30540 | 火4 | フランス語一列① | 松村 剛 | 1224 教室 | 1年 文一二(26) |
| 30541 | 火4 | フランス語一列① | 郷原 佳以 | 1213 教室 | 1年 文一二(27) |
| 30542 | 火4 | フランス語一列① | 山田 広昭 | 1212 教室 | 1年 文一二(28) |
| 30578 | 火5 | フランス語一列① | 大池 惣太郎 | 112 教室 | 1年 理一(34) |
| 30579 | 火5 | フランス語一列① | 渡邊 淳也 | 107 教室 | 1年 理一(35) |
| 30580 | 火5 | フランス語一列① | 鈴木 順子 | 113 教室 | 1年 理一(36) |
| 30584 | 火5 | フランス語一列① | 桑田 光平 | 106 教室 | 1年 理二三(22) |
| 30696 | 水2 | フランス語二列 | 増田 一夫 | K113 | 1年 理一(37) |
| 30697 | 水2 | フランス語二列 | 今橋 映子 | K211 | 1年 理一(38) |
| 30698 | 水2 | フランス語二列 | 須藤 佳子 | 109 教室 | 1年 理一(39) |
| 30802 | 水4 | フランス語二列 | 増田 一夫 | K113 | 1年 文三(17) |
| 30927 | 木2 | フランス語二列 | 松村 剛 | 156 教室 | 1年 文一二(23) |
| 30932 | 木2 | フランス語二列 | 郷原 佳以 | 158 教室 | 1年 文三(19) |
| 30949 | 木2 | フランス語二列 | 渡邊 淳也 | 1311 教室 | 1年 理一(35) |
| 30950 | 木2 | フランス語二列 | 中田 健太郎 | 164 教室 | 1年 理一(36) |
| 30954 | 木2 | フランス語二列 | 三浦 篤 | 511 教室 | 1年 理二三(22) |

| | | | | | |
|-------|----|---------|--------|---------|---------------------------|
| 30997 | 木3 | フランス語二列 | 篠原 学 | 157 教室 | 1年 文一二(25) |
| 30998 | 木3 | フランス語二列 | 山田 広昭 | 1214 教室 | 1年 文一二(26) |
| 30999 | 木3 | フランス語二列 | 伊達 聖伸 | 106 教室 | 1年 文一二(27) |
| 31000 | 木3 | フランス語二列 | 松村 剛 | 156 教室 | 1年 文一二(28) |
| 31001 | 木3 | フランス語二列 | 森元 庸介 | 158 教室 | 1年 文三(18) |
| 31002 | 木3 | フランス語二列 | 坂本 さやか | 108 教室 | 1年 文三(20) |
| 31029 | 木4 | フランス語二列 | ビゼ | 10-102 | 1年 文一二(2)文三(2)理一(2)理二三(2) |
| 31037 | 木4 | フランス語二列 | 関俣 賢一 | 149 教室 | 1年 文一二(24) |
| 31055 | 木4 | フランス語二列 | 篠原 学 | 157 教室 | 1年 理二三(23) |
| 31117 | 金1 | フランス語二列 | 坂本 佳子 | 112 教室 | 1年 理二三(21) |
| 31199 | 金3 | フランス語二列 | 飛嶋 隆信 | 1212 教室 | 1年 理一(34) |
| 31214 | 金3 | フランス語二列 | 斎藤 かぐみ | 106 教室 | 1年 理二三(24) |

基礎科目 中国語

| 中国語 | | 開講区分 | S |
|----------------------------------|--|------|---|
| 授業の目標・概要 | 中国語の要である発音をしっかりと身につけた上で、文法の基礎を一年かけて一通り学習する。 ●文科生は選択必修科目の初級演習をあわせて履修し、コミュニケーション能力を養成する。クラス別に開講するので、自分のクラスの初級演習を履修すること。 ●理科生向けには、選択科目の「初級演習」を開講しているので、一、二列で習ったことをもとに、コミュニケーション能力を高めることが望ましい。(火1に開講) ●既習クラスは、講義内容、教科書など初修とは異なるため Web シラバスで確認をすること。 | | |
| 成績評価方法 | 定期試験など | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 現代漢語基礎 [改訂版] 著者(訳者) 小野秀樹・木村英樹・張麗群・楊凱榮・吉川雅之 著 出版社 白帝社 ISBN 978-4-86398-115-7 | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTAS を参照すること | | | |

| 時間割コード | 曜限 | 授業科目名 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
|--------|----|--------|--------|---------|---------------------------|
| 30059 | 月2 | 中国語一列① | 大橋 義武 | 113 教室 | 1年 文三(13) |
| 30290 | 火1 | 中国語一列① | 林 少陽 | 156 教室 | 1年 文一二(3)文三(3)理一(3)理二三(3) |
| 30301 | 火1 | 中国語一列① | 斉 金英 | K114 | 1年 理一(3)理二三(3)(TLP) |
| 30310 | 火1 | 中国語一列① | 山影 統 | 121 教室 | 1年 理一(22) |
| 30552 | 火4 | 中国語一列① | 中村 元哉 | 533 教室 | 1年 理二三(13) |
| 30619 | 水1 | 中国語一列① | 波多野 真矢 | 158 教室 | 1年 理一(24) |
| 30679 | 水2 | 中国語一列① | 伊藤 徳也 | 532 教室 | 1年 文一二(17) |
| 30685 | 水2 | 中国語一列① | 石井 剛 | 1322 教室 | 1年 文三(12) |
| 30692 | 水2 | 中国語一列① | 瀬地山 角 | 1221 教室 | 1年 理一(19) |
| 30693 | 水2 | 中国語一列① | 相原 まり子 | 113 教室 | 1年 理一(26) |
| 30702 | 水2 | 中国語一列① | 波多野 真矢 | 158 教室 | 1年 理二三(16) |
| 30800 | 水4 | 中国語一列① | 楊 凱榮 | 149 教室 | 1年 文三(14) |
| 30922 | 木2 | 中国語一列① | 松本 秀士 | 101 教室 | 1年 文一二(14) |
| 30942 | 木2 | 中国語一列① | 下出 宣子 | 121 教室 | 1年 理一(25) |
| 30990 | 木3 | 中国語一列① | 下出 宣子 | 121 教室 | 1年 文一二(19) |
| 31015 | 木3 | 中国語一列① | 河野 直恵 | 107 教室 | 1年 理二三(15) |
| 31034 | 木4 | 中国語一列① | 渡辺 剛 | 151 教室 | 1年 文一二(15) |
| 31035 | 木4 | 中国語一列① | 河野 直恵 | 107 教室 | 1年 文一二(16) |
| 31094 | 金1 | 中国語一列① | 王 英輝 | 104 教室 | 1年 文一二(18) |
| 31105 | 金1 | 中国語一列① | 小方 伴子 | 107 教室 | 1年 理一(20) |
| 31194 | 金3 | 中国語一列① | 吉川 雅之 | 112 教室 | 1年 理一(23) |
| 31209 | 金3 | 中国語一列① | 韓 燕麗 | 101 教室 | 1年 理二三(14) |
| 31234 | 金4 | 中国語一列① | 岩月 純一 | 101 教室 | 1年 文一二(13) |
| 31239 | 金4 | 中国語一列① | 田原 史起 | 150 教室 | 1年 文三(11) |
| 31252 | 金4 | 中国語一列① | 谷垣 真理子 | 121 教室 | 1年 理一(21) |
| 30084 | 月2 | 中国語二列 | 伊藤 博 | 154 教室 | 1年 理一(24) |
| 30085 | 月2 | 中国語二列 | 毛 興華 | 156 教室 | 1年 理一(25) |
| 30149 | 月3 | 中国語二列 | 賈 黎黎 | 107 教室 | 1年 理一(19) |
| 30150 | 月3 | 中国語二列 | 伊藤 博 | 154 教室 | 1年 理一(20) |

| | | | | | |
|-------|-----|-------|-------|---------|----------------------------|
| 30157 | 月 3 | 中国語二列 | 大橋 義武 | 113 教室 | 1 年 理一(26) |
| 30206 | 月 4 | 中国語二列 | 鄧 芳 | 157 教室 | 1 年 文一二(17) |
| 30207 | 月 4 | 中国語二列 | 伊藤 徳也 | 511 教室 | 1 年 文一二(18) |
| 30208 | 月 4 | 中国語二列 | 中村 元哉 | 512 教室 | 1 年 文一二(19) |
| 30215 | 月 4 | 中国語二列 | 白 春花 | 156 教室 | 1 年 文三(12) |
| 30466 | 火 3 | 中国語二列 | 山影 統 | 108 教室 | 1 年 理一(21) |
| 30543 | 火 4 | 中国語二列 | 山影 統 | 108 教室 | 1 年 文三(13) |
| 30618 | 水 1 | 中国語二列 | 青木 正子 | 157 教室 | 1 年 理一(23) |
| 30678 | 水 2 | 中国語二列 | 青木 正子 | 157 教室 | 1 年 文一二(16) |
| 30701 | 水 2 | 中国語二列 | 小野 秀樹 | 1212 教室 | 1 年 理二三(14) |
| 30748 | 水 3 | 中国語二列 | 小野 秀樹 | 1212 教室 | 1 年 文一二(13) |
| 30766 | 水 3 | 中国語二列 | 瀬地山 角 | 1221 教室 | 1 年 文三(11) |
| 30779 | 水 3 | 中国語二列 | 岩月 純一 | 153 教室 | 1 年 理二三(13) |
| 30793 | 水 4 | 中国語二列 | 毛 興華 | 158 教室 | 1 年 文一二(14) |
| 31016 | 木 3 | 中国語二列 | 松本 秀士 | 101 教室 | 1 年 理二三(16) |
| 31030 | 木 4 | 中国語二列 | 賈 黎黎 | 150 教室 | 1 年 文一二(3)文三(3)理一(3)理二三(3) |
| 31041 | 木 4 | 中国語二列 | 松本 秀士 | 101 教室 | 1 年 文三(14) |
| 31042 | 木 4 | 中国語二列 | 李 彦銘 | 103 教室 | 1 年 理一(3)理二三(3) (TLP) |
| 31193 | 金 3 | 中国語二列 | 田原 史起 | 150 教室 | 1 年 理一(22) |
| 31210 | 金 3 | 中国語二列 | 王 英輝 | 1211 教室 | 1 年 理二三(15) |
| 31235 | 金 4 | 中国語二列 | 賈 黎黎 | 106 教室 | 1 年 文一二(15) |

※理科生の TLP 履修者は、対象クラスで TLP と指定されている授業を履修すること。なお、総合科目 L 系列 英語中級、英語上級の抽選登録にあたり、一度当選した科目は履修登録を削除することができないため、抽選登録を行う際は、それぞれの開講曜限に注意すること。

基礎科目 ロシア語

| ロシア語 | | 開講区分 | S | | |
|---------------------------------|---|---------|-------|---------|-----------|
| 授業の目標・概要 成績評価方法 教科書 | ロシア語文法の基礎の修得。 定期試験と平常点。適宜小テストを行うことがある。 次の教科書を使用する。 書名 ロシア語をはじめよう 著者(訳者) 西中村浩、朝妻恵理子 出版社 朝日出版社 ISBN 978-4-255-55504-1 | | | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | | | |
| 時間割 コード | 曜限 | 授業科目名 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 30115 | 月3 | ロシア語一列① | 濱田 華練 | 105 教室 | 1年 理一(4) |
| 30116 | 月3 | ロシア語一列① | 乗松 亨平 | 102 教室 | 1年 理一(5) |
| 30291 | 火1 | ロシア語一列① | 濱田 華練 | 106 教室 | 1年 (TLP) |
| 30416 | 火3 | ロシア語一列① | 鳥山 祐介 | 1322 教室 | 1年 文一二(4) |
| 30450 | 火3 | ロシア語一列① | 濱田 華練 | 1311 教室 | 1年 文三(4) |
| 30548 | 火4 | ロシア語一列① | 鳥山 祐介 | 1322 教室 | 1年 理二三(4) |
| 30721 | 水3 | ロシア語二列 | 渡邊 日日 | 166 教室 | 1年 (TLP) |
| 30933 | 木2 | ロシア語二列 | 西中村 浩 | 106 教室 | 1年 理一(4) |
| 30934 | 木2 | ロシア語二列 | 奈倉 有里 | 162 教室 | 1年 理一(5) |
| 31051 | 木4 | ロシア語二列 | 西中村 浩 | 106 教室 | 1年 理二三(4) |
| 31165 | 金3 | ロシア語二列 | 小椋 彩 | 107 教室 | 1年 文一二(4) |
| 31188 | 金3 | ロシア語二列 | 鳥山 祐介 | 1322 教室 | 1年 文三(4) |

※TLP履修者は、対象クラスでTLPと指定されている授業を履修すること。なお、総合科目L系列 英語中級、英語上級の抽選登録にあたり、一度当選した科目は履修登録を削除することができないため、抽選登録を行う際は、それぞれの開講曜限に注意すること。

基礎科目 スペイン語

| スペイン語 | | 開講区分 | S |
|---------------------------------|--|------|---|
| 授業の目標・概要 | S セメスターは週2回、A セメスターは週1回の授業が必修である。共通教科書を用い、1年間かけて、日常使われるスペイン語を理解し、簡単な文章を読んだり書いたり、またスペイン語でコミュニケーションをとるために必要な文法体系全体を学習する。同時にスペイン語文化圏の豊かで多彩な文化と社会への関心を深めていく。S セメスターでは内容を一列(文法)と二列(講読)に分け、A セメスターでは一列で文法・講読の両方を扱う。文系学生はこの他に外国人教員が担当するクラス指定の演習を履修しなければならない。理系学生にもこれに対応する「スペイン語初級(演習)」(理系生限定)を開講する。これらの演習科目では、教科書の進度に合わせ、発音、聞き取り、初歩的な会話の練習、文法の応用練習などを行う。他にも初級作文と初級会話の科目を開講しているので、積極的に参加してほしい。スペイン語を集中的に勉強したい学生のためには、インテンシヴクラスを週2回開講する。これらを履修すれば、スペイン語の運用能力をいっそう高めることができる。 | | |
| 成績評価方法 | 各教員に任されている。 | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | |
| | 書名 スペイン語初級 第4版 | | |
| | 著者(訳者) 東京大学教養学部スペイン語部会 | | |
| | 出版社 朝日出版社 | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | |

| 時間割コード | 曜限 | 授業科目名 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
|--------|----|----------|--------|---------|------------|
| 30080 | 月2 | スペイン語一列① | 宮地 隆廣 | 122 教室 | 1年 理一(9) |
| 30147 | 月3 | スペイン語一列① | 岡本 年正 | 162 教室 | 1年 理一(12) |
| 30229 | 月4 | スペイン語一列① | 齊藤 文子 | 1311 教室 | 1年 理一(11) |
| 30309 | 火1 | スペイン語一列① | 網野 徹哉 | 112 教室 | 1年 理一(18) |
| 31176 | 火1 | スペイン語一列① | 深澤 晴奈 | K213 | 1年 文一二(8) |
| 31006 | 火3 | スペイン語一列① | 網野 徹哉 | 1232 教室 | 1年 理一(10) |
| 30519 | 火4 | スペイン語一列① | 受田 宏之 | 1321 教室 | 1年 文一二(7) |
| 30582 | 火5 | スペイン語一列① | 川崎 義史 | 108 教室 | 1年 理二三(7) |
| 30683 | 水2 | スペイン語一列① | 石橋 純 | 1311 教室 | 1年 文三(9) |
| 30684 | 水2 | スペイン語一列① | 竹村 文彦 | 1312 教室 | 1年 文三(10) |
| 30691 | 水2 | スペイン語一列① | 和田 佳浦 | 1321 教室 | 1年 理一(13) |
| 30700 | 水2 | スペイン語一列① | 齊藤 文子 | 1211 教室 | 1年 理二三(8) |
| 31177 | 水2 | スペイン語一列① | 川崎 義史 | 1102 教室 | 1年 文一二(9) |
| 30551 | 水3 | スペイン語一列① | 深澤 晴奈 | K213 | 1年 理二三(10) |
| 30774 | 水3 | スペイン語一列① | 川上 英 | 1222 教室 | 1年 理一(14) |
| 30775 | 水3 | スペイン語一列① | 和田 佳浦 | 1321 教室 | 1年 理一(15) |
| 30776 | 水3 | スペイン語一列① | 渡辺 暁 | 113 教室 | 1年 理一(16) |
| 30777 | 水3 | スペイン語一列① | 石橋 純 | 1311 教室 | 1年 理二三(11) |
| 30778 | 水3 | スペイン語一列① | 若林 大我 | 1322 教室 | 1年 理二三(12) |
| 30792 | 水3 | スペイン語一列① | 竹村 文彦 | 1312 教室 | 1年 文一二(10) |
| 31116 | 水3 | スペイン語一列① | 久住 真由 | 157 教室 | 1年 理二三(9) |
| 30799 | 水4 | スペイン語一列① | 深澤 晴奈 | K213 | 1年 文三(8) |
| 30808 | 水4 | スペイン語一列① | 渡辺 暁 | 113 教室 | 1年 理一(17) |
| 31233 | 木4 | スペイン語一列① | 深澤 晴奈 | K213 | 1年 文一二(11) |
| 31033 | 金3 | スペイン語一列① | 笛田 千容 | 104 教室 | 1年 文一二(12) |
| 30765 | 金4 | スペイン語一列① | 宮地 隆廣 | 108 教室 | 1年 文三(7) |
| 30052 | 月2 | スペイン語二列 | 栗林 ゆき絵 | 151 教室 | 1年 文一二(8) |
| 30082 | 月2 | スペイン語二列 | 岡本 年正 | 162 教室 | 1年 理一(16) |

| | | | | | |
|-------|-----|---------|--------|---------|-------------|
| 30138 | 月 3 | スペイン語二列 | 石橋 純 | 511 教室 | 1 年 理一(10) |
| 31045 | 月 3 | スペイン語二列 | 深澤 晴奈 | K114 | 1 年 理一(18) |
| 30212 | 月 4 | スペイン語二列 | 岡本 年正 | 162 教室 | 1 年 文三(8) |
| 30213 | 月 4 | スペイン語二列 | 三浦 麻衣子 | 112 教室 | 1 年 文三(9) |
| 30230 | 月 4 | スペイン語二列 | 深澤 晴奈 | K114 | 1 年 理一(13) |
| 30231 | 月 4 | スペイン語二列 | 竹村 文彦 | 1312 教室 | 1 年 理一(14) |
| 30452 | 火 3 | スペイン語二列 | 受田 宏之 | 1321 教室 | 1 年 文三(7) |
| 30520 | 火 4 | スペイン語二列 | 深澤 晴奈 | K213 | 1 年 文一二(9) |
| 30294 | 水 2 | スペイン語二列 | 川上 英 | 1222 教室 | 1 年 文一二(12) |
| 30669 | 水 2 | スペイン語二列 | 宮地 隆廣 | 1232 教室 | 1 年 文一二(11) |
| 30699 | 水 2 | スペイン語二列 | 網野 徹哉 | 159 教室 | 1 年 理二三(7) |
| 30807 | 水 4 | スペイン語二列 | 久住 真由 | 157 教室 | 1 年 理一(11) |
| 30806 | 木 4 | スペイン語二列 | 若林 大我 | 1212 教室 | 1 年 理一(9) |
| 30938 | 木 2 | スペイン語二列 | 倉田 量介 | 112 教室 | 1 年 理一(15) |
| 30940 | 木 2 | スペイン語二列 | 愛場 百合子 | 1213 教室 | 1 年 理一(17) |
| 31009 | 木 3 | スペイン語二列 | 若林 大我 | 1212 教室 | 1 年 理一(12) |
| 31013 | 木 3 | スペイン語二列 | 倉田 量介 | 112 教室 | 1 年 理二三(8) |
| 31014 | 木 3 | スペイン語二列 | 中島 聡子 | 113 教室 | 1 年 理二三(11) |
| 31053 | 木 4 | スペイン語二列 | 中島 聡子 | 113 教室 | 1 年 理二三(9) |
| 31085 | 木 4 | スペイン語二列 | 松浦 芳枝 | 164 教室 | 1 年 文一二(10) |
| 31175 | 金 3 | スペイン語二列 | 有田 美保 | 1231 教室 | 1 年 文一二(7) |
| 31206 | 金 3 | スペイン語二列 | 川崎 義史 | 108 教室 | 1 年 理二三(10) |
| 31207 | 金 3 | スペイン語二列 | 齊藤 文子 | 162 教室 | 1 年 理二三(12) |
| 31238 | 金 4 | スペイン語二列 | 笛田 千容 | 104 教室 | 1 年 文三(10) |

基礎科目 韓国朝鮮語

| 韓国朝鮮語 | | 開講区分 | S | | |
|---------------------------------|---|----------|-------|---------|----------------|
| 授業の目標・概要 | <p>●1年生初修クラス 文科生クラス、理科生クラスともに、一列・二列の授業では、共通教材を用いて授業を行います。はじめの数回の授業において文字と発音を完全に習得した後、引き続き、さまざまな文法事項と語彙を学んでいきます。 この授業では、一年間を通じて、基礎文法を完全に習得し、辞書を引きながら新聞・雑誌記事を読める程度、また簡単な内容ならば、自分の考えや意見を表現できる程度の力を身につけることを目指します。 文科生はこのほか、韓国人教員が担当する「初級（演習）①」を履修し、基礎知識の応用をはかっています。理科生には、文科生の「初級（演習）①」に相当する「初級（演習）」が設けられているので、積極的に参加して下さい。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 定期テストと平常点（出席、小テスト、課題など） | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 ことばの架け橋 [再改訂試用版] | | | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | | | |
| 時間割コード | 曜限 | 授業科目名 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 30078 | 月 2 | 韓国朝鮮語一列① | 永原 歩 | 121 教室 | 1年 理一(6) |
| 30417 | 火 3 | 韓国朝鮮語一列① | 月脚 達彦 | 1224 教室 | 1年 文一二(5)文三(5) |
| 30549 | 火 4 | 韓国朝鮮語一列① | 生越 直樹 | K113 | 1年 理二三(5) |
| 30977 | 木 3 | 韓国朝鮮語二列 | 伊藤 英人 | 162 教室 | 1年 文一二(5)文三(5) |
| 31011 | 木 3 | 韓国朝鮮語二列 | 生越 直樹 | K113 | 1年 理二三(5) |
| 31104 | 金 1 | 韓国朝鮮語二列 | 三ツ井 崇 | 155 教室 | 1年 理一(6) |

基礎科目 イタリア語

| イタリア語 | 開講区分 | S |
|--|------|---|
| <p>授業の目標・概要</p> <p>●初修クラス 「一、二列」では、発音からはじまり、初級文法を、SセメスターからAセメスターの前半までの期間に習得することが目標です。Aセメスター後半は、比較的平易な現代文を中心としたテキストの読解と、文法知識の整理にあてます。教科書は東京大学イタリア語教材編集委員会編の『イタリア語のスタート』（白水社）と、中級読解用テキスト『ピアッツァ』（東京大学出版会）を使用します。あわせて、ネイティブスピーカーの教員による、文法知識の定着と自然なイタリア語の習得のための「演習」が文科生には必修科目として開講されています。理科生は総合科目Lの「イタリア語初級（演習）」として選択できます。積極的に履修・参加して、表現力を身につけてください。さらに選択可能な総合科目Lの科目として、初級の会話・作文も開講されているので、積極的に受講してください。</p> <p>Sセメスターの基本的な学習項目は以下のようになります。 1) 発音 2) イタリア語の文の基本的な成り立ち 3) 名詞の性と数 4) 主語人称代名詞と動詞 essere 5) 形容詞 6) 指示代名詞と指示形容詞 7) 動詞 avere 8) 規則動詞の現在活用形 9) 不規則動詞 10) 疑問詞 11) 前置詞と冠詞の結合形 12) 補助動詞 13) 近過去 14) 再帰動詞 15) 未来</p> <p>●既修クラス 総合科目Lとして開講されている中・上級の演習・会話・作文・表現練習・読解・インテンシヴの授業を組み合わせることで受講することが可能です。イタリア語の習得を通して、音楽、芸術、映画、デザインなど、文化のさまざまな分野に関して、新しいテーマを素材に用い、現代社会のさまざまな側面についてもふれます。</p> <p>成績評価方法 平常点と定期試験</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名 Italiano... in partenza! イタリア語のスタート 文法と練習 著者(訳者) 東京大学イタリア語教材編集委員会編 出版社 白水社 ISBN ISBN978-4-560-01763-0</p> <p>関連ホームページ http://langue-fr.c.u-tokyo.ac.jp</p> <p>※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること</p> | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 授業科目名 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
|------------|----|----------|--------|--------|-----------|
| 30058 | 月2 | イタリア語一列① | 村松 真理子 | K402 | 1年 文三(6) |
| 30119 | 月3 | イタリア語一列① | 山崎 彩 | 108 教室 | 1年 理一(7) |
| 30120 | 月3 | イタリア語一列① | 宮坂 真紀 | 158 教室 | 1年 理一(8) |
| 30418 | 火3 | イタリア語一列① | 池上 俊一 | 157 教室 | 1年 文一二(6) |
| 30550 | 火4 | イタリア語一列① | 宮坂 真紀 | 109 教室 | 1年 理二三(6) |
| 30690 | 水2 | イタリア語二列 | 宮坂 真紀 | 108 教室 | 1年 理一(8) |
| 30928 | 木2 | イタリア語二列 | 村松 真理子 | 107 教室 | 1年 文三(6) |
| 30978 | 木3 | イタリア語二列 | 池上 俊一 | 104 教室 | 1年 文一二(6) |
| 31043 | 木4 | イタリア語二列 | 山崎 彩 | 153 教室 | 1年 理一(7) |
| 31052 | 木4 | イタリア語二列 | 宮坂 真紀 | 158 教室 | 1年 理二三(6) |

基礎科目 日本語

| 日本語 | | 開講区分 | S | | | |
|---------------------------------|--|------|--------|-------|--------|----------|
| 授業の目標・概要 | <p>[注意事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎科目一列①、基礎科目二列を、一年次Sセメスターに履修すること。 日本語科目（基礎科目一列、二列C、二列P、総合科目L系列、選択必修科目）の履修方法やカリキュラム等について、基礎科目一列①の初回授業で説明があるので、必ず出席すること。 基礎科目一列、および、基礎科目二列(S1)の初回授業に必ず出席すること。 基礎科目二列(S1)の初回授業に必ず出席に日本語能力テストを受験すること。日本語を、前期課程外国語科目の既修外国語、或は、[既修・既修選択]の初修外国語相当として選択した学生は、授業開始時に日本語能力テストを受ける必要がある。 総合科目L系列科目(S1, S2)の希望登録について、UTAS上の指示にも留意し従うこと。 <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎科目 日本語一列① 1年生 既修外国語 『テーマで考え議論する日本語 -Active Learning in Academic Japanese -』 文理横断的なテーマに関して、文献リサーチ、読解・聴解、資料収集、調査、協働タスク、ディスカッション、プレゼンテーション等、様々な能動的な協働活動を通して、日本語の諸技能の習得・上達を目指しつつ、現象・問題や他者の意見を適切に理解する力、資料を分析しデータや論拠に基づき考え述べる力、自分の意見を構築し伝える力、議論し合う力、能動的学習力を養う。 一列授業と二列授業とは、連動しつつ相互に相補的な活動を行う。 『基礎科目 日本語一列』で扱うテーマやそのテーマでの読解・聴解・協働タスク・ディスカッション等の活動と連動して、『基礎科目 日本語二列C』（正確な精読、構文・語彙習得中心）、および、『基礎科目 日本語二列P』（アクティブラーニングの発表・プレゼンテーション中心）の授業を行う。 基礎科目 日本語二列C 1年生 既修外国語 『テーマで考え議論する日本語：正確な精読、構文・語彙習得中心』 『基礎科目日本語一列』でのテーマや読解テキスト・活動と連動して、構文・語彙増強、正確な精読や要約・ライティング等を行う。 基礎科目 日本語二列P 1年生 既修外国語 『テーマで考え議論する日本語：アクティブラーニングの発表・プレゼンテーション中心』 『基礎科目日本語一列』でのテーマや読解テキスト・活動と連動して、アクティブラーニングのプレゼンテーション・レポート執筆を行う。 <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合科目 L 系列 「日本語中級」『滑らかに話すための日本語発音』 伝わりやすく自然な発音でコミュニケーションができるようになることを目標とする。また、大学での口頭発表等に必要となる発音の習得を目指す。 総合科目 L 系列 「日本語中級」『文学作品を読む・味わう・まとめる・伝える』 日本の近代から現代にかけての文学に焦点をあて、作品に親しみながら、読む力、まとめる力、伝える力を養う。 総合科目 L 系列 「日本語上級」『読解を通じ、日本の歴史を考える』 日本の歴史について書かれた論説文・歴史小説等の読解を通じ、日本史における事象やその文化的背景についての理解を深め、現代との関わりについて批判的に検討する。 | | | | | |
| 成績評価方法 | <p>「成績評価方法」は、科目・授業列により異なるので、UTAS上のそれぞれの科目のページを参照すること。 全般的に、毎回の授業活動(および予習・復習)を重視し、出席、授業活動参加、ディスカッション、クイズ、宿題等の課題、発表、試験、レポート等を総合して評価する。詳細については第一回目の授業で配布するシラバスで説明する。</p> | | | | | |
| 教科書 | その他。 | | | | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | | | | |
| 時間割コード | 開講 | 曜限 | 授業科目名 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 30336 | S | 火 2 | 日本語一列① | 藤井 聖子 | 10-205 | 1年 文科 理科 |
| 31127 | S | 金 2 | 日本語一列① | 藤井 聖子 | 10-205 | 1年 文科 理科 |
| 30884 | S 1 | 木 1 | 日本語二列C | 奥川 育子 | 10-205 | 1年 文科 理科 |
| 31287 | S 1 | 金 5 | 日本語二列C | 奥川 育子 | 10-205 | 1年 文科 理科 |
| 40211 | S 2 | 木 1 | 日本語二列P | 奥川 育子 | 10-205 | 1年 文科 理科 |
| 40234 | S 2 | 金 5 | 日本語二列P | 奥川 育子 | 10-205 | 1年 文科 理科 |

情報

| | 情報 | 開講区分 | S |
|---------------------------------|--|------|---|
| 授業の目標・概要 | <p>※「情報」初回の授業は情報教育棟大演習室[E31 または E21]で行う。</p> <p>※ オンライン新規利用者講習を受講して ECCS の利用ができるようにしておくこと。</p> <p>現代社会においては、すべての人が多様な場と状況において、情報システムとかわらざるをえない。その際に正しくかつ適切な対応をするためには、情報の技術面だけでなく、その人間のおよび社会的な側面の正しい理解が必要である。</p> <p>これは情報社会人の基本的素養であり、“知ることによって無知から自由になることができる”という意味であるリベラルアーツそのものと言うことができる。</p> <p>本科目の目的は、このような素養を、講義と演習とを通じて身に付けることである。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の人間に関連する側面 表現、認知、伝達 ・情報の社会に関連する側面 情報システム、情報関連の法、技術と社会 ・情報の問題解決に関する側面 データと計算のモデル、計算の複雑さ <p>のそれぞれを、独立にはなく、他の側面の理解が可能なレベルまで掘り下げて学ぶ。</p> <p>この科目の目的は、いわゆる「利用・活用」の方法を習うことではない。</p> <p>なお、高等学校の教科「情報」で学ぶ項目のうち、機器操作の方法、Web ブラウザ、電子メール、デジタルの概念、著作権・知的財産権の基本、などは「既習」であることを前提とする。</p> | | |
| 成績評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・全クラス共通の試験問題による定期試験を実施するが、教員が独自の問題を追加で出題することがある。 ・共通試験の出題範囲は「関連ホームページ」の「教科書の目次と必修学習項目」で指定されたものである。 ・定期試験の採点は教員ごとに行なう。 ・成績評価の方法は教員による。 <p>(定期試験のみ、レポートを加味、そのほか)</p> | | |
| 教科書 | <p>次の教科書を使用する。</p> <p>書名 情報 第2版 (Introduction to the New Information World, 2nd Edition)</p> <p>著者(訳者) 山口和紀[編]</p> <p>出版社 東京大学出版会</p> <p>ISBN 978-4-13-062457-2</p> | | |
| 関連ホームページ | <p>http://www.edu.c.u-tokyo.ac.jp/edu/information.html</p> | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | |

| 時間割コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
|--------|-----|-------|--------|--------------------------|
| 30053 | 月 2 | 山口 文彦 | E31 教室 | 1年 文一二(9-11) |
| 30079 | 月 2 | 辰己 丈夫 | E21 教室 | 1年 理一(8,18,34) |
| 30148 | 月 3 | 木下 裕介 | E31 教室 | 1年 理一(13,21-22) |
| 30155 | 月 3 | 辰己 丈夫 | E21 教室 | 1年 理一(24,30,35-36) |
| 30205 | 月 4 | 齋藤 俊則 | E31 教室 | 1年 文一二(14,16,20) |
| 31745 | 月 4 | 柴山 悦哉 | E21 教室 | 1年 理一(17)理二三(16,19) |
| 30292 | 火 1 | 松島 慎 | E21 教室 | 1年 文一二(7)文三(5-6,17) |
| 30300 | 火 1 | 教員未定 | E31 教室 | 1年 文三(18-20) |
| 30444 | 火 3 | 上條 俊介 | E21 教室 | 1年 文一二(15,18,26)文三(15) |
| 30522 | 火 4 | 上條 俊介 | E21 教室 | 1年 文一二(17)文三(4,9-10) |
| 30577 | 火 5 | 田中 哲朗 | E31 教室 | 1年 理一(25-27) |
| 30581 | 火 5 | 山口 和紀 | E21 教室 | 1年 理二三(4-5,13,15) |
| 30608 | 水 1 | 池尻 良平 | E21 教室 | 1年 理一(7,15,33) |
| 30682 | 水 2 | 藤垣 裕子 | E31 教室 | 1年 文三(1-3,7,11,14,16) |
| 31746 | 水 2 | 池尻 良平 | E21 教室 | 1年 理一(5,29)理二三(22) |
| 30768 | 水 3 | 山口 泰 | E21 教室 | 1年 理一(1-3,31)理二三(1-3,14) |
| 30796 | 水 4 | 中村 政隆 | E21 教室 | 1年 文一二(19,21-22) |
| 30798 | 水 4 | 森畑 明昌 | E31 教室 | 1年 文一二(23-25)文三(12) |

| | | | | |
|-------|-----|----------|--------|-------------------------|
| 30921 | 木 2 | 萩谷 昌己 | E31 教室 | 1 年 文一二(8,12-13) |
| 31747 | 木 2 | 羽山 博 | E21 教室 | 1 年 理一(37)理二三(11,18) |
| 31005 | 木 3 | 萩谷 昌己 | E31 教室 | 1 年 理一(6,14,19) |
| 31012 | 木 3 | 石井 健太郎 | E21 教室 | 1 年 理二三(6-7,21) |
| 31044 | 木 4 | 落合 秀也 | E31 教室 | 1 年 理一(10-12) |
| 31054 | 木 4 | 石井 健太郎 | E21 教室 | 1 年 理二三(10,12,24) |
| 31102 | 金 1 | 品川 高廣 | E21 教室 | 1 年 理一(4,9,16) |
| 31107 | 金 1 | 福永 アレックス | E31 教室 | 1 年 理一(38-39)理二三(17) |
| 31187 | 金 3 | 中村 政隆 | E21 教室 | 1 年 文一二(27-28)文三(13) |
| 31198 | 金 3 | 蔡 東生 | E31 教室 | 1 年 理一(28)理二三(8-9,23) |
| 31226 | 金 4 | 川崎 真弘 | E21 教室 | 1 年 文一二(1-6)文三(8) |
| 31250 | 金 4 | 蔡 東生 | E31 教室 | 1 年 理一(20,23,32)理二三(20) |

身体運動・健康科学実習 I

| 身体運動・健康科学実習 I | | 開講区分 | S |
|---------------------------------|--|------|---|
| 授業の目標・概要 | <p>週1回の授業を通じて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.身体および身体運動に関する知識を習得する。 2.自らの身体運動を対象とする実験実習や実技実習を通じて、事物の本質的理解（肌でわかる・体感する）のための基礎技術を習得する。 3.スポーツやトレーニングなどの文化的身体運動の実習による動きの改善・身体能力の向上を通じて、自己の身体の管理・操作技術を習得する。 4.生涯教育としての心身の健康教育・運動習慣の基礎作りを行う。 | | |
| 授業計画 | <p>第1回 教室で教科書を用いた授業（教室は掲示を参照） 第2回 体力テスト 第3回 教室で教科書を用いた授業 種目選択 第4回から 選択した種目での授業</p> <p> Semester中に2度、身体運動の科学的理解を目的とした共通授業を行う。共通授業はコミュニケーションプラザ北館3階の身体運動実習室で行う。 この他天候等により体育館種目が別の場所に移動し、外種目を体育館で行うこともあるので、9号館前の掲示板を見ること。</p> | | |
| 授業の方法 | <p>第3回目の授業で、種目選択を行う。スポーツコース（テニス、サッカー等）、フィットネスコース、サイエンスコースから選択する。その曜限に開設されている種目と説明は http://idaten.c.u-tokyo.ac.jp/shintai/を参照のこと。 種目選択以降は、各種目に分かれて行う。 基本的には自分の身体を動かして、実習することが第一であるが、各種目により様々なアプローチがなされる。 Semester中に2回、身体運動の科学的理解を目的とした共通授業を、通常とは別の場所で行う。教室での授業、身体運動の科学的理解のための授業だけでなく、通常の授業でも教科書『教養としての身体運動・健康科学』を用いるので、毎回持ってくる。毎回の授業における心拍数、体力テストの結果等も教科書に記入する。 通常授業での説明、教室での授業内容、科学的理解の授業、体力テスト等によって、Semester末にレポートを提出する。</p> | | |
| 成績評価方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1 出席 身体運動・健康科学実習の意義は実際に身体を動かすことで、身体運動の科学的法則を認識するとともに、健康・体力・技能を増進し、またその方法を習得することにある。そこで出席（遅刻、早退、見学を含む）はきわめて重視される。 2 達成度 各自が選択履修している授業について、学習達成度の評価を行う。 3 体力テスト 4月と12月に行い、評価に含める。 4 レポート 通常授業での説明、教室での授業内容、体力テストの結果等を受けて、Semester末にレポートを提出する。 5 その他 授業中にどのような態度で参加し、どのように自己の役割を認識し、実行しているか、学習内容をどれだけ理解しているのか、等を評価する。 | | |
| 教科書 | <p>次の教科書を使用する。</p> <p>書名 教養としての身体運動・健康科学 著者（訳者） 東京大学身体運動科学研究室編 出版社 東京大学出版会</p> | | |
| 履修上の注意 | <p>種目選択後の種目変更は、特別な事情（病気、怪我など）が無い限り認めない。</p> | | |
| 学習上のアドバイス | <p>盗難が多いので注意する。体育館は、土足、飲食禁止。</p> | | |
| 関連ホームページ | <p>http://idaten.c.u-tokyo.ac.jp/shintai/</p> | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | |

| 時間割コード | 曜限 | 授業科目名 | 担当教員 | 対象クラス |
|--------|----|---------------|------|---|
| 30039 | 月2 | 身体運動・健康科学実習 I | 実技担当 | 1年 文一二(4,23)文三(16-17)理一(7,10-11,17,20,26,38) |
| 30454 | 火3 | 身体運動・健康科学実習 I | 実技担当 | 1年 文三(18)理一(22-23,29-30,32,34-37,39) |
| 30521 | 火4 | 身体運動・健康科学実習 I | 実技担当 | 1年 文一二(13)文三(8,14,19-20)理一(24-25)理二三(1-3,7,17,21) |
| 30723 | 水3 | 身体運動・健康科学実習 I | 実技担当 | 1年 文一二(8,14,27)文三(9)理一(12,18-19,27)理二三(5-6,8) |
| 30795 | 水4 | 身体運動・健康科学実習 I | 実技担当 | 1年 文一二(16)理一(8,13-15)理二三(9-12,14-15) |
| 30906 | 木2 | 身体運動・健康科学実習 I | 実技担当 | 1年 文一二(1-3,5-6,24-25,28)文三(1-5,11)理一(1-3,6,21)理二三(4,16) |
| 30979 | 木3 | 身体運動・健康科学実習 I | 実技担当 | 1年 文一二(9)文三(6)理一(4-5,9,16)理二三(13,18,22-24) |
| 31178 | 金3 | 身体運動・健康科学実習 I | 実技担当 | 1年 文一二(11,15,18-20,26)文三(7,10,12,15)理二三(20) |
| 31227 | 金4 | 身体運動・健康科学実習 I | 実技担当 | 1年 文一二(7,10,12,17,21-22)文三(13)理一(28,31,33)理二三(19) |

身体運動・健康科学実習Ⅱ

| 身体運動・健康科学実習Ⅱ | | 開講区分 | S | |
|---------------------------------|--|------------------|------|----------|
| 授業の目標・概要 | <p>週1回の授業を通じて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.身体および身体運動に関する知識を習得する。 2.自らの身体運動を対象とする実験実習や実技実習を通じて、事物の本質的理解（肌でわかる・体感する）のための基礎技術を習得する。 3.スポーツやトレーニングなどの文化的身体運動の実習による動きの改善・身体能力の向上を通じて、自己の身体の管理・操作技術を習得する。 4.生涯教育としての心身の健康教育・運動習慣の基礎作りを行う。 | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 月曜3限または火曜2限で開講されている総合科目D系列「スポーツ・身体運動実習」の種目選択を実施する場所に集合し（場所は9号館前掲示板を参照）、この授業用に開講されている1種目（開講種目は未定）に登録手続きを行い、担当教員からガイダンスを受ける。</p> <p>第2回以降 この曜限で開講されている種目での通常授業</p> <p>*セメスター中に2度、身体運動の科学的理解を目的とした共通授業を行う。</p> | | | |
| 授業の方法 | <p>基本的には自分の身体を動かして実習することが第一であるが、各種目により様々なアプローチがなされる。</p> <p>セメスター中に2回、身体運動の科学的理解を目的とした共通授業を、通常とは別の場所で行う。教室での授業、身体運動の科学的理解のための授業だけでなく、通常の授業でも教科書『教養としての身体運動・健康科学』を用いるので、毎回持ってくること。</p> <p>通常授業での説明、科学的理解のための共通授業等によって、セメスター末にレポートを提出する。</p> | | | |
| 成績評価方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1 出席 身体運動・健康科学実習の意義は実際に身体を動かすことで、身体運動の科学的法則を認識するとともに、健康・体力・技能を増進し、またその方法を習得することにある。そこで出席（遅刻、早退、見学を含む）はきわめて重視される。 2 達成度 各自が選択履修している授業について、学習達成度の評価を行う。 3 体力テスト（未定） 4 レポート 通常授業での説明、共通授業等を受けて、セメスター末にレポートを提出する。 5 その他 授業中にどのような態度で参加し、どのように自己の役割を認識し、実行しているか、学習内容をどれだけ理解しているのか、等を評価する。 | | | |
| 教科書 | <p>次の教科書を使用する。</p> <p>書名 教養としての身体運動・健康科学 著者（訳者） 東京大学身体運動科学研究室編 出版社 東京大学出版会</p> | | | |
| 履修上の注意 | <p>1 Aセメスターでクラス指定された「身体運動・健康科学実習Ⅱ」の履修登録を削除した者（2Sで履修するために）、および1Aセメスターの「身体運動・健康科学実習Ⅱ」の単位未取得者が対象となります。</p> | | | |
| 学習上のアドバイス 関連ホームページ | <p>盗難が多いので注意する。体育館は、土足、飲食禁止。傷害保険に加入することが望ましい。 http://idaten.c.u-tokyo.ac.jp/</p> | | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | | |
| 時間割 コード | 曜限 | 授業科目名 | 担当教員 | 対象クラス |
| 31774 | 月3 | 身体運動・健康科学実習Ⅱ(2S) | 実技担当 | 2年 文科 理科 |
| 31775 | 火2 | 身体運動・健康科学実習Ⅱ(2S) | 実技担当 | 2年 文科 理科 |

身体運動・健康科学実習 (メデikalケア)

| 身体運動・健康科学実習 (メデikalケア) | | 開講区分 | S |
|---------------------------------|--|------|---|
| 授業の目標・概要 | 週1回の授業を通じて 1.身体および身体運動に関する知識を習得する。 2.自らの身体運動を対象とする実験実習や実技実習を通じて、事物の本質的理解(肌でわかる・体感する)のための基礎技術を習得する。 3.スポーツやトレーニングなどの文化的身体運動の実習による動きの改善・身体能力の向上を通じて、自己の身体管理・操作技能を習得する。 4.生涯教育としての心身の健康教育・運動習慣の基礎作りを行う。 | | |
| 授業計画 | 第3回目までの授業は、クラス指定された身体運動・健康科学実習の曜限で受講する。体力テストは見学する。第3回目の種目選択で、履修する曜限を決め、第4回目以降からそのメディカルケアの曜限で受講する。各自の状態に合わせて、実習を行う。 | | |
| 授業の方法 | 基本的には自分の身体を動かして、実習することが第一であるが、各自の状態により様々なアプローチがなされる。教科書『教養としての身体運動・健康科学』を用いるので、毎回持ってくる。セメスター末にレポートを提出する。 | | |
| 成績評価方法 | 1 出席 身体運動・健康科学実習の意義は実際に身体を動かすことで、身体運動の科学的法則を認識するとともに、健康・体力・技能を増進し、またその方法を習得することにある。そこで出席(遅刻、早退、見学を含む)はきわめて重視される。 2 達成度 各自の学習達成度について評価を行う。 3 レポート 授業での説明、実習内容、その結果等を受けて、セメスター末にレポートを提出する。 4 その他 授業中にどのような態度で参加し、どのように自己の役割を認識し、実行しているか、学習内容をどれだけ理解しているのか、等を評価する。 | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 教養としての身体運動・健康科学 著者(訳者) 東京大学身体運動科学研究室編 出版社 東京大学出版会 | | |
| 履修上の注意 | 第1～3回目まで、クラス指定された身体運動・健康科学実習の授業に参加する。第4回目からメディカルケアコースの曜限に移行する。 | | |
| 学習上のアドバイス | 盗難が多いので注意する。体育館は、土足、飲食禁止。 | | |
| 関連ホームページ | http://idaten.c.u-tokyo.ac.jp/ | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | |

| 時間割コード | 曜限 | 授業科目名 | 担当教員 | 対象クラス |
|--------|----|-------------------------|------|----------|
| 30007 | 月1 | 身体運動・健康科学実習Ⅰ(メデikalケア3) | 実技担当 | 1年 文科 理科 |
| 31781 | 月1 | 身体運動・健康科学実習Ⅱ(メデikalケア3) | 実技担当 | 2年 文科 理科 |
| 30252 | 月5 | 身体運動・健康科学実習Ⅰ(メデikalケア1) | 実技担当 | 1年 文科 理科 |
| 31782 | 月5 | 身体運動・健康科学実習Ⅱ(メデikalケア1) | 実技担当 | 2年 文科 理科 |
| 30311 | 火1 | 身体運動・健康科学実習Ⅰ(メデikalケア3) | 実技担当 | 1年 文科 理科 |
| 31783 | 火1 | 身体運動・健康科学実習Ⅱ(メデikalケア3) | 実技担当 | 2年 文科 理科 |
| 30620 | 水1 | 身体運動・健康科学実習Ⅰ(メデikalケア2) | 実技担当 | 1年 文科 理科 |
| 31784 | 水1 | 身体運動・健康科学実習Ⅱ(メデikalケア2) | 実技担当 | 2年 文科 理科 |

初年次ゼミナール文科の履修について

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミックスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法（剽窃の防止を含む）、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法を、第2回目の合同授業で学ぶ。

初年次ゼミナール文科はクラス指定の必修科目であり、以下の共通目標が定められている。

クラスごとに指定されたグループ（各2曜限）に開講されている授業のうち、1授業を選択して受講する。希望が集中した場合は抽選となる。本冊子とともに配布されたプリント「【重要】履修登録について」の該当箇所にしたがって、登録期間内に必ず履修希望登録を行うこと。なお、履修希望は必ず第8希望まで登録すること。

文科の2年生で初年次ゼミナール文科の単位を未取得の者（平成26年度以前の入学者については基礎演習の単位未取得の者）は、科目登録方法が通常他クラス聴講等の手続きとは異なるので、同じく「【重要】履修登録について」を注意して読んでおくこと。

第1回授業時には、合同のガイダンスを行う。授業教室とは別の教室で行われるので注意すること。履修希望の授業を第8希望まで登録することから、できる限り指定されたグループの授業が行われる2曜限とも出席することを勧める。ガイダンスが行われる教室については、掲示板等で告知する。

第2回授業時には、合同で、アカデミックマナーおよびアカデミックスキルに関するレクチャーと情報検索実習を行う。各自指定された曜限に授業を受けること。この回はカードリーダーで出欠を取るため、必ず学生証を持参し、早めに教室に来ること。第2回授業の出席曜限の指定および教室の決定は概ね第1回授業時頃までに行い、掲示板等で通知する。

第3回目からは、少人数に分かれたクラスで授業が行われる。UTASにて決定された履修授業と教室を確認すること。

この授業の共通教材として『読む、書く、考える - 東京大学 初年次ゼミナール文科 共通テキスト-』を第2回目の授業時に全員に配布する。授業に持参するとともに、発表準備や論文執筆の前に熟読すること。

この授業に関する授業外サポートとして、大学院生が学習相談に応じるラーニングコモンズを21 KOMCEE West 地下のスペースで開く。開室時間や利用方法等については、授業時に告知する。

クラスごとの指定グループは下表のとおりである。

| グループ名 | 開講曜限 | 対象クラス |
|-------|-------|--|
| グループ1 | 月4・水4 | 1年 文一二(4,6-7,28)文三(4,16,18) |
| グループ2 | 火1・木2 | 1年 文一二(10,19,26-27)文三(7,9,13) |
| グループ3 | 火3・木3 | 1年 文一二(8,12,14,17)文三(10,12,14) |
| グループ4 | 火4・金1 | 1年 文一二(1-3,5,11,15-16,22)文三(1-3,11,15) |
| グループ5 | 水2・金3 | 1年 文一二(13,21,24-25)文三(5,8,20) |
| グループ6 | 水3・金4 | 1年 文一二(9,18,20,23)文三(6,17,19) |

初年次ゼミナール文科

グループ1 1年 文一二(4,6-7,28)文三(4,16,18)

| グループ1 1年 文一二(4,6-7,28)文三(4,16,18) | | | | | |
|-----------------------------------|----|---|---------------|--------|--------|
| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
| 31675 | 月4 | 中国古典詩（漢詩）を読み解く | 田口 一郎 | 国文・漢文学 | 119 教室 |
| 授業の目標・概要 | | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 陶淵明・李白・杜甫などの詩人・作品について、感想文や引用の羅列でない、学術的な（小）論文を書くことを目標とします。資料の検索方法や適切な引用方法、工具書の使用法、論理的な読解方法など、古典文学研究に必要なスキルを学んでいきます。中国語を履修（予定）していなくてもかまいません。</p> <p>【学術分野】国文・漢文学 【授業形態】文献批評型</p> | | | |
| 成績評価方法 | | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | |
| 授業のキーワード | | 漢詩、漢文、古典、翻訳、日本文学、中国文学 | | | |
| 教科書 | | 教科書は使用しない。 | | | |
| 参考書 | | 次の参考書を使用する。 | | | |
| ガイダンス | | <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | |
| 31676 | 月4 | 基礎心理学の基礎知識 | 本吉 勇 | 心理・教育学 | 517 教室 |
| 授業の目標・概要 | | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 代表的な教科書を足がかりに、人間の心や精神を科学的に研究するための基本的な方法を学ぶ。さらに、知覚、認知、記憶、思考、感情など主要な心の機能に関する認知心理学の実験や理論の文献を実際に読み解くことによって、用語や考え方を理解するための初歩的なスキルと批判精神を身につける</p> <p>【学術分野】心理・教育学 【授業形態】文献批評型</p> | | | |
| 成績評価方法 | | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | |
| 授業のキーワード | | 心理学、人間科学、認知科学、脳科学 | | | |
| 教科書 | | 授業中に指示をする。 | | | |
| 参考書 | | 次の参考書を使用する。 | | | |
| ガイダンス | | <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 書名 マイヤーズ心理学 著者（訳者） デーヴィッドマイヤーズ 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | |
| 31677 | 月4 | 東京の産業地区の変化と課題 | 松原 宏 鎌倉 夏来 | 人文地理学 | K303 |
| 授業の目標・概要 | | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 東京には、特徴のある産業が比較的狭い地域に集まっている産業地区がいくつもあります。この授業では、地図作業や統計分析、現地調査を通じて、そうした地区の歴史的变化や現状についての理解を深めるとともに、今後の課題について考えていくことにします。</p> <p>【学術分野】人文地理学 【授業形態】フィールド型</p> | | | |
| 成績評価方法 | | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | |
| 授業のキーワード | | 東京、産業集積、都市化、グローバル化、空洞化 | | | |
| 教科書 | | 教科書は使用しない。 | | | |
| 参考書 | | 次の参考書を使用する。 | | | |
| ガイダンス | | <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|------------|--------|------|--------|
| 31678 | 月 4 | 政治における因果関係 | 鹿毛 利枝子 | 法・政治 | 120 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 政治の世界において、「因果関係」とはどのように考えられるのだろうか。どのような条件の下でそれが「あり」、どのような条件の下でそれが「なかった」と判断できるのだろうか。この授業では、教科書（下記参照、ガイダンスの際にも説明）と受講者各自の選ぶ題材をもとに、考える。</p> <p>【学術分野】法・政治 【授業形態】ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、グループや個人での発表、議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 政治学、因果関係、比較政治 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 『原因を推論する』 著者（訳者） 久米郁男 出版社 有斐閣 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31679 | 月 4 | 指標から社会を見る | 岡田 晃枝 | 国際関係 | K401 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 国民がどれくらい幸せなのかを示す幸福度、国内社会がどのくらい民主的なのかを示す民主化度、国民がどのくらい自分の将来を自由に選択できる社会かを示す人間開発指数等、社会の質的側面を表す指標に注目する。それらの指標がどのような要素から構成されているかを知り、同程度の国家間の制度や社会状況を比較するなど、学術的な議論ができるようになることを目指す。</p> <p>【学術分野】国際関係 【授業形態】ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 質的データ、量的データ、民主化度、幸福度、人間開発指数、政治的自由 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31705 | 水 4 | ナチズムを考える | 石田 勇治 | ドイツ語 | 517 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 今年はいまはワイマール憲法制定から 100 周年にあたる。当時世界で最も民主主義的と称された憲法を擁し、カントとゲーテの国ともいわれたドイツで、なぜ野蛮なナチズムが台頭し、ヒトラー独裁が生じたのか。そしてその下でなぜホロコーストなど未曾有の国家的犯罪が引き起こされたのか。この授業では、世界現代史に大きな影響を及ぼしたナチズムが内包する諸問題と取り組みながら、批判的学術研究の方法を習得するための訓練を行う。</p> <p>【学術分野】 歴史学、地域文化研究 関連分野として、政治、社会・社会思想史、国際関係</p> <p>【授業形態】ディシプリン型（学際性） ひとつの分野に拘らず、分野横断的なアプローチの手法の習得をめざす</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 現代史、ワイマール、民主主義と独裁、反知性主義、レイシズムと反ユダヤ主義 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| 参考書 | 書名 『ヒトラーとナチ・ドイツ』 著者（訳者） 石田勇治 出版社 講談社（現代新書） 次の参考書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 その他 参考文献リストを配布する 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-----------------|--------|--------|--------|
| 31706 | 水 4 | 「偉人伝」を読む | 永井 久美子 | 国文・漢文学 | 118 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 子ども向けのものを含め、これまでに偉人伝に接してきた人は多いだろう。感動し、敬意を表する「純粋な」読み方も、もちろん存在する。ただしこの授業では、何が「偉業」とされ、それがどのような表現を用いて語られているかを、客観的に分析してもらおう。その分析を通して、時代や社会が求める理想の人物像とは何かについて考察してほしい。</p> <p>取り上げる伝記は各自が自由に選択するものとし、時代や地域は不問とする。評伝のほか、映画や漫画も分析対象としてよい。また、問題を論じるうえで必要な場合は、複数の人物や書物についての比較対照を行ってもよい。</p> <p>授業では、選択したテーマの概要について各自に発表を行ってもらうほか、小論文の草稿についての意見交換を行うことを通して、最終課題の完成度を高めてゆく。</p> <p>【学術分野】国文・漢文学 【授業形態】文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | <p>発表および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 草稿は期限内に提出されたもののみを評価の対象とする。</p> | | | | |
| 授業のキーワード | <p>人物伝、批評、問題意識</p> | | | | |
| 教科書 | <p>教科書は使用しない。</p> | | | | |
| 参考書 | <p>次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会</p> | | | | |
| ガイダンス | <p>第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 31707 | 水 4 | 国際関係について理論的に考える | 湯川 拓 | 国際関係 | 518 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 国際関係論（国際政治学）という学問の見地から、国家間の協調と対立について理論的に考察する。具体的には、戦争・国際機構・地域主義・人権・内戦（平和構築）などのテーマについて考えることになる。</p> <p>最初に、研究者によって書かれた学術論文を読むことで「リサーチとは何か」という点を実感してもらったうえで、自分たち自身で研究を行い、それを報告し、最終的にはペーパーとしてまとめる。</p> <p>「国際関係論」の専門的知識を養うことだけではなく、こうした作業を通して基本的なアカデミックスキル（適切なリサーチデザインを立てる、報告する、論文を執筆する）、特に論理的思考を身につけることを重視する。</p> <p>【学術分野】国際関係 【授業形態】ディシプリン型 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | <p>出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。</p> | | | | |
| 授業のキーワード | <p>国際関係、戦争と平和、国際制度</p> | | | | |
| 教科書 | <p>教科書は使用しない。</p> | | | | |
| 参考書 | <p>次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会</p> | | | | |
| ガイダンス | <p>第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|------------------------|-------|-----------|------|
| 31708 | 水 4 | 都市と文学 —東京をテキストとして読む | 谷本 道昭 | 教養教育高度化機構 | K402 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 東京やパリといった都市は、近代以降、出版資本主義の到来とともに、創作、出版、読者・批評受容の中心地となることで、文学の首都としての地位を確立していった。出版資本主義の黎明期、勃興期を生き抜いた作家たちは、意識的あるいは無意識的に都市を主題化することで、都市のあり様と緊密に結びついた文学を創造し、フランスでは19世紀前半から中盤に、東京では19世紀後半から20世紀前半(明治、大正期から昭和初期)に、多種多様な都市=文学が誕生する。都市の姿を写し取るようにして紡ぎ出された都市=テキストは、やがて都市そのものをも包み込み、現実の都市とは別の生を生きていくこととなる。</p> <p>本演習では、19世紀フランス文学と日本近代文学の事例を参考にしながら都市と文学の関係を概観したうえで、明治維新から百年間の都市東京と密接に関わる小説、詩、エッセイなどを収めるアンソロジー『東京百年物語』(全三冊、岩波文庫、2018年)——特に第二分冊の『東京百年物語2 1910-1940』を教材に、「東京」を都市=テキストとして読み解いていく。その際、テキストを狭義の文学研究の方法に従って解釈することに自足せず、文学、社会学、歴史学などを横断的に包括する都市論、出版文化史の視座から複眼的に分析し論じることを目指す。学生には、文献の読解、調査に加え、グループワーク、プレゼンテーションを通じて主体的に授業に参加してもらいたい。教室内外での学習にとどまらず、実地にフィールド調査に赴くことで見えてくるものも多くあるだろう。</p> <p>【学術分野】文学・人文学</p> <p>【授業形態】文献批評型 フィールド型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 東京、パリ、都市、都市論、文学 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 『東京百年物語2 1910-1940』 著者(訳者) ロバート キャンベル、十重田裕一、宗像和重編 出版社 岩波書店 ISBN 4003121724 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|----|--|-------|------|--------|
| 31709 | 水4 | 本（テキスト）を読む、とは何をする事 なのか —E.H.カー『危機の二十年』を題材に— | 馬路 智仁 | 国際関係 | 119 教室 |
| 授業の目標・概要 | | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 人文・社会科学を学ぶ上で最も基本的かつ重要な作業は、本や論文を読むということです。では本を読む、とは一体何をする事なののでしょうか。単に自身にとって利用価値の高い情報を入手することなのでしょうか。自身の人生にとっての教訓を見つけることなのでしょうか。あるいは筆者の主張を発見し、それを記憶することなのでしょうか。本授業では、本（テキスト）を読むという根本的作業の訓練を行います。具体的には、テキストを文脈（コンテキスト）の中に位置付け、そのコンテキストの中でテキストの意味や意図を読解するという作業の練習を行います。また、テキストがそれ固有のコンテキストを離れて別のコンテキストに置き換えられたとき、そのテキストがいかなる新たな意味を帯びるのか、について考えます。総じて、本を読むという作業は、多重に織り成されるコンテキストの中でテキストを創造的に読解することであるという姿勢を身に着けることを目標とします。</p> <p>本授業では、以上のようなテキストとコンテキストが作る螺旋的連関を、国際関係論の古典である E.H.カー『危機の二十年』（原著 1939 年）を通じて学びます。第二次大戦前夜から今日まで読み継がれている『危機の二十年』ですが、その読まれ方は果たして一様だったのでしょうか。読まれ方、解釈のされ方が時代によって異なっているとしたら、それは何故なのでしょう。その解釈は、カー自身が込めた意味や意図と同じだったのでしょうか、あるいはどのように違っていたのでしょうか。なぜ、著者自身の意図と異なった読まれ方が許容されるのでしょうか。このような疑問に答えるため、カー自身のコンテキスト（そのテキストが書かれた政治的・文化的文脈やカーの知的経歴）や再コンテキスト化された状況（同時代や後年のアメリカ、日本においてどのように読まれたか）をpushしあえつつ、『危機の二十年』を読解していきます。</p> <p>本授業は、主に歴史や政治思想史、国際関係論に関心のある学生を念頭に置いています。ただし限定はしません。</p> <p>【学術分野】 社会・社会思想史、国際関係 【授業形態】 文献批評型</p> | | | |
| 成績評価方法 | | 出席、報告および議論への知的貢献等の平常点と、小論文とで判断する。 | | | |
| 授業のキーワード | | *小論文については、授業期間内に本授業の内容を踏まえた小論文課題（Essay question）を提示する予定である。 | | | |
| 教科書 | | テキストとコンテキストの連関、解釈の変遷、E.H.カー、『危機の二十年』、政治思想史、国際関係論 教科書は使用しない。 | | | |
| 参考書 | | <p>書名 『危機の二十年 —理想と現実—』 著者（訳者） E.H.カー（原彬久訳） 出版社 岩波書店（岩波文庫）、2011 年</p> <p>次の参考書を使用する。</p> <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会</p> <p>書名 『誠実という悪徳 —E.H.カー、1892-1982—』 著者（訳者） ジョナサン・ハスラム（角田史幸他訳） 出版社 現代思潮新社、2007 年</p> <p>書名 『危機の 20 年と思想家たち —戦間期理想主義の再評価—』 著者（訳者） D.ロング/P.ウィルソン（宮本盛太郎他訳） 出版社 ミネルヴァ書房、2002 年</p> | | | |
| ガイダンス | | 第 1 回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | |
| 31710 | 水4 | ひと味ちがう☆憲法学入門 | 石川 健治 | 法学部 | 120 教室 |
| 授業の目標・概要 | | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 読めなければ、書けない。書けるから、読める——のどとすれば、まずは書くことではなく、読むことから始めるのが道理。日本の憲法学説史上、屈指の名論文として知られる、宮澤俊儀の「国民代表の概念」というテキストを読み抜くことを通じて、読むこと、書くこと、ついでに憲法学の入門まで果たしてしまおう、という本邦初公開（とまではいわないが、私としては初めて）の試みである。</p> <p>【学術分野】 法・政治 【授業形態】 文献批評型</p> | | | |
| 成績評価方法 | | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | |
| 授業のキーワード | | 憲法 国民代表 民主主義 権力、法律学 政治学 社会学、政治史 思想史、転回期 | | | |
| 教科書 | | プリントを配布する。 | | | |
| 参考書 | | <p>書名 国民代表の概念 著者（訳者） 宮澤俊儀 その他 美濃部教授還暦記念『公法学の諸問題・第 2 巻』（有斐閣、1934 年）所収</p> <p>次の参考書を使用する。</p> <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会</p> <p>書名 転回期の政治 著者（訳者） 宮澤俊儀 出版社 岩波文庫</p> | | | |
| ガイダンス | | 第 1 回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | |

| グループ2 1年 文一二(10,19,26-27)文三(7,9,13) | | | | | |
|-------------------------------------|----------|--|------|-----|--------|
| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
| 31680 | 火1 | 史料から知る三・一独立運動 | 外村 大 | 歴史学 | 117 教室 |
| 授業の目標・概要 | | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 1919年、朝鮮で起きた三・一独立運動に関わる史料を読んでいく。具体的には、同時代の報道や朝鮮人の民族運動家の残した文書や後年の回想記、植民地統治に関わった日本人の軍人や政治家の日記などを取り上げる。その作業を通じて、わからないことがあった場合にどのように調べるかや史料批判など、歴史研究の基礎を習得する。</p> <p>【学術分野】 歴史学 【授業形態】 ディシプリン型</p> | | | |
| 成績評価方法 | 授業のキーワード | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | |
| 教科書 | 参考書 | 朝鮮、民族運動、植民地支配、史料、帝国 教科書は使用しない。 次の参考書を使用する。 | | | |
| ガイダンス | | 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | |
| 31681 | 火1 | 学術論文を通して見る 歴史学の世界 | 黛 秋津 | 歴史学 | 115 教室 |
| 授業の目標・概要 | | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 この授業では、皆さんがこれまでまず目にしたことがないと思われる「学術論文」について、徹底的に見てゆこうと思います。学術論文とは何か、何のために書くのか、どのように書くのか、どのような形式・体裁であるべきか、良い論文と悪い論文の違いは何か、など、様々な問題を、多くの事例に触れながら皆で一緒に考えます。履修者の顔ぶれによっては、一部歴史学以外の分野の論文を取り上げることも排除しませんが、担当教員が歴史学を専門とする関係上、取り上げる論文は歴史学に関わるものが中心となります。数多くの歴史学関連の学術論文を目にする中で、学問としての歴史学とはどういうものか、そしてどのような方法で研究すべきなのか、という点についても自ずと理解することになるでしょう。これから踏み入れることになる学問の世界に、皆さんが着実な一歩を踏み出せるようにすることがこの授業の狙いです。</p> <p>【学術分野】 歴史学 【授業形態】 ディシプリン型 文献批評型</p> | | | |
| 成績評価方法 | 授業のキーワード | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | |
| 教科書 | 参考書 | 歴史学、学術論文 教科書は使用しない。 次の参考書を使用する。 | | | |
| ガイダンス | | 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|---|-------|--------|--------|
| 31682 | 火 1 | バーナード・マンデヴィル『蜂の寓話』 (Bernard Mandeville, The Fable of the Bees) を読む。 | 徳盛 誠 | 留学生相談室 | 119 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 十八世紀前半のロンドンで書かれた奇書『蜂の寓話』を読む。「私人の悪徳こそ公共の利得」という挑発的な副題をもつ本書は、真面目とも不真面目ともつかぬ口調で、経済的繁栄、道徳、社会、欲望、等々に関する人びとの常識に思わぬ観点から揺さぶりをかける。経済学も社会学も心理学も学として成り立っていない時代に書かれ、後年、それら諸学に大きな刺激を与えたこの本は、どんな学にも属していない。その意味で、教養学部時代にこそ手に取るのがふさわしい古典である。</p> <p>授業の目標としては、まずは書物をじっくり読むことを身につけること、さらに報告と討議を通じて、この本の中から各人がそれぞれの「問い」を見つけ、その探究を、論文というかたちにする経験をすることである。</p> <p>【学術分野】政治 経済 社会・社会思想史 文化人類学 哲学 心理・教育学</p> <p>【授業形態】文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | マンデヴィル、蜂の寓話、社会、経済、欲望 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| 参考書 | <p>書名 蜂の寓話—私悪すなわち公益 (新装版)</p> <p>著者(訳者) バーナード・マンデヴィル (泉谷治)</p> <p>出版社 法政大学出版局</p> <p>ISBN ISBN978-4-588-14015-0 C1310</p> <p>次の参考書を使用する。</p> | | | | |
| ガイダンス | <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』</p> <p>著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会</p> <p>第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 31683 | 火 1 | 紛争と介入をめぐる諸問題 | 岡田 晃枝 | 国際関係 | KALS |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 現代の国際社会が直面するさまざまな問題のうち、紛争と介入をめぐる諸議論をとり上げ、文献を読み、批判的に検討しながら、学術的な論文の書き方と議論のあり方を学ぶ。主観的・直感的に「正邪」を議論するのではなく、事実関係を整理し、既存の議論をふまえた上で、「自分の」議論を説得的に展開できるようになることがこの授業の目標である。</p> <p>【学術分野】国際関係</p> <p>【授業形態】ディシプリン+文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 紛争、軍事介入、人道的介入、和解、保護する責任、平和構築 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | その他 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』上記以外の参考文献は授業中に指示する。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-------------|-------|--------|--------|
| 31684 | 火 1 | アベラール書簡集を読む | 源河 達史 | 法学部 | 120 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 ヨーロッパ中世の恋愛文学として名高いアベラールとエロイーズの書簡集から、アベラールの半生を綴った自伝的書簡を取り上げ、様々な方法で読み解くことを試みる。一つの著作を複数の観点と異なる方法で読む実験をしてみたい。また、同書簡集の真偽を論じる幾つかの論文（英文）を読み、テキストを批判する方法をも考えたい。共通のテキストとしては日本語訳を用いるが、適宜英訳を併用する。原書（ラテン語）を読むきっかけとなることを期待する。また、翻訳を読むという行為の意味を考えてみるのも面白いかもしれない。</p> <p>【学術分野】 法・政治 歴史学</p> <p>【授業形態】 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | テキスト批判、史料批判、中世、歴史 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| 参考書 | <p>書名 アベラールとエロイーズ 愛の往復書簡</p> <p>著者（訳者） 杵掛良彦、横山安由美</p> <p>出版社 岩波文庫</p> <p>ISBN 978-4003211922</p> <p>次の参考書を使用する。</p> <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』</p> <p>著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会</p> | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31711 | 木 2 | 斎藤茂吉『赤光』精読 | 品田 悦一 | 国文・漢文学 | 517 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 近代短歌史上の金字塔『赤光』を分担して精読し、茂吉という歌人の虚像を斥け、実像に迫る。</p> <p>【学術分野】 国文・漢文学</p> <p>【授業形態】 ディシプリン型、文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 発表の出来映えと討論における発言を総合して成績評価を行なう。ただし、発表が不首尾だったなどの理由で補足レポートの提出を希望する場合は、これを妨げない。 | | | | |
| 授業のキーワード | 斎藤茂吉、赤光、短歌、異化、万葉調、写生 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| 参考書 | <p>書名 『赤光』</p> <p>著者（訳者） 斎藤茂吉</p> <p>出版社 新潮文庫</p> <p>ISBN 978-4101494210</p> <p>その他 「私選茂吉秀歌 500 首」を配付する。</p> | | | | |
| ガイダンス | 授業中に指示をする。 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31712 | 木 2 | 駒場の歴史を歩く | 田中 創 | 歴史学 | 518 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 駒場キャンパス内外にある歴史的モニュメントや遺構をきっかけとして、東京大学駒場キャンパスとその前身である旧制第一高等学校の歴史および渋谷・目黒・世田谷といった周辺地域の歴史を調べる。最終レポートでは、単に細かな地域史の調査で終わるのではなく、日本や世界の歴史のなかに駒場および周辺地域の歴史を位置づけることを目指す。</p> <p>授業内の報告発表の準備を通じて、過去の研究文献を探し出し、自分なりの関心・問題を設定するための基礎的な方法を身につける。また、レジюмеとパワーポイントを使った口頭発表を通じて、自分の意見の伝え方を訓練するほか、参考文献・脚注を伴う最終レポートの作成を通じて、学術論文の基本的な要素・作法を学ぶことを目指す。</p> <p>【学術分野】 歴史学</p> <p>【授業形態】 ディシプリン型、文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と最終レポートで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 歴史、日本史、第一高等学校（一高）、駒場、東京大学、教育史 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』</p> <p>著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会</p> <p>第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|---------------------------------|-------|-------------|--------|
| 31713 | 木 2 | 資料から考える歴史 —「東洋文庫」と「大航海叢書」を読む | 岡田 泰平 | 歴史学 | 117 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 およそ全ての学術において、①研究書・研究論文を読む、②自分自身固有の「問い」を立てる、③調査をする、ということとは共通しています。この①～③を何回も何回も繰り返し、④「問い」への自らの「答え」を見つける、ということも共通事項でしょう。</p> <p>ただし、このような流れはあくまでも基本であり、これだけでは自由な思考をすることはできません。とりわけ歴史学においては、既存の研究を読むだけでは、十全な「問い」を立てることはできません。大学教員であれ、学生であれ、院生であれ、その人にとって意味のある「問い」を立てることは極めて重要です。そしてどのような「問い」を立てるかは、本質的に自由です。ただしこの自由は、ただ与えられるものではなく、学ぶという苦しいプロセスの後に、意味のある「問い」を立てることによって、跡付け的に実感できるものです。</p> <p>そこで、この初年次ゼミナールでは、なるべく皆さんの自由を確保する形で、それぞれの思考を深めていってもらいたいと思います。まず、「東洋文庫」(850点程、平凡社)、「大航海叢書」(42点、岩波書店)から、一つの文献(一冊～複数冊)を選びます。そして、その文献が書かれた時代や地域について調べ、さらには当該の文献に関わる二次文献を探し出します。それぞれについて発表をし、最終的には、当該文献の扱い方についての論文を書きます。</p> <p>なお、私の能力の限界もあることから、なるべく東南アジア関係のものを中心にできればと考えています。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 【学術分野】歴史学 | | | | |
| 授業のキーワード | 【授業形態】文献批評型 | | | | |
| 教科書 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 参考書 | 一次資料、二次資料、東南アジア、古代～近代、「東洋文庫」、「大航海叢書」 | | | | |
| | 教科書は使用しない。 | | | | |
| | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| | 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 | | | | |
| | 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| | 書名 東洋文庫ガイドブック | | | | |
| | 著者(訳者) 平凡社東洋文庫編集部 | | | | |
| | 出版社 平凡社 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31714 | 木 2 | イメージ世界の歴史学 —動物イメージを題材にして | 池上 俊一 | フランス語・イタリア語 | 118 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 さまざまなメディアが発達した今日、私たちは溢れるイメージに囲まれて生きている。そしてそれらによって、行動や価値判断が左右されがちだということにも気づいている。それでは、こうしたイメージの世界と歴史的現実とはいかなる関係があるのだろうか。本授業では、フランスで生まれた「新しい歴史学」の大きな成果であるイメージ世界の歴史学の手法を学びながら、歴史の中の動物イメージの意味と機能およびそれらの変遷を、参加学生による報告・討論をつうじて考えていきたい。報告する学生には、イヌ、ネコ、ネズミ、キツネ、オオカミ、ライオン、シカなど、好きな動物を1つ選び、絵画・彫刻、小説・詩、年代記・日記、神話・伝説、儀礼・慣習、夢などの「史料」からその動物イメージを探し出して、時代・地域の文脈の中で解釈を試みてもらう。時代と地域は大きく取っても、小さく限定してもかまわない。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 【学術分野】歴史学 | | | | |
| 授業のキーワード | 【授業形態】ディシプリン型 | | | | |
| 教科書 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 参考書 | 新しい歴史学、イメージ、動物 | | | | |
| | 教科書は使用しない。 | | | | |
| | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| | 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 | | | | |
| | 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| | 書名 中世幻想世界への招待(河出文庫) | | | | |
| | 著者(訳者) 池上俊一 | | | | |
| | 出版社 河出書房新社 | | | | |
| | ISBN 430941172X | | | | |
| | 書名 熊の歴史 | | | | |
| | 著者(訳者) ミシェル・パストゥロー | | | | |
| | 出版社 筑摩書房 | | | | |
| | ISBN 4480858075 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|----------|-------|----------|--------|
| 31715 | 木2 | 功利主義を考える | 井上 彰 | 社会・社会思想史 | 119 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 功利主義について日本では、弱者切り捨ての思想であるという見方に代表されるように、多くの誤解に満ちた言説にあふれている。かたや、分析哲学・倫理学において功利主義は影響力があるのみならず、依然として有力視されている立場である。その理由は、功利主義がもつ論理一貫性と循環論法に陥りにくい道徳・正義構想としての説得性にある。本演習では、アカデミックな作法を学ぶ観点から、論理一貫性と説得性の両面をあわせもつ功利主義について、その基本的文献の購読を通じて学習する。</p> <p>【学術分野】社会・社会思想史 【授業形態】文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 功利主義、論理一貫性、分析哲学・倫理学、政治哲学 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31716 | 木2 | 法の学び方を学ぶ | 若狭 彰室 | 法・政治 | 120 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 国際法及び国内法を対象として、文献読解及びグループによる調査と報告を通じて、大学における法の学び方を実践的に身に付けることを目的とする。具体的には、教科書と論文の違い、論文/判決の読み方と要約の方法、調査・研究報告の進め方などが授業において扱われる。扱う文献は、国際法の解釈論の論文を中心とするが、他の国内法分野のものも受講生の興味に応じて対象となり得る。調査・研究報告は、国際法・憲法・民法などの法分野につきグループを形成し、『○○法の論点』シリーズや『判例百選』等に基づき、受講生が自らの関心に応じて任意の論点を取り上げて行うものとする。その上で、小論文を各個人が執筆する。</p> <p>【学術分野】法・政治 【授業形態】ディシプリン型、文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 法学、国際法、憲法、民法 | | | | |
| 教科書 | 授業中に指示をする。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| グループ3 1年 文一二(8,12,14,17)文三(10,12,14) | | | | | |
|--------------------------------------|---|---------------------------|----------|--------|--------|
| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
| 31685 | 火3 | 「名所」の今昔 | 田村 隆 | 国文・漢文学 | KALS |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 江戸時代に、江戸や京都などの「名所」を解説する「名所図会」のシリーズが編まれた。そこでは『源氏物語』や『伊勢物語』などの古典も引用される。この授業では「名所図会」を手がかりに古典から現代までの「名所」の変遷を追ってみたい。たとえば「隅田川」を例にとれば、本郷から隅田川へ続く「言問（こととい）通り」は『伊勢物語』の「いざ言問はん都鳥」に由来するし、お台場を走る「ゆりかもめ」の命名も元をたどれば「都鳥」に行き着く。「名所」の歴史をたどることを通じて、今の街の姿を再考し、あわせて古典に対する理解を深めるきっかけにしてほしい。</p> <p>【学術分野】 国文・漢文学</p> <p>【授業形態】 文献批評型 時にフィールド型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 名所、名所図会、古典、都市、景観、地図 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31686 | 火3 | 心の進化：ヒトはなぜ人間になったのか | 岡ノ谷 一夫 | 心理・教育学 | 120 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標】 資料を読み解き独自の視点を表現する方法を学ぶ。</p> <p>【学術分野】 心理・教育学</p> <p>【授業形態】 講義、反転講義、発表、討論などを行う。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する | | | | |
| 授業のキーワード | 行動学、コミュニケーション、動物心理学、脳科学、認知科学 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| 参考書 | <p>書名 脳に心を読む 著者（訳者） 岡ノ谷一夫 出版社 青土社 ISBN 978-4791770076</p> <p>次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学 初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 初年次ゼミナール文科運営委員会・教養教育高度化機構初年次教育部門 書名 つながりの進化生物学 著者（訳者） 岡ノ谷一夫 出版社 朝日出版社 ISBN 978-4255006956</p> | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31687 | 火3 | 国際法の視点から現代の国際的 課題を分析する | キハラハント 愛 | 法・政治 | K201 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 世界は今、紛争の形態の変化、テロリズム、増える難民、安全保障制度の変化、気候変動など、様々な課題を抱えている。これらの課題について、法的な観点から考察し、その作業を通じて、文献の批判的な読解、学問的な「問い」の立て方、「問い」への答えの追求の仕方、批判的かつ建設的なディスカッション、研究の過程・結果の報告や論文執筆の方法を学ぶ。</p> <p>【学術分野】 法・政治</p> <p>【授業形態】 ディシプリン型 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 国際法、国際的課題、紛争、難民、人権 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|--------------------------------|-------|-------|--------|
| 31688 | 火 3 | 「グローバル化」における 「不平等」と「貧困」を考える | 中西 徹 | 経済・統計 | 117 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 「グローバル化」が進む中、ピケティやハラリが指摘したように、地球規模での「不平等」と「貧困」の問題が深刻化しつつある。この授業では、この問題を様々な観点から考察したい。</p> <p>【学術分野】 経済・統計</p> <p>【授業形態】 ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | グローバル化, 不平等, 貧困 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31689 | 火 3 | 考古学研究入門 | 福田 正宏 | 文学部 | 119 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 歴史研究の意義を実践的に学び取るとともに、考古学の基礎的な考え方や考古学的資料の扱い方を身につけることを目指す。考古学を含む歴史学で今、論点となっている諸問題に関して討議を行い、歴史研究における問題設定の仕方や学問のパラダイムを理解する。途中、駒場キャンパス内の駒場博物館と埋蔵文化財調査室において、国内外の考古資料を実際に観察・分析する。ここでは、文化財の保存・公開に関する実際を知るとともに、資料から情報を引き出してまとめる考古学の基礎的な手法を学ぶ。客観的なデータの提示と、そのうえでの課題設定、理論構築を経て、結果を発表する、という研究プロセスを体験することができる。</p> <p>【学術分野】 歴史学</p> <p>【授業形態】 ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 考古学、人類史、論争・学説、遺跡、遺物 | | | | |
| 教科書 | プリントを配布する。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-----------------------------|-------|--------|--------|
| 31717 | 木 3 | 近世東アジア思想入門 —朱熹『大学章句』を読む— | 高山 大毅 | 国文・漢文学 | 118 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 朱熹『大学章句』を室鳩巢『大学章句新疏』に従い、熟読玩味することで、朱子学の思考の型を理解することを目指します。高校の教科書などの朱子学の説明からは、古めかしい抑圧的な思想といった印象しか持てないかもしれませんが、朱熹らの著作を実際に読んでみると、朱子学が、数百年にわたって東アジアの多くの知識人を魅了するだけの力を持った強靱な思想であることが見えてきます。朱子学の議論は、現代日本社会の一般的な思考とかけ離れていることも少なくないので、この授業を通じて、未知の秩序を有する不思議な異世界に迷い込むような経験ができるのではないかと思います。</p> <p>返り点・送り仮名のついた江戸時代の版本を用いて、中国語による直読ではなく、訓読で読んでいきます。漢文で書かれた注釈にしたがい、漢文を訳読してもらい、各回の報告担当者の解釈の是非を議論します。注釈者の問題関心を内在的に把握できているかが問われます。</p> <p>小論文では、授業内容を踏まえて、現代の研究者の朱子学の概説を論評してもらう予定です。</p> <p>朱子学は、近世東アジアの知識人の共通の教養となっているので、思想だけでなく、文学や歴史に関心のある人にとっても得る所は大きいでしょう。</p> <p>【学術分野】 国文・漢文学 【授業形態】 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 朱子学、思想史、漢文、中国思想、日本思想 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31718 | 木 3 | テクノロジーと社会の未来について考える | 鈴木 貴之 | 哲学・科学史 | 117 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 テクノロジーの急速な発展によって、社会は大きく変貌しています。テクノロジーによってわれわれの生活は便利なものになりますが、その反面、さまざまな新たな問題も生じています。この授業ではバイオテクノロジーや情報テクノロジーなど、現在も発展を続けるテクノロジーの現状と今後の見通しを概観し、それらにはどのような長所と短所があるのか、社会は新しいテクノロジーをどのように扱っていけばよいのか、といった問題について考えていきます。</p> <p>【学術分野】 哲学・科学史 【授業形態】 ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 科学技術論、バイオテクノロジー、人工知能、ロボット | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| 参考書 | 書名 『100年後の世界—SF映画から考えるテクノロジーと社会の未来—』 著者（訳者） 鈴木貴之 出版社 化学同人 ISBN 978-4-7598-1676-1 | | | | |
| ガイダンス | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|--|-----|---------------------------|-------|-----------|--------|
| 31719 | 木 3 | 文化人類学の考え方 —民族誌的想像力を養う— | 箭内 匡 | 文化人類学 | 120 教室 |
| 授業の目標・概要 <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。 【この授業の目標・概要】 文化人類学はフィールドワークという作業を最も重視してきた学問の一つとして知られる。調査対象の現場に自ら参加しながら長い時間を過ごし、その中で、その現場独特の、物事の生きられた連関——それは大抵、最初に予想していたのとは全く異なっている——がしだいに理解できるようになる。人類学者がこうしたフィールドワークの成果を一つの著作としてまとめたものが「民族誌」である。文化人類学はともかくとして、民族誌を読むことは、物事を地に着いた形で考える習慣をつけるトレーニングになるだろう。 この授業では、各自の興味関心に従って、この民族誌と呼ばれるジャンルの著作の面白さや奥深さを発見し、自分なりの仕方ですそれを掘り下げてもらいたいと思う。文化人類学者による民族誌は、かつてのいわゆる「未開社会」の研究にとどまらず、今日では様々な現代的テーマをカバーしているので、取り上げうる素材には大きな広がりがある。大事なことは、民族誌を読む中で、物事を地に着いた形で考える能力を養うこと、言い換えれば、一般的言明の向こうにある具体的現実をしっかり想像する力を養うことである。研究テーマによるが、可能であれば、「フィールド」を経験してみてその感覚をより確かなものにするのもよい。 授業の方向性としては、授業参加者が「研究」をなるべく実質的に、分厚く学ぶことを重視したい。あらゆる研究に言えることだが、「問い」と「答え」の間には様々な迷いがあり、行き来があり、揺れがある。一見無駄に見える、そうした動きの中にもこそ研究という営みの最も深い部分がある（このことは文化人類学では特に大事だが、しかし文化人類学に限ったことではない）——それを実感を持って理解できれば授業の成果はあったことになると思う。</p> <p>【学術分野】文化人類学 【授業形態】ゼミナール型（＋フィールド型）</p> <p>成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 授業のキーワード 文化人類学、フィールドワーク、民族誌 教科書 教科書は使用しない。 参考書 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 書名 『イメージの人類学』 著者（訳者） 箭内匡 出版社 セリか書房 ISBN 978-4796703734</p> <p>ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | | |
| 31720 | 木 3 | 映画と小説 —文芸映画から翻案映画へ | 谷本 道昭 | 教養教育高度化機構 | 119 教室 |
| 授業の目標・概要 <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。 【この授業の目標・概要】 映画は 19 世紀末にフランスで誕生して以来、先行する諸芸術から多くの要素を貪欲に取り込むことによって自らを豊かにし、発展していった。数ある芸術ジャンルの中でも、映画は、現実あるいは非現実の事象を再現し物語るという共通点を持つ小説から、ストーリー、構造、話法などの着想を得てきたという歴史があり、古典映画の時代から現代にいたるまで、小説を原作とする映画の例には枚挙にいとまがない。しかし、小説を原作とするいわゆる「文芸映画」は、映画と小説をめぐるこれまでの議論においては、安易な発想にもとづいた二次的な創作物として軽視されることが多かった。近年、ある種の「文芸映画」が「翻案映画」として見直され、映画と小説をめぐる生産的な議論が新たに生まれつつあるのは、オリジナル（原作小説）とそのコピー（映画）という二項的な枠組みによらず、翻案行為そのものに意義や創造性を見出そうとするアダプテーション論の興隆に負うところが大きい。 本演習では、映画と小説の関係を論じた映画論・表象文化論の古典として知られるアンドレ・バザンによる論考を読み進めた上で、現代のアダプテーション論にも目を向けつつ、映画と小説の双方向から「翻案映画」にアプローチしていく。「翻案映画」の分析を通じて、映画と小説それぞれのジャンルの特性を理解していくとともに、映画と小説のあいだに何を読み取ることができるのか、考えていきたい。</p> <p>【学術分野】映像文化論・文学 【授業形態】ディシプリン型 文献批評型</p> <p>成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 授業のキーワード 映画、小説、文芸映画、翻案 教科書 次の教科書を使用する。 書名 『映画とは何か』上巻 著者（訳者） アンドレ・バザン（野崎歎、大原宣久、谷本道昭訳） 出版社 岩波書店 ISBN 4003357817</p> <p>参考書 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会</p> <p>ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-------------------------------------|-------|------|--------|
| 31721 | 木3 | 民族・宗教と紛争 | 鶴見 太郎 | 国際関係 | 517 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 今日の国際関係を占ううえで、民族や宗教にまつわる紛争の制御が依然として重要な課題であることは、昨今の難民問題やテロ事件に言及するまでもなく明らかである。 しかし、とりわけ国際関係を久しく賑わせてきたこうした紛争が、いかなるメカニズムによって発生し、いかに制御・解消できるのかについては、いまだ十分に解明されていない。そもそも論者によって各紛争の捉え方は大きく異なることが常であり、何が客観的で正しい捉え方であるのか判断に窮することも多い。その一因は、民族や宗教がすぐれて主観的な営みであることにある。この授業では、日本国内のものを含む世界の様々な事例を受講生が取り上げながら、人間社会の主要課題の一つである民族・宗教紛争の捉え方を学ぶ。そのことを通じて、人文・社会科学固有の対象である、曖昧さや両義性、主観と客観の不分明さがつきまとう事象への様々なアプローチ方法を体得することを目標とする。</p> <p>【学術分野】 国際関係、社会学</p> <p>【授業形態】 ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 民族、宗教、ディアスポラ、国際問題、ナショナリズム、エスニシティ | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| | 書名 | 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 | | | |
| | 著者（訳者） | 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | |
| | 書名 | ナショナリズム論・入門 | | | |
| | 著者（訳者） | 大澤真幸・姜尚中編 | | | |
| | 出版社 | 有斐閣 | | | |
| | 書名 | 国際社会学 | | | |
| | 著者（訳者） | 宮島喬・佐藤成基・小ケ谷千穂編 | | | |
| | 出版社 | 有斐閣 | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| グループ4 1年 文一二(1-3,5,11,15-16,22)文三(1-3,11,15) | | | | | |
|--|---|-----------|-------|--------|--------|
| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
| 31690 | 火4 | 日本史研究の最前線 | 桜井 英治 | 歴史学 | 120 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 歴史学の方法は主に史料の分析と先行研究の検討の2つからなるが、本授業では後者の方法に触れ、その実践力を向上させることを目的とする。具体的には最近完結した『岩波講座日本歴史』全22巻所載の概説的論文のいくつかを読むことを通じて、高校の日本史とは異なる、日本史研究の最新の成果や議論に触れるとともに、あわせて学術論文一般の読み方・書き方を身につける。</p> <p>【学術分野】 歴史学</p> <p>【授業形態】 ディシプリン型 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 日本史、中世史、古代史、近世史、近現代史 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | <p>次の参考書を使用する。</p> <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』</p> <p>著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会</p> <p>書名 『岩波講座日本歴史』（全22巻）</p> <p>著者（訳者） 大津透・桜井英治・藤井譲治・吉田裕・李成市編</p> <p>出版社 岩波書店</p> <p>ISBN 978-4-00-011321-2～</p> | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31691 | 火4 | 哲学の古典を読む | 山本 芳久 | 哲学・科学史 | 119 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 哲学の古典を原典に即しながら丁寧に読み解いていく力を身につけていくことを目標とします。具体的には、西洋を代表する哲学書の一つであるトマス・アクィナス(1225-1274)の『神学大全』を、日本語訳で講読します。テーマは「感情について」です。一人では読み解きにくい哲学書を読み解くための技法を、みなさんが毎日抱く具体的な「感情」という身近なテーマに即しながら説明していきます。</p> <p>【学術分野】 哲学・科学史</p> <p>【授業形態】 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 西洋哲学、倫理学、キリスト教、トマス・アクィナス、『神学大全』、感情 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| 参考書 | <p>書名 『トマス・アクィナス 肯定の哲学』</p> <p>著者（訳者） 山本芳久</p> <p>出版社 慶應義塾大学出版会</p> <p>ISBN 978-4766421712</p> <p>次の参考書を使用する。</p> <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』</p> <p>著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会</p> <p>書名 『トマス・アクィナス 理性と神秘』</p> <p>著者（訳者） 山本芳久</p> <p>出版社 岩波書店</p> <p>ISBN 978-4004316916</p> | | | | |
| ガイダンス | <p>その他 『神学大全』の日本語訳のコピーを配布する。</p> <p>第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|---------------|-------|----------|--------|
| 31692 | 火 4 | 東京をフィールドワークする | 田辺 明生 | 文化人類学 | K501 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 この授業では、フィールドワークを通じて「問い」をたて「答え」を探求するための、文化人類学の基礎的方法を学んでもらう。受講生は自らの興味に基づいて「東京のいま」をとらえるための研究トピックを選び、それぞれフィールドワークを行う。まず自らのトピックについて文献調査を行い、フィールドワーク計画を作成する。その計画に基づいて、各自、参与観察やインタビューなどのフィールドワークを行う。そしてフィールドワークで得たデータを通じて、「問い」を立て直し、さらにその「答え」を導くことを試みる。</p> <p>【学術分野】 文化人類学 【授業形態】 フィールド型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | フィールドワーク、インタビュー、参与観察、文化人類学、東京 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える ―東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト―』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31694 | 火 4 | 現代民主主義の思想的問題 | 森 政稔 | 社会・社会思想史 | 114 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 民主主義とは何か、については高校の公民科教科書などで触れられ、一応は勉強したことになっている。しかし、現代世界の政治で実際に民主主義がどのように作用しているのかを考えると、教科書的理解とはまるで異なることが生じているようである。このところ欧州での難民問題、排外主義的ポピュリズムの台頭など、民主主義をめぐる困難な問題が相次ぎ、さらに日本と韓国、中国など東アジアの国々における対立が深まっており、民主主義がこれらの問題に対処できるかどうかを深刻に問われるようになった。本年はそれらと関係の深い現代民主主義の関わるテーマを3つ設定する。</p> <p>1.近年の日本の政治状況を把握し、民主主義思想の視点からその問題や可能性を検討する。 2.ナショナリズムとは何か(ナショナリズムの理論と欧米やアジアにおける状況、ポピュリズムとの関係など)。 3.政治的コミュニケーション(ポピュリズムの多発とメディアの関係、政治教育の可能性など)。</p> <p>【学術分野】 社会・社会思想史 【授業形態】 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する | | | | |
| 授業のキーワード | 政治的コミュニケーション、ナショナリズム、ポピュリズム、民主主義、多文化社会、経済発展と民主化 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える ―東京大学 初年次ゼミナール文科 共通テキスト―』 著者（訳者） 初年次ゼミナール文科運営委員会・教養教育高度化機構初年次教育部門 書名 変貌する民主主義 著者（訳者） 森 政稔 出版社 筑摩書房(ちくま新書) | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|---------------------|------|------|--------|
| 31699 | 火4 | エピソード研究を通して人間理解を深める | 大塚 類 | 教育学部 | 116 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 この授業では、質的研究のひとつであるエピソード研究論文を執筆することを通して、自分が世界や他者をどのように見て（認識して）いるのかと同時に、自分とは異なる他者の認識がどうなっているのかを知ることにより、自分自身も含めた人間理解を深めることを目標とする。</p> <p>教育学におけるエピソード研究とは、家庭・学校・会社・施設といったさまざまな日常生活の場に赴き、自分もその現場に身を置くなかで出会われてきた出来事を描写し、一つのエピソードとして考察するものである。現場のなかで様々に起こる出来事をどのように切り取り、どのように描写し、どのように考察するのかに、研究者の個性や力量が大きく現われる。</p> <p>ゼミの前半では、教育学におけるエピソード研究の論文を複数読むことにより、エピソード研究のひな型を学ぶ。エピソードの描写方法に関しては、小説なども参考にする。そのうえで、第1回フィールドワークを行い、各受講生が書いたエピソード（考察なし）を共有・検討する。ゼミの後半では、エピソードの分析・考察に焦点を当てる。論文・小説・マンガなどを事例とし、言葉・表情・ふるまいなどからその人物の心理や思考について推察する方法を学ぶ。そのうえで、第2回フィールドワークを行い、各受講生が書いたエピソード研究（考察あり）を共有・検討する。このエピソード研究をたたき台として、最終小論文を執筆することになる。こうした実践を通して、自分が経験したことを適切に言語化し、それを手がかりとして自己理解や他者理解を深められる能力を育むことを目指す。</p> <p>【学術分野】 心理・教育学</p> <p>【授業形態】 フィールド型（文献講読も含む）</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | エピソード研究、臨床現象学、教育学、フィールドワーク | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| | 書名 「読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—」 | | | | |
| | 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| | 書名 エピソード教育臨床：生きづらさを描く質的研究 | | | | |
| | 著者（訳者） 大塚類・遠藤野ゆり編 | | | | |
| | 出版社 創元社 | | | | |
| | 書名 施設で暮らす子どもたちの成長 | | | | |
| | 著者（訳者） 大塚類 | | | | |
| | 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-------------------------------|-------|-----------|--------|
| 31730 | 火 4 | 文学テキストの来歴を辿る | 谷本 道昭 | 教養教育高度化機構 | 117 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 文学作品が一語一句そのままの形で残り続けることは稀であり、作者自身の意向や様々な外的な要請に従って、テキスト・作品のあり様が変わることが多い。ある作品が、文芸誌に掲載され、その後、書籍として刊行され、最終的に個人全集に収録されるとすると、書籍化を機に、また、書籍が版を重ねるたびにテキストに加筆や修正がなされるのが一般的であるし、ときには、作品の本質に関わる重大な変更が施されることもある。全集収録以降も、作品に手を加えることを辞さない作家もいる。その結果、ひとつの作品であっても、複数のバージョンが並存することになる。</p> <p>これまで、草稿から決定稿に至るまでのテキスト・作品の異同や変容については、生成研究やヴァリエーション研究といった、専門的な学問領域で論じられてきた。今日では、インターネットの普及、発展によって複数のバージョンへのアクセスが容易になり、テキスト・作品の来歴を辿る作業は、文学研究の基礎として欠かすことのできない工程となっている。時系列や創作のコンテキスト、掲載メディアの特徴などを注視しながらテキストの変容を追っていくことは、それ自体興味深く有益であるだけでなく、作品の理解、解釈に関わる重要な発見をもたらすこともある。</p> <p>本演習では、テキスト・作品の歴史を分析的に遡る手順を学んだ上で、日本語で書かれた著名作品を課題として取り上げ、雑誌掲載版(プレオリジナル版)、オリジナル版、決定版等を丹念に読み比べることで、古典として固定化されたテキスト・作品をできるだけ動的に捉えたい。よく知っているつもりのもので、これまでとは違った見え方をしてくれるはずである。課題作品は、『日本近代短篇小説選』(全六冊、岩波文庫、2012年)に収録された明治中期から昭和中期までの主要作家の短編作品から、学生と協議しながら選んでいく。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 【授業形態】 ディシプリン型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | エディション、バージョン、ジェネティック | | | | |
| 教科書 | 授業中に指示をする。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 書名 『日本近代短篇小説選』全六冊 著者(訳者) 紅野敏郎、紅野謙介、千葉俊二、宗像和重、山田俊治編 出版社 岩波書店 ISBN 4002011887 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31722 | 金 1 | グローバル時代の地域文化研究： 自分の問いから始める | 遠藤 泰生 | 英語 | KALS |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 地域文化研究というきわめて複合的、複眼的な学術の入口に立つことを目標とする。当該地域の専門外国語を習得していない一年生に地域文化研究の方法論を習得してもらうのは難しいかもしれないが、「もの知り」の段階から「学術に触れる」段階までの思考の訓練を、共通の課題を読みながら積んでいく。最後は自分の関心を深め、地域文化研究の実践を経験してみることに授業は目的をおく。</p> <p>【学術分野】 地域文化研究 (政治学・歴史学・文学・文化人類学・社会学を含む)</p> <p>【授業形態】 ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 民族、移民、国民、排外主義、ジェンダー、LGBT、共生、幸福、貧困、都市、市民社会、主権、民主主義、信仰、倫理、セクトと教会 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|-----------------|-------|--------|--------|
| 31723 | 金 1 | アーレント『人間の条件』を読む | 古荘 真敬 | 哲学・科学史 | 115 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 『人間の条件 (The Human Condition)』(1958年)において、ハンナ・アーレントは、「思考の欠如 (thoughtlessness) — 不用心な無謀さ、絶望的な混乱、陳腐で空虚になった『諸真理』の自己満足的な繰り返し」によって特徴づけられる「われわれの時代」の危機を見すえながら、われわれが人間であることの「条件」をあらためて検討しようとした。古代ギリシアから近代に至る西洋思想と社会のあり方の変遷の意味を独自の観点から考察したうえで、「人間の条件」そのものからの脱出を露骨に願望しはじめているように見える現代世界の無謀さを示唆する彼女の壮大な論考は、まさに、現代思想の古典の一つといえよう。この授業では、その論考の重要箇所を精選して検討しながら、われわれ人間のあり方の基盤について共にゆっくり考えることを試みたい。</p> <p>授業は、アーレントのテキストの講読演習という形式をとって展開する。だが、たんにテキストの解釈だけが目ざされているわけではない。目標はあくまでも、受講生各自が自分の問いを発見し、その問いを哲学的に展開していく最初の修練を重ねてみることである。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 【学術分野】 哲学・科学史 | | | | |
| 授業のキーワード | 【授業形態】 ディシプリン型 文献批評型 | | | | |
| 教科書 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 参考書 | アーレント、人間の条件 次の教科書を使用する。 書名 『人間の条件』 著者 (訳者) ハンナ・アーレント 出版社 ちくま学芸文庫 ISBN 4480081569 | | | | |
| ガイダンス | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者 (訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31724 | 金 1 | ガンディーを読む | 井坂 理穂 | 歴史学 | K301 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 この授業では、「インド独立の父」と呼ばれ、非暴力・不服従運動を率いた人物として知られる M・K・ガンディー (1869-1948) や、彼の周囲の人々が残した著作を読む。これらの著作の内容について考察するとともに、そこから同時代やその後のインドおよび世界の政治・経済・社会にかかわるさまざまな問いをたて、それらの問いに対する答えを出すためにどのような調査をすればよいのかを検討する。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 【学術分野】 歴史学 | | | | |
| 授業のキーワード | 【授業形態】 文献批評型 | | | | |
| 教科書 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 参考書 | 歴史学、近代、インド、植民地支配、ナショナリズム 授業中に指示をする。 授業中に指示をする。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者 (訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31725 | 金 1 | 法からみる世界と日本 | 北村 朋史 | 法・政治 | K401 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 日本は、安全保障、領土問題、戦後補償、通商紛争、難民問題等、様々な国際的課題に直面している。こうした課題について検討する視点もまた様々あるが、この授業では、法的な観点からこれら課題について考察する。こうした作業を通じて、学問的な「問い」の立て方やそれへの取り組み方、また報告や論文執筆の方法を学ぶ。リサーチと報告は、3~4名程度のグループで行う。小論文は、各受講生がさらにリサーチを進め、個人で執筆する。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 【学術分野】 法・政治 | | | | |
| 授業のキーワード | 【授業形態】 ディシプリン型、文献批評型 | | | | |
| 教科書 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点、小論文で判断する。 | | | | |
| 参考書 | 世界、日本、法、国際法 教科書は使用しない。 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者 (訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-------------|--------|------|--------|
| 31726 | 金 1 | 公法学の基本文献を読む | 福岡 安都子 | 法・政治 | 117 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 最短ルートで目標に到着しようとするのではなく、テキストを精確に読み深く理解するという基礎の基礎から法学を学びたいと思う学生を対象に、公法学分野——国家と個人に関わる法律分野——の古典的な文献を読解し、討論する形で演習を行う。評価は、報告及び学期末のレポートのほか、各回の討論への貢献を基礎に行う。</p> <p>【学術分野】法・政治 【授業形態】文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 公法、国家、人権、法思想、比較法、精読 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| グループ5 1年 文一二(13,21,24-25)文三(5,8,20) | | | | | |
|-------------------------------------|--|-------------------|-------|-----------|------|
| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
| 31693 | 水2 | 文章の心理学 ー読む・書く・測るー | 椿本 弥生 | 教養教育高度化機構 | K301 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 複雑さが増すこの社会において、さまざまな文章をきちんと読み、他人に伝わるように書き、書かれた文章の質を正しく評価することの重要性も増している。しかし一方で、日常的な行為である文章の読み書きや、入試など一生を左右しかねない場面での文章の評価をうまく行うには、例えば光背効果や系列位置効果に代表される多くの心理的困難があることが明らかになっている。</p> <p>この授業では、文章読解・産出・評価に関わる国内外の研究知見を参考にしながら、これまででも、そしてこれからも私たちの身近な存在であり続ける「文章」を研究する方法を習得する。具体的には、履修者各自で興味関心を活かした「問い」を設定し、「答え」を明らかにするための小規模な実験や調査を考えて実施してもらう。得られたデータを分析し、「問い」に対する「答え」を導いてほしい。</p> <p>文章の読み書きやデータ分析に自信がない人も、教員やTAが基本事項を講義・指導するため心配しなくてもよい。文章について学術的に考えてみたい人は積極的に履修してほしい。</p> <p>■目標 以上の概要をふまえて、以下の学習目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を研究するための問いを設定できる ・問いを明らかにするための研究方法を設定できる ・得られたデータを適切に分析できる ・分析の結果を正しく読み取り、妥当な解釈ができる ・討論や報告によって他者の学習に貢献できる ・学術論文の構造をもった小論文を執筆できる <p>【学術分野】心理・教育学 【授業形態】ディシプリン型 フィールド型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | <p>出席、報告および議論への貢献等の平常点、小論文の3つの累積点数で評価する。</p> <p>a) 出席（振り返りシートへの記入と提出）：20点満点 b) 平常点（授業中の活動への参加）：30点満点 c) 小論文：50点満点</p> <p>注1）単位取得のためには、i) a～cの全てで60%以上得点していること、ii) 講義に2/3以上出席していること、の両方を満たすことが必要である。</p> <p>注2）特別な理由なく30分以上の遅刻・早退があった場合は、出席とみなさない。</p> <p>注3）平常点と小論文の評価基準（ループリック）は、授業内で示す。なお、適切なループリックを作成するために、小論文の仮提出を求める場合がある。</p> | | | | |
| 授業のキーワード | 文章の読み方（読解方略）、文章はいかに書かれるか（産出モデル）、文章評価の揺らぎ、高次認知過程、メタ認知、データ分析 | | | | |
| 教科書 参考書 | <p>教科書は使用しない。</p> <p>次の参考書を使用する。</p> <p>書名 『読む、書く、考える ー東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキストー』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 その他 その他の参考文献は授業中に提示する。</p> | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31695 | 水2 | 「おことば」からはじめる平成史 | 山口 輝臣 | 歴史学 | K402 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 目標は、「おことば」に書かれた内容を丹念に調べることを通じて、歴史学の作法を体験すること。ここでの「おことば」とは、明仁天皇と美智子皇后の発言のことで、記者会見なども含める。</p> <p>【学術分野】歴史学 【授業形態】ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 歴史学、史料、先行研究、平成、「おことば」 | | | | |
| 教科書 参考書 | <p>教科書は使用しない。</p> <p>次の参考書を使用する。</p> <p>書名 『読む、書く、考える ー東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキストー』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 その他 その他の参考文献は授業中に提示する。</p> | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-------------------------------|-------|-------|--------|
| 31696 | 水2 | 地域を調べる | 梶田 真 | 人文地理学 | K501 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標】 (1) 設定した問題に即して、必要な検討材料を自ら探し出し、分析していく能力を身につける、(2) 第三者に対して説得的な形で自分の主張を報告し、文章化する能力を身につける。</p> <p>【学術分野】 人文地理学</p> <p>【授業形態】 フィールド型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する | | | | |
| 授業のキーワード | 地理情報システム (GIS)、フィールドワーク、資料渉猟、地図、統計 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える -東京大学 初年次ゼミナール文科 共通テキスト-』 著者(訳者) 初年次ゼミナール文科運営委員会・教養教育高度化機構初年次教育部門 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31697 | 水2 | 日本の企業経営を考える | 清水 剛 | 経済・統計 | 119 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 この授業では、この社会の主要なアクターのひとつとしての企業について、それがどのように経営されているのか、どのような問題があり、そのような問題にどのように対応すればよいのか、といった点を、主として経営学という分野に依拠して考えていく。</p> <p>【学術分野】 経済・統計</p> <p>【授業形態】 ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 企業、経営、日本 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える -東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト-』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31698 | 水2 | 人工社会を作ろう：マルチエージェント・シミュレーション入門 | 阪本 拓人 | 国際関係 | E25 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 マルチエージェント・シミュレーション (MAS) と呼ばれるコンピュータ・シミュレーションの技法を使って、社会現象の理解を目指す授業である。MAS は、コンピュータの中に「エージェント」と呼ばれる多数の人工的な「生き物」を配置して相互作用をさせることで、いかなる集合的な秩序や動態が生成されるかを観察するシミュレーション手法である。個人や集団の間のネットワークの形成、市場での競争や独占、あるいは国家間の戦争や平和といった様々な現象を、コンピュータの中で実際に「作って理解する」ことを可能にする。</p> <p>この授業では、まず、既製のソフトウェアを使った実習を通じて MAS というツールを身につけてもらう。その上で、各々の学生が関心を持つ社会現象を、関連する先行研究も踏まえながら、MAS を使ってモデル化する作業を行ってもらう。そして、コンピュータの中に作られた各自の「人工社会」の観察・分析を通じて、当該の社会現象に対し、理解を深めたり新たな知見を得たりしてもらう。</p> <p>なお、本授業は文科系の初学者を想定しているため、MAS はもちろん、プログラミング等の知識・経験は前提にしている。</p> <p>【学術分野】 社会科学全般</p> <p>【授業形態】 実習型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、実習への取り組み等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 学期末の小論文には、各自が作成した MAS モデルも添付してもらう。これも評価の対象である。 | | | | |
| 教科書 | マルチエージェント・シミュレーション、人工社会、社会科学、複雑系、エージェント、シミュレーション | | | | |
| 参考書 | 次の教科書を使用する。 書名 人工社会構築指南 著者(訳者) 山影進 出版社 書籍工房早山 ISBN 978-4904701034 | | | | |
| ガイダンス | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える -東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト-』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|---------------|-------|--------|--------|
| 31727 | 金 3 | 日本語の「常識」を問い直す | 矢田 勉 | 国文・漢文学 | 518 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 学術研究に第一に求められるものは「客観性」である。しかし、人間の思惟以前の存在を研究対象とする自然科学など以上に、人間の主観性とその産物を研究対象とする人文科学では、何によって客観性が担保されるのかが際どい問題として立ち起こってくる。ともすれば、単に広く人口に膾炙していること、何となく皆がそうだと信じ込んでいることが、客観性の根拠と誤解されることも多い。一方で、正しい科学的手続きの結果として明らかにされてきたことまでも無闇に疑うことは、研究の停滞を招くどころか、時としては思惟を「疑似科学」へと導きかねない原因にもなりうる。正しい研究の第一歩は、既存の知識がそのいずれに属するのかを正しく峻別する力である。</p> <p>「日本語」という対象は、日本語話者にとっては水や空気と同等のものであり、そのために、ただ何となくそのように信じられている、という事象も多い。科学的な論証手続きが求められる「日本語学」と、場合によっては主観的な物言いが許されている「日本語論」との境界線が分かりづらいこともある。日本語について考え直すことは、そうした、研究に関する基礎的スキルを身につけるのに恰好の訓練である。受講者には、それぞれ担当する日本語に関わる既存知識を再検討する中で、(日本語という) 日常不断に接する対象に対する捉え返し、先行言説の批判的再検討、新たな着眼点の発掘、研究成果を簡潔に分かりやすく伝える技法、といった諸能力の涵養も求められる。</p> <p>これらは、今後、いずれの研究分野に進むに当たっても必要な、「基礎体力」となるであろう。</p> <p>【学術分野】 国文・漢文学</p> <p>【授業形態】 ディシプリン型 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 日本語 日本語学 日本語論 客観的論証 | | | | |
| 教科書 | プリントを配布する。 | | | | |
| 参考書 | 授業中に指示をする。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31728 | 金 3 | 情動の哲学 | 信原 幸弘 | 哲学・科学史 | K402 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 情動が私たち人間の生において、じつは中心的な役割を果たしており、理性は情動の補佐役にすぎないのではないかという問題を考察する。とくに、情動と道徳や生きる意味、価値との関係に焦点を合わせる。</p> <p>【学術分野】 哲学・科学史</p> <p>【授業形態】 ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 情動、道徳、生きる意味、価値 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 情動の哲学入門 著者(訳者) 信原幸弘 出版社 勁草書房 ISBN 978-4-326-15450-0 その他 2017年刊行 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 書名 はらわたが煮えくりかえる：情動の身体知覚説 著者(訳者) J・プリンツ著(源河亨訳) 出版社 勁草書房 ISBN 978-4-326-15439-5 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|------------------|-------|--------|--------|
| 31729 | 金 3 | 人間の心理と教育について | 丹野 義彦 | 心理・教育学 | 120 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 人間の心理と教育について、各自ひとつのトピックを選び、それについて調べ発表する。以下の4つの基本的スキルを身につけることを目的とする。 4つの能力の養成：①調べる、②発表する、③討論する、④レポートを書く トピックは、心理学と教育学を中心にして、自分が興味のあるテーマを選んで良い。</p> <p>【学術分野】心理・教育学 【授業形態】ゼミナール型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | ① 出席、②発表、③討論への参加、④レポートの4つを考慮して総合的に評価する | | | | |
| 授業のキーワード | 人間の心理、教育 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31731 | 金 3 | ひとり二役の論争：議論の交通整理 | 鍾 非 | 経済・統計 | 118 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 (文系も理系も) 大学で学ぶことは多々ある。政治・経済・社会・法律・哲学(以上、文系の一部)のいずれにおいても、ひとつの見方に対し、異なる角度から必ずや別の捉え方があり、有益な論戦はそこからスタート。たとえば、「円高 vs. 円安(経済)」「トランプ米大統領を巡る賛否両論(政治)」「個人主義か集団主義か(社会)」などなど、枚挙にいとまが無い。この授業は、正反対な考え(or 論争)について、数多くの実例を用いて深く考えてゆく。レトリックを使って言えば、議論の交通整理を体系的に行うこととする。理系・文系を問わず、様々な観点から自説を緻密に展開し、他者を納得させなければならない。その基本が、多岐にわたる議論を交通整理することである。普通、ひとりの人間には、ひとつの世界観(or 価値観)しかない。それがゆえに、特に二者択一を迫られると、ひとつの見方に対し、賛成(or 反対)するしかない。賛成(or 反対)する理由をいくら展開できても、自説の構造的弱点に気づかず、得てして「物事を一方的に論じられる」蛮力が身に付きやすい。惜しむらくは、向こう見ずな蛮力は無条件に論争に使うべきではない。常にひとつの世界観(or 価値観)にのみ基づいて物事を考えると、主張の方向性がはっきりするのは言うまでもない(論調が首尾一貫しているから)。ただし、一本調子の主張は永遠に勝ち続けられまい。それどころか、負けた後に、ノックアウトされたボクサーのように立ち直れない場合さえ少なくない。強過ぎた信念(≈負けん気)が生んだ悲劇だ。だから、世界観(or 価値観)にまったく縛られず、物事を百パーセント論理的に判断すべし。言い換えれば、正反対な主張の双方のあるべき姿を同時進行的に想像・整理することこそ、健全な論争の醍醐味。その意味で、筋の通った反対意見にも謙虚に耳を傾けられる柔軟な思考力と、それを支える広い心こそ、貴重である。ただ、「受動的」と言われかねぬ「聞く(or 聞かせる)」だけでは、物足りない。その柔軟な思考力と広い心を積極的に育成すべく、「ひとり二役」という論争の「リング」を作り出すのが、本講義だ。自分が心底嫌がることをも積極的に想像・整理することは、脳を「いじめる」ことにほかならない。「筋トレ」が筋肉をいじめその増強をもたらすのと同じように、「脳トレ」で脳をとことんいじめて「負けても倒れぬ」強靱なIDEAを手に入れよう。「文句なしの完勝、理路整然とした負け方にこだわる」のが、目標である。</p> <p>【学術分野】経済・統計 社会科学全般 【授業形態】ディシプリン型 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 基礎が大事。 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 授業中に指示をする。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|-----------------------|-------|------|------|
| 31763 | 金 3 | 国籍とシティズンシップから移民社会を考える | 伊東 直美 | ドイツ語 | K303 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 グローバル化が進むなか、世界各地で移民・難民排斥運動、外国人嫌いの風潮が高まり、極右政党が台頭しつつある。もはや我々の社会を考える際に、移民の存在を無視することは出来ない。移民と受け入れ社会での関係構築は古く、そして新しい問題である。その歴史的な連関性を検証することで、現代における我々の移民との共生の可能性を考察することを授業の目標とする。その際、シティズンシップの基本的な枠組みを理解し、これまでなされた研究を踏まえ、批判する方法を学ぶ中で、自身のテーマと「問い」を見出し、小論文を作成する。</p> <p>【学術分野】 法・政治 国際関係 歴史学 【授業形態】 ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | グローバル化、移民社会、国籍、シティズンシップ、ナショナリズム | | | | |
| 教科書 | 授業中に指示をする。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |

| グループ6 1年 文一二(9,18,20,23)文三(6,17,19) | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|-------|--------|--------|
| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
| 31700 | 水3 | 名著で読む世界史 | 大塚 修 | 歴史学 | 120 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 歴史学における重要な作業の一つは、史料を正確に読解・分析し、それに基づいて論じることです。この授業では、歴史学研究で用いられる史料がどのようなものかを実際に体感し、それをどのような手法で扱い、分析していくのかについて学びます。具体的には、高校の世界史に登場する史料の中でも特に著名なもの（例えば『名著で読む世界史120』に収録されている書物）の中から各自興味のある史料を選び、その日本語訳を一定の分量、通読します。そして、関連研究の成果を参照しながら、史料の性格について考察した上で、その史料を通じてどのような歴史が書けそうか、について考えます。さらに、その成果について報告・討論を行い、小論文を作成する作業を通じて、自分の考えを論理的に発信する能力を向上させることを目指します。</p> <p>【学術分野】 歴史学 【授業形態】 ディシプリン型 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 世界史、史料、イスラーム、ヨーロッパ、アジア | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 書名 『名著で読む世界史120』 著者（訳者） 池田嘉郎・上野慎也・村上衛・森本一夫（編） 出版社 山川出版社 ISBN 9784634640634 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31701 | 水3 | 北輝次郎『国体論及び純正社会主義』（1906年） を読み、考え、議論し、書く。 | 岡本 拓司 | 哲学・科学史 | 517 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 多くの皆さんはまだ自分で問うには早い段階にあるので、まず何かを読んで理解するとはどういうことかを知っていただきたい。基本的な知識や姿勢が整わないうちに、勝手に見様見真似で問題を立てると、解きやすいものを解きやすい方法で解いて、なるべく他人を傷つけないような無難な結論に陥ることが多い。そうした癖が身に着く前に、自分の限界が試されるような文献に取り組む経験しておくことは、どういう進路を選ぶにせよ、有益である。そのために、十分な注釈や研究の積み重ねがなく、しかしある時代の若者が力の限りを尽くして書いた文献を材料として準備した。</p> <p>【学術分野】 法・政治 社会・社会思想史 歴史学 哲学・科学史 【授業形態】 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。議論には積極的に参加してほしい。 | | | | |
| 授業のキーワード | 北一輝 天皇 社会主義 憲法 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| 参考書 | 書名 北一輝思想集成（2005年刊行のもの。増補版でない方を用いる） 著者（訳者） 北一輝 出版社 書肆心水 その他 コピーやPDFを用意するので個人で入手する必要はないが、古本などで入手してもよい。 | | | | |
| ガイダンス | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|----------------|-------|------|--------|
| 31702 | 水3 | 社会史の世界 | 土屋 和代 | 英語 | 119 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 授業の前半では、アメリカ近現代史・西洋史を中心に、社会史が登場した背景、その射程、限界と可能性について基本文献を読みながら学ぶ。後半では、自らが設定した研究課題に関する文献を読み、批評する力、先行研究の整理の仕方、論の組み立て方、史料収集・解析の方法、注や参考文献の書き方を学ぶことで、論文を書くための方法を修得する。</p> <p>【学術分野】 歴史学 【授業形態】 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 歴史学、人種・エスニシティ、階級、ジェンダー、史料、問いの設定 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31703 | 水3 | 社会科学入門 | 西村 弓 | 法・政治 | 518 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 社会科学分野における、課題設定、プレゼンテーション、討論、論文執筆といった学問の基本的な技法の基礎を修得すること。</p> <p>【学術分野】 法・政治 【授業形態】 ディシプリン型 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 社会科学入門、法学入門、論文作成、国際法 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31704 | 水3 | 持続可能な開発について考える | 岡田 晃枝 | 国際関係 | K401 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 この授業では、国際社会が直面している地球規模問題群のうち、国連の「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」に指定されたものについて、現状やこれまで（SDGs 制定以前含む）の国際的取組、その思想的背景など多角的に検討し、各自がこれらの問題に対するさまざまなアクターの取組について「問題」を設定して「検証」を行い、それを論文にまとめる。国際関係論や国際機構論、開発に関する学術論文だけでなく、国際機関の文書や報告書、資料の探し方や使い方についても学ぶことになる。また、文献から学ぶだけでなく、実務家を交えての議論も予定している。</p> <p>【学術分野】 国際関係 【授業形態】 ディシプリン+ケーススタディ型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | グローバル・ゴールズ、持続可能な開発のための2030アジェンダ、地球規模問題群、SDGs、MDGs、国際機関 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|----------------------------|---------|--------|--------|
| 31732 | 金 4 | 文学の研究方法 ——日本の近代文学を題材にして | 村上 克尚 | 国文・漢文学 | 115 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 このゼミナールでは、文学を研究するとはどういうことなのかについて考えます。題材は日本の近代文学ですが、ここで学ぶ方法は他の地域の文学研究にも応用可能だと思います。作品の語りの構造に注目して読む方法、作品発表時の歴史的・社会的な文脈に注目して読む方法、本文の生成過程に注目して読む方法など、文学作品に接近するための多様な方法について、段階を追って学んでいきます。</p> <p>【学術分野】 国文・漢文学 【授業形態】 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 「出席、報告および議論への貢献等の平常点」(30%)と「小論文」(70%)で評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 日本文学、文学研究 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| 参考書 | <p>書名 『大学生のための文学トレーニング 近代編』 著者(訳者) 河野龍也・佐藤淳一・古川裕佳・山根龍一・山本良編 出版社 三省堂 ISBN 978-4385365534 その他 2,100 円(本体価格)</p> <p>次の参考書を使用する。</p> <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会</p> | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31733 | 金 4 | 祖父母の体験に学ぶ昭和史 | 長谷川 まゆ帆 | 歴史学 | 117 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 祖父母または曾祖父など、少し前の世代あるいはそれに準ずる人から体験を聞きながら、自分の知らない過去(昭和史)について学ぶ。彼(女)らの人生に昭和の時代や社会がいかなる影を落としているか、どのように影響しているかを探ってみる。時代背景をよく理解するとともに、2011年の震災や原発問題を祖父母がどのように感じ考え受け止めていたかを戦争体験とも比較しながら聞いてみるのもよし。こうした聞き取り調査を通じて、履修者自身が自分の知りえなかった過去に出逢い、疑問や謎、違和感や驚きをそこから見つけ出し、それについてさらに文献を使って調べ、自分なりの答えを導きだしていく。またその自分の考えたことを他者に伝え、それについての討論を経て自身の認識を広げていく。他の人に自分の考えを過不足なく伝えたり、対話していく技法を学ぶこともねらいの一つである。</p> <p>【学術分野】 歴史学 【授業形態】 フィールド型+ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 昭和史、聞き取り、戦争、記憶、体験、過去 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | <p>書名 『読む、書く、考える—』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 出版社 —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト</p> <p>書名 生きて帰ってきた男 著者(訳者) 小熊英二 出版社 岩浪新書 2015年 ISBN 9784004315490</p> <p>第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|----------------|-------|--------|--------|
| 31734 | 金 4 | 言語哲学の問題と方法 | 藤川 直也 | 哲学・科学史 | K402 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 参加する学生が、古典と言われる文献や当該分野の基本文献を読み解きつつ、そのディシプリンの手法や議論の系譜を知り、それについての批評や討論を通じて、アカデミックな「批判」のありかたを身につける。また、その過程をつうじて、自分なりの「問い」を導き出していくことを目指す。この講義では、まず、現代の言語哲学の基礎をなす古典的な文献を読み(各論文について、鍵となる例文を選び出し、その例文が提示する問題と、それに対する著者の解決をまとめるという作業を行う)、言語哲学の問題と方法について学ぶ。その上で、自ら設定した問題について言語哲学のアプローチをふまえた分析を行い、発表および小論文の形でまとめる。</p> <p>【学術分野】 哲学・科学史 【授業形態】 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 言語哲学、言語学、意味論、語用論、論理学 | | | | |
| 教科書 | 授業中に指示をする。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 書名 言語哲学重要論文集 著者(訳者) 松阪陽一編訳 出版社 春秋社 ISBN 978-4393323106 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31735 | 金 4 | データ分析入門 | 倉田 博史 | 経済・統計 | 118 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 教科書の輪読と各人の個人研究・プレゼンテーションを通して、データ分析の基礎事項を学び、統計資料からより効率的に情報を抽出するための知識と技能を身につけることを目指す。</p> <p>【学術分野】 経済・統計 【授業形態】 ディシプリン型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 個人研究・個人発表・自由研究、データ、統計資料、統計モデル | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| 参考書 | 書名 数学嫌いのための社会統計学(第2版) 著者(訳者) 津島昌寛・山口洋・田邊浩 出版社 法律文化社 ISBN ISBN978-4-589-03619-3 その他 但し変更もあり得る。ガイダンスで確定する。 次の参考書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31736 | 金 4 | イスラム教を通して世界を見る | 菊地 達也 | 文学部 | 116 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 イスラム思想、イスラム教徒、イスラム世界に関する複数の小論を読んで論じることで、多様なものの考え方に触れつつ、既成の概念を問い直し学問的に自説を展開するやり方を身につけることを目標とする。</p> <p>【学術分野】 哲学・科学史 【授業形態】 文献批評型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | イスラム学、イスラム教徒、宗教研究 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』 著者(訳者) 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|---------|-------|---------|------|
| 31737 | 金 4 | 文化人類学入門 | 藏本 龍介 | 東洋文化研究所 | K501 |
| 授業の目標・概要 | <p>【共通目標】 本誌「初年次ゼミナール文科の履修について」の頁を参照のこと。</p> <p>【この授業の目標・概要】 文化人類学は、人間の具体的な生き方を通じて、「人間とはなにか」を問う学問である。そのためにフィールドに赴き、人間の諸活動（言語、宗教、政治、経済、芸術、法、開発、医療、教育など）に関するデータを収集・分析する。この授業では、こうした文化人類学的な関心および方法論を踏まえ、各自で設定したテーマについて文献調査・フィールド調査を実施し、それを論文としてまとめる訓練を行う。具体的には、個人で行う発表のほか、グループディスカッションや、ディベートの機会を設ける。こうした実践練習を通じて、①自らの主張を論理的な構造に基づいて発表する、②他者の発表を的確に批評する、③自らの主張の正当性を説得的に主張するといった技術を養うことを目的としている。なお、授業形態は「フィールド型」であるが、フィールド調査は必須ではない。逆に、フィールド調査を実施する場合でも、関連する文献調査は必須とする。</p> <p>【学術分野】 文化人類学</p> <p>【授業形態】 フィールド型</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 討論、レポート作成、フィールド、発表技術 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 次の参考書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | <p>書名 『読む、書く、考える —東京大学初年次ゼミナール文科 共通テキスト—』</p> <p>著者（訳者） 東京大学教養学部初年次ゼミナール文科運営委員会</p> <p>第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |

初年次ゼミナール理科の履修について

初年次ゼミナール理科はクラス指定の必修科目である。クラスごとに指定されたグループ（各2曜限）に開講されている授業のうち、1授業を希望選択して受講する。希望が集中した場合は抽選となる。本冊子とともに配布されたプリント「【重要】履修登録について」の該当箇所にしたがって、登録期間内に必ず履修希望登録を行うこと。

第1回授業時には合同のガイダンスを行う。個別授業の教室とは別の教室で行われるので注意すること。各授業の開講される曜限で授業担当教員が授業紹介を行う。指定されたグループに割り当てられた2曜限のうち、履修を検討している授業の曜限のガイダンスに出席すること。

第2回授業時には、合同でサイエンティフィック・スキルに関する導入の共通講義を行う。教室は第1回のガイダンスと同様である。指定されたグループに割り当てられた2曜限のうちのどちらかで授業を受けること。

第3回目からは、少人数に分かれたクラスで授業が行われる。UTASにて決定された履修授業と教室を確認すること。

この授業の教科書として『科学の技法—東京大学「初年次ゼミナール理科」テキスト—』がある。必要に応じて購入し、プレゼンテーション準備やレポート・論文執筆の際に参照すること。

また、初年次ゼミナール理科のウェブサイト FYS portal (<http://fye.c.u-tokyo.ac.jp/>) にてオンライン教材や教務情報、機材使用法等の情報を提供するので活用してほしい。また、ITC-LMS の初年次ゼミナール理科共通エリアで教材やお知らせを掲載することもある。

この授業に関する授業外サポートとして、21 KOMCEE West 地下のスペースでラーニングコモンズを開室し、アカデミックスキルに関する講習会やTAによる学習相談、自習機材の貸し出しを行う。開室時間等は FYS portal や UTAS 上で告知する。

| グループ名 | 開講曜限 | 対象クラス |
|-------|-------|--|
| グループ1 | 月4・水4 | 1年 理一(1-6,10,16,18-19)理二三(4,7) |
| グループ2 | 火1・木2 | 1年 理一(9,12,14,20,39)理二三(6,8,15,20) |
| グループ3 | 火3・木3 | 1年 理一(7-8,11,13,15,17)理二三(9-10,14,19) |
| グループ4 | 火4・金1 | 1年 理一(23,26,28-29,33,36-37)理二三(12,16,24) |
| グループ5 | 水2・金3 | 1年 理一(21,25,27,30-32)理二三(1-3,5,11,13,21) |
| グループ6 | 水3・金4 | 1年 理一(22,24,34-35,38)理二三(17-18,22-23) |

第1回・第2回合同授業教室：UTAS, FYS portal で告知します

初年次ゼミナール理科

グループ1 1年 理一(1-6,10,16,18-19)理二三(4,7)

| グループ1 1年 理一(1-6,10,16,18-19)理二三(4,7) | | | | | |
|--------------------------------------|--|--------------|--------|-----------|--------|
| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
| 31409 | 月4 | 身近な物理でサイエンス | 松本 悠 | 教養教育高度化機構 | K402 |
| 授業の目標・概要 | <p>簡単な測定や実験データ整理・解析、ものづくり等を実際に経験してもらい、試行錯誤や実験の難しさと計画性の重要性などを学んでもらいます。限られた材料・工具・時間の中で、自由な発想をもって、問題発見と解決方法・実験方法などを自分たちで考察してもらいます。小グループに分かれ、議論による協調学習を通して、コミュニケーション能力を伸ばしてもらいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何かを研究する時に、何が分かっているか、何が分かっているのか、何が問題でどうやったら解決できるのか、自分の頭で考えることができるようになる ・実験データの簡単な解析方法と、そこから導かれる結論を論理的かつ客観的に論じる力を身につける ・自分の考えを、分かりやすく他人に伝え、情報を共有することで新たなアイデアや知見を得るための、サイエンスコミュニケーション能力の基礎を身につける | | | | |
| 成績評価方法 | <p>初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 (この講義での個別の評価基準) より良いデータ取得を目指して、独自性のある、コストパフォーマンスの良い、実験機の開発・改良ができたか</p> | | | | |
| 授業のキーワード 教科書 ガイダンス | <p>問題発見・解決型、データ解析型、物理、小実験、サイエンスコミュニケーション 教科書は使用しない。 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 31411 | 月4 | 光は粒子か？電子は波か？ | 志村 努 | 生産技術研究所 | シラバス参照 |
| 授業の目標・概要 | <p>(授業の概要) 普通の感覚では、光は波であり、電子は粒子である、と思うのが普通だろう。だが、デジカメの撮像素子、人間の目といった光の検出器は光子 (photon) の数を勘定することで光の強さを検出している。一方、特殊な電子顕微鏡を用いると、電子(electron)は光のように干渉し、干渉縞を作ることができる。光子や電子とはいったい何者なのか。波なのか、粒子なのか、それとも両方なのか。場面場面で姿を変えるのか。これらに関して文学的な言葉ではなく、物理の言葉で理解し、表現し、他人に説明できるようになることを目指して、自らの力で調べ、議論し、体験しながら理解を深めていく。どこまで理解すれば良い、という目標は設定しない。各自が自らの力で、またグループの協力により理解を深めてもらう。おそらく理解が進めば進むほど、さらに知らねばならない、考えねばならない事項が雪だるま式に増えてくる、ということに気付くであろう。教員と TA は最小限の方向性を示し、必要に応じてアドバイスを与え、相談に乗り、ともに議論する。</p> <p>(授業の目的) ・光子とは何か、電子とは何か、光や電子の波動性と粒子性とは何か、光を電子に変換して測定するとはどういうことなのか、等を、なにがしかでも正しく理解し、他者に説明できるようになる。 ・物理の現象を、文学的な言葉ではなく、物理の言葉で理解し、他者に説明できるようになる。 ・光子や電子とは何かということを考えることをきっかけにして、自力で幅広く物理学の理解を深め、周辺分野にも触手を伸ばし、必要となるスキル (たとえば数学など) を身につけていける能力を養う。</p> <p>(開講場所) 駒場リサーチキャンパス (駒場 II) キャンパス内 生産技術研究所 総合研究実験棟 As 棟 中セミナー室 2 (As301・302) アクセスマップ http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/access/access.html キャンパスマップ http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/access/campusmap.html 参照のこと</p> | | | | |
| 成績評価方法 | <p>初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> | | | | |
| 授業のキーワード 教科書 ガイダンス | <p>問題発見・解決型、応用物理学/光学、光子、物質と光の相互作用、光のエネルギー 教科書は使用しない。 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 31418 | 月4 | 海を知ろう | 黒田 潤一郎 | 大気海洋研究所 | K302 |
| 授業の目標・概要 | <p>本授業は、大気海洋研究所所属の教員 2 名のリードのもと、「海」について様々な側面から掘り下げて考える機会を提供します。「能動的」な学びの過程を通じて皆さんに「研究」の初歩を体験してもらおうことを目指します。海に関する予備知識は必要ありません。むしろ、海について学んだことのない方の履修を歓迎します。 本授業で主に行うのは、調べる、まとめる、発表する、議論する、といった作業です。中でも、特に「議論」に重点を置きます。教員の発表を学生が聞く時間は必要最小限にし、学生が主体的に参加し進めてゆく授業となります。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | <p>初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> | | | | |
| 授業のキーワード 教科書 ガイダンス | <p>議論・調査・発表、海洋・物理・地学・化学・生物 教科書は使用しない。 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |

| 時間割 コード | 曜日 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|--------------------|-------|-----|--------|
| 31427 | 月 4 | 数値流体力学による 航空機設計入門 | 今村 太郎 | 工学部 | E25 教室 |
| 授業の目標・概要 | 本講義の目標は以下の3点です。 ①航空機の翼型周りの流体解析を通じて、流体力学について学ぶと共に、航空機の空力設計を体験してもらいます。 ②最先端の数値流体力学コード（拙研究室にて現在進行形で開発中！）を利用方法を学びます。計算機/ソフトウェアの利用方法やデータ可視化/データ分析方法についても学びます。 ③2つの課題に対して、個人/グループでのアプローチを行ってもらいます。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 授業のタイプ（「問題発見・解決型」など）、航空機、流体力学、計算科学、授業のキーワード3、授業のキーワード4 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31428 | 月 4 | バーチャルリアリティ入門 | 檜山 敦 | 工学部 | K301 |
| 授業の目標・概要 | インタラクティブなバーチャルリアリティ体験をつくることを目標とする。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | ワークショップ、情報工学、バーチャルリアリティ、3Dモデル、音声の加工変換 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31429 | 月 4 | 化学工学を理解して、地球温暖化に挑む | 脇原 徹 | 工学部 | E35 教室 |
| 授業の目標・概要 | 「持続可能な社会」を実現するためには地球温暖化問題を克服しなければならない。 既に地球温暖化による影響は各所に見られるようになってきたが、依然として CO2 をはじめとする地球温暖化ガスの排出量は増え続けているのが現状である。危機的状況にあるといっても過言ではない。この問題に取り組むためには、特にサイエンス&テクノロジーの役割は大きい。特に、“化学システム工学”がキーであり、本授業ではこれを学んでもらう。 化学システム工学とは、化学を基盤に、地球、社会、環境、安全など幅広い視野からシステムチックに対象をとらえる学問である。現実を踏まえた幅広い視野から対象をシステムチックに深く探求する。このアプローチこそが、現実の問題解決への具体的なビジョンを示す可能性をもっている。 この授業を通じて、地球温暖化は食い止めることが可能である、ということを理解してもらいたい。 1年生の少人数クラスでの議論を通して、正解が明らかでない問題について考える力を養うことを目的とする。意欲のある学生を歓迎したい。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 地球温暖化、問題発見・解決型、エネルギー・環境、持続可能な社会、化学工学 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31477 | 月 4 | 都市における自然の恵みを考える | 松下 範久 | 農学部 | K201 |
| 授業の目標・概要 | 【授業の概要】 日本は、陸地面積の約3分の2が森林に覆われた自然の豊かな国です。東京大学の構内にも、古くから多くの樹木が植栽されて緑豊かなキャンパスを形作っています。私たちは、自然から様々な恩恵を受けていますが、日常生活で身近な自然の恵みを意識することは少ないかもしれません。本ゼミナールでは、私たちは自然からどのような恩恵を受けているのか、そうした恩恵を得るためにはどのように都市の自然を管理すればよいのか、そして今後、都市で良好な人と自然の関係を築くためには何が必要かなど、都市の自然とそこで生活する人々との関係に関するテーマを自ら設定し、論文の読解や駒場キャンパスでのフィールド調査、結果の取りまとめや発表、学生間の討論を通じて、自然科学研究の思考や方法を体験します。 | | | | |
| 成績評価方法 | 【授業の目標】 ・フィールドサイエンスの魅力や面白さを理解する。 ・論理的に思考する能力を身につける。 ・自ら課題を発見し、解決のための方法を考える能力を身につける。 ・自分の考えを分かりやすく他人に伝え、情報を共有することで新たなアイデアや知見を得るための、コミュニケーション能力の基礎を身につける。 | | | | |
| 授業のキーワード | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 教科書 | 問題発見・解決型、農学/生態学、生態系サービス、都市生態系、フィールド調査、グループワーク 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|--------------------------|-------|-----|--------|
| 31478 | 月 4 | ワンヘルスと感染症を考える | 芳賀 猛 | 農学部 | K501 |
| 授業の目標・概要 | <p>ワンヘルス (One Health) は、人、動物、環境は相互に密接な関係があり、それらを総合的に良い状態にすることが真の健康である、という概念です。グローバル化が加速し、世界的な人口増加の中、環境・食糧・感染症といった、人類共通の課題がクローズアップされてきます。このような課題の克服には、世界は一つ、健康も一つ "One World, One Health" の観点から、地球規模で、分野横断的なアプローチが求められます。</p> <p>この講義では、獣医学と農学国際の専門家が担当します。前半は日本の事情を中心に、後半は途上国の事情を中心に、ワンヘルスと感染症という観点から、動物や人類との関わりをトピックごとに考えます。講義の中では、現状を調査して課題についてグループディスカッションを行い、多様な意見を交換することで課題解決への糸口を探ります。</p> <p>講義の折り返し時点で、文京区弥生にある農学部キャンパスを見学する機会を設けています。ここでは、東大農学部の教授であった上野博士の忠犬ハチ公の臓器を教材に、犬の健康を侵すフィラリアを学んだり、農学部キャンパスにある世界動物保健機構 (OIE) のアジア太平洋事務所との協力を得て国際機関の役割を紹介し、テーマについての理解を深めます。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 「問題発見・解決型」、農学/獣医水産学、感染症、健康、食料、環境 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31396 | 水 4 | 数式の可視化・直感的理解・訴求力 | 齋藤 晴雄 | 物理 | E25 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>目標1 数式を含む定理、法則について可視化を用いた説明の能力を身に着けること 目標2 定理、法則の意味を他者に分かるように伝える能力を身に着けること 目標3 授業で取り扱わなかった定理、法則については、自分の理解のレベルが自分で判断できるようになること。</p> <p>高度情報化社会の中で、我々に求められる「知」の形が変化しつつあるということがしばしば語られています。一方、理系学問の骨組みであり、主要言語でもあるところの「数式」については、社会の中での受け取られ方にまったく変化が見られません。</p> <p>高度情報化以前も以後も、一般社会の中での「数式」は、まったく意味不明なものであり、敬遠すべきものの代表格とされています。一方、その意味を理解するものにとっては、「数式」には深い意味があり、物理では世界観の一部をなしています。しかし「数式」の意味を理解していると自負している「専門家」はともすれば、本来の意味を超えて使ってしまうがちで、それが再び一般社会での敬遠傾向を強め不信を招いているようです。</p> <p>このように、「数式」をとりまく状況は、社会の高度情報化の影響を今のところまったく受けていないように見えます。したがって、もし1年生の皆さんが、数式の意味を正確に他人に伝達する能力を身に着けたとすれば、それは今後の皆さんの人生にとって、大きな武器となる可能性があります。言い換えれば、AIでは代替できない仕事ができるようになる、ということです。</p> <p>この授業では、数学の定理や物理法則をテーマとして選び、それを他人に分かるように説明する方法を皆さんに考えてもらいます。その際「可視化」が重要な方法となりますので、多少のプログラミングが必要になります。もちろん「可視化」以外の視点も必要になるでしょう。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 遅刻、欠席は厳禁です。 複数回の「達成度アンケート」を行いますが、これはテストではありませんので、回答内容が成績に影響することはありません。 授業の性格上、学力的な達成度でなく、努力の度合いを評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 原理解明・伝達型、「数学」「物理学」、定理、物理法則、可視化、プログラミング | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31423 | 水 4 | 食行動の分析に基づく ヘルスプロモーション | 山本 則子 | 医学部 | K301 |
| 授業の目標・概要 | <p>本講義では、駒場学生の日常生活活動の中でも食行動にまつわる健康課題を特定し、改善策を報告書にまとめる。健康課題を特定するために必要な研究的アプローチの手法として、食行動・食事摂取実態を観察するための手法（観察・計量等の手法）と、一般的な社会調査の手法（既存データ分析、インタビュー調査、フィールドの参与観察、資源マッピング等）を組み合わせる。</p> <p>駒場学生の生活する環境の分析、及び解決策創出の過程を踏みながら、「学生の健康」が「キャンパス環境」に影響されていることを体感的に学び、また、健康総合科学の科学的手続きについて学ぶ。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、医学/看護学、健康、食行動、コミュニティ、学生生活 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | <p>書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会</p> <p>第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|--------------------------------------|-------|-----|------------------|
| 31430 | 水 4 | 未来のエネルギーを考える | 鈴木 雄二 | 工学部 | K302 |
| 授業の目標・概要 | <p>エネルギー問題の解決には、技術的な側面だけではなく、環境への配慮、経済、地域特性といった多方面からの検討が必要である。本ゼミナールでは、現実の社会問題にはこういった複雑な背景があることを理解しながらエネルギー問題の解決策や未来予測を行うことを通じて、問題解決能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>まず、日本と世界のエネルギー事情を概観した後、(1)ガスタービン、エンジンなどのエネルギーの基盤技術、(2)自動車をめぐるエネルギー技術、(3)IoT デバイスに必要とされるエネルギーハーベスティング技術の3つのテーマについて学習する。これら基本的な仕組みや原理に関する学習の後、グループに別れ、研究段階の技術から実用化された技術までの調査を行い、調査結果のプレゼンテーションを行う。現状を把握した上で今後の課題を抽出し、将来展望を議論する。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、機械工学、エネルギーシステム、地球温暖化、エネルギーハーベスティング（環境発電） | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 | | | | |
| | 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 | | | | |
| | 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31431 | 水 4 | モーションコントロール入門 ---ロボットや車両を上手に動かす科学 | 古関 隆章 | 工学部 | K401 |
| 授業の目標・概要 | <p>すでに高校の物理で習ってきたように、目の前のものから、天体に至るまで世にあるものは力学に関する物理法則にしたがって動いている。ニュートンにより提唱された力学の法則は数学的表現では、時間に関する二階の微分方程式の形をとり、ものをうまく動かすために、その微分方程式に基づく「動的な性質」を理解し取り扱うことが重要になる。ものの「動的な性質」に着目して対象をモデル化し、状態を計測し、リアルタイムに情報を処理して、入力をうまく決め、「思ったように物を動かす」一連の手法を制御という。ここでは、倒立振り子という、そのままでは倒れてしまうものを例題に、上手にものを動かすモーションコントロール=運動制御について、グループでの議論、数値計算、実験を通じて学び、数式に基づいて論理的に考えることの大切さを体験することを目的とする。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 授業のタイプ 実験データ解析型、学術分野 工学/電気電子工学、ロボット、車両、動的システム、運動制御 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 | | | | |
| | 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 | | | | |
| | 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31432 | 水 4 | 化学で脳の謎を解く | 平林 祐介 | 工学部 | KALS（17号館 2階） |
| 授業の目標・概要 | <p>概要：「生命」は化学物質の変換を巧みに行い自律的に活動する複雑なシステムです。また「分子」はそれら化学物質の基本的な構成単位であり、その機能の発現において中心的な役割を担っています。生命や分子を「化学」の視点から眺め理解することは、我々自身やまわりの現象を深く知る上で欠かすことができません。</p> <p>私たちは「化学」の力を使い、「分子」をデザインすることで自らの創造力を具現化することができます。これによって天然に存在する分子を模倣したり、自然界には存在しない人工的な分子や素材を創り出したりすることで、これまでにない全く新しい機能を持たせることも可能になります。これらのアプローチは生命現象の理解や病気の治療法の考案など、人類社会が抱える数多くの問題を解決する糸口を提供します。</p> <p>本ゼミナールでは生命体が我々の脳に高度な機能を与えるためにとったストラテジーの解明や、脳の機能が異常を示した際（＝病気）の解決策について、化学や分子の視点から文献調査やディスカッションを通じて主体的に考えることを主眼にしています。最終的にオリジナリティの高い提案を行うことを目標に進めていきます。</p> <p>具体的には、ニューロン同士の結合パターンや、ニューロンの活動パターンなど脳が働くメカニズムを知るのに役立つ分子や、脳の病気の治療を目指せるような分子のデザインに挑戦します。脳の中でどのような分子が活躍しているのかを理解しながら、それらの分子を模倣したり改変したりすることで、世界でたった一つのオリジナルの分子をデザインしましょう。</p> | | | | |
| 授業の目標 | <p>授業の目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 解決すべき 問題に対して自ら課題を設定し、解決法を提案する主体性を育成する。 グループによる課題設定。進捗状況の共有、プレゼンテーションの実施、質疑応答など共同作業におけるスキル、グループワークにおける主体的な関わり方を身につける。 自然科学における論理的思考法、批判的思考法、建設的な議論などの組み立て方について学ぶ。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、化学/生命科学、有機化学、脳神経 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 | | | | |
| | 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 | | | | |
| | 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-----------------------------------|-------|-----|---------|
| 31433 | 水4 | エネルギーと環境：人類社会の持続性 のための工学技術を考える | 小林 肇 | 工学部 | 1109 教室 |
| 授業の目標・概要 | (授業の概要) 地球温暖化の進行を緩和しつつ、社会の発展を維持するために十分なエネルギーの供給を続ける事は、一つの領域の技術や対策だけでは成し遂げることは出来ません。新たな技術オプションを創出して行くと共に、多様な技術群を結びつけ総体として最適に機能させるシステム思考的アプローチが必要となります。本ゼミでは、エネルギーと環境に関わる現行から最先端の多様な技術の小実験を行い、それら技術の基礎学理を学習するとともに、実験・データ解析・考察手法を習得します。さらに、そこで学習した知見と最新の技術動向を基に未来の新技术システムを自分たちでデザインし、持続可能性へ寄与する新たな方法論を提案・議論します。 | | | | |
| 成績評価方法 | 小実験では、具体的には火力発電、太陽光発電、風力発電、燃料電池、水素エネルギー、ヒートポンプ、二酸化炭素地中貯留、温度差発電、バイオエネルギー変換に関するそれぞれ基礎的な実験を行います。単に技術の原理を学習するだけでは無く、当該技術の現状を学んだり、課題を考察したりします。 | | | | |
| 授業のキーワード | また、エネルギー・環境に関わる最新の動向を調査・学習し、課題を正しく把握する事を通じた上で、それらを解決する為の未来の技術システムをデザインします。システムとは、一つの技術をより良く機能させる方法論、または複数の技術を組み合わせたもの、あるいはある技術を中心としたビジネスモデルも含まれます。このデザインを小グループで独自に考案する事で、グローバルな問題に対するシステム思考的アプローチを身につけます。 | | | | |
| 教科書 | (授業の目的) ・ エネルギー・環境に関わる多様な技術を深く掘り下げて研究する事により、工学的な方法論や考え方を学ぶ。 ・ エネルギー・環境に関わる最新の動向、課題を正しく把握する事を通し、これからの学習・研究の基盤知識とすると共に、グローバルな問題に対するシステム思考的アプローチを身につける。 ・ 実際に動作する装置を組み立て、実験する事により、問題解決能力を養う。 ・ 小グループで独自に調査、立案、検証、議論し、創造する楽しさを体験する。 | | | | |
| ガイダンス | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 問題発見・解決・データ解析型、工学、エネルギー、環境、データ測定と解析、小実験 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31465 | 水4 | ロボットオペレーティングシステム | 加藤 真平 | 理学部 | E35 教室 |
| 授業の目標・概要 | 自律移動ロボットや自動運転システムの開発に欠かせなくなっているロボットオペレーティングシステム（ROS）を用いたプログラミング演習を行います。講義の中で提供されるセンサーのデータを利用して、仮想空間上でロボットや自動運転車を動かしてみることににより、自律移動ロボットや自動運転システムに必要とされる要素技術を学びます。 | | | | |
| 成績評価方法 | 作成したプログラムの提出とレポート評価。 | | | | |
| 授業のキーワード | 自律移動ロボット、自動運転システム | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31479 | 水4 | プラスチックと人類の共存を考える | 岩田 忠久 | 農学部 | K303 |
| 授業の目標・概要 | プラスチックは石油から合成され、熱により様々な形に成形加工でき、軽くて、丈夫で長持ちし、人類の生活を劇的に快適にした 20 世紀の最大の産物であるといっても過言ではありません。しかし現在、プラスチックの焼却に伴う二酸化炭素排出による地球温暖化問題、石油資源の枯渇、海洋マイクロプラスチックなどの環境破壊および生態系への影響などが世界規模の解決すべき課題となっています。本初年次ゼミでは、前半部分で、プラスチックの環境への影響とその解決について、「生分解性プラスチック」と「バイオマスプラスチック」の観点から一緒に考えます。 | | | | |
| 成績評価方法 | 後半では、プラスチックと同様に、石油から製造され、製品の利用には欠かせない接着剤を取り上げ、接着剤と環境を主要テーマとして、低炭素社会とバイオマス利用の観点から一緒に考えます。接着の技術は紀元前のエジプトから利用されています。しかし、その現象は未だに科学的に解明されていません。接着することはわかっていても、接着のメカニズムはわかっていないのです。地球上で植物によって固定される炭素は、エネルギー化して CO2 として排出されても問題はないはずですが、その炭素をより長く固定化することで、二酸化炭素の増加は食い止めることができると考えることもできます。粘接着現象を解明することにより、炭素の固定化にいかに関与できるかを一緒に考えます。 | | | | |
| 授業のキーワード | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のタイプ「問題発見・解決型」、ポリマー（高分子）、生分解性プラスチック、バイオマスプラスチック、接着剤、環境保全 | | | | |
| 教科書 | プリントを配布する。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| グループ名2 1年 理一(9,12,14,20,39)理二三(6,8,15,20) | | | | | |
|---|---|-------------------------------|-------|-------------------|--------|
| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
| 31398 | 火1 | 天然有機化合物の構造と機能を考える | 浅井 禎吾 | 化学 | K302 |
| 授業の目標・概要 | <p>有機化合物の構造決定は、有機化学の最も重要なスキルの一つです。本ゼミナールでは、有機化合物の構造決定を題材として、研究に必要な論理的思考を養ってもらいます。自然界には多種多様な有機化合物が存在する。微生物や植物がつくり出す二次代謝物は、染料、香料、スパイス、薬に使われる。また、われわれ人類も他の生物と同様、多種多様な有機化合物の生成と代謝を行って生命を維持している。網羅的な解析が行われるようになると、膨大な未知化合物の存在が明らかになってきており、未知化合物の構造を決めるといのは、有機化学のみならず生命科学研究においても重要なスキルです。</p> <p>有機化合物の構造決定はNMRを主とするスペクトル解析により行います。推定構造を設定し、全てのスペクトル情報で矛盾がないか検証し、一義的に構造を導き出す過程は、研究推進能力を養うのに最適な教材と言えます。この授業では、序盤にNMRスペクトルの読み方の基礎を学び、また、演習を通して自ら化合物の構造を決められる力を養います。終盤ではグループごとに異なる天然有機化合物の生データを読み解き構造を導き出します。しかし、与えたスペクトルだけで決定できるとは限りませんので、どのような情報があれば構造が決められるかなども考えて頂きます。プレゼンテーションでは、構造をどのように導き出したか論理的に説明する能力とディスカッション能力を養って頂きます。</p> <p>また、グループワークでは、NMRスペクトル解析に取って代わる汎用性の高い構造決定法についてアイデアを出して頂き、発表してもらうことも予定しています。有機化合物の構造は決められるという感覚と分子を構造レベルで考える習慣は、様々な研究分野で役立つと期待しています。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、有機化学、有機化合物、構造決定、NMRスペクトル解析、生合成 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | <p>書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科</p> <p>著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編</p> <p>出版社 東京大学出版会</p> <p>第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 31408 | 火1 | 宇宙物理学・天文学の(最先端)研究に 挑戦してみる。 | 鈴木 建 | 宇宙地球 | 515 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>受講生が自らの興味で以下のような内容に主体的に取り組み、発表していく形式を取ります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.最先端の論文を読む。 2.新たな問題を設定する。 3.可能であれば解いてみる。必要に応じて数値計算を行う。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 「問題発見・挑戦型」、宇宙物理学・天文学、力学、電磁気学、流体力学 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | <p>書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科</p> <p>著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編</p> <p>出版社 東京大学出版会</p> <p>第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 31416 | 火1 | ヒッグス粒子のみつけかた | 石野 雅也 | 素粒子物理国際 研究センター | E39 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>古代ギリシャの哲学者たちが「万物の根源・原初的要素は何者か？」と問い、「土・水・空気・火」と答えた数千年前から、素粒子物理学は人類共通の興味の対象であり続けている。その深遠な問いに対する答えをみつけるために、研究者たちは実験的に検証をするための道具（加速器、検出器、計算機）の性能を向上させ続け、実験的データとして記録・解析し、新しい人類共通の知として成果をまとめ、再解釈してきた。</p> <p>この繰り返しにより、特に過去40年間、素粒子物理学の研究は急速な進歩を遂げ、素粒子の相互作用についての理解、初期宇宙に関する知見（科学的な推論を含む）を得てきた。「ヒッグス粒子の発見」は、2012年夏に成し遂げられた歴史的なイベントで、翌年、ノーベル賞が授与された。これをきっかけに、素粒子物理学は次の大きな問いに挑戦するスタートラインに立ったところである。</p> <p>これまでの素粒子物理学が理解してきた世界、そこで使われる道具の原理、今後どのような問いがあってどのようなアプローチをかけていくのか？授業中のやりとりを通じて、これらの事を理解し、また、それらのことが意外と少数の基本原則から理解できることを実感できる様になりたいと思う。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 授業のタイプ（「対話型」）、学術分野（物理/素粒子物理）、(1) 科学的で論理的な問い 推測 検証、(2) 素粒子物理・初期宇宙の疑問、(3) 素粒子物理実験の原理 | | | | |
| 教科書 | 授業中に指示をする。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|--------------|-------|-----|--------|
| 31426 | 火1 | 外科学入門 | 川合 一茂 | 医学部 | E35 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>外科学、特に当教室で扱っている大腸肛門疾患及び血管疾患に対する外科を題材として大きく2つのことを学ぶ。外科、という単に手術をする部署、というイメージがあると思うが、実際には基礎的な研究から疾患の予防・発見・治療まで、はば広い内容を扱う部門である。外科で扱う多様な業務内容の全体像をつかんでもらうことが1つ目の目的である。また医学においては実際の患者さんの治療を行うだけでなく、臨床から得られた様々な情報を解析し、論文の形にまとめることも重要な業務の1つである。そこで実際にこの作業を体験してもらい、医学研究を行うに必要な基本的な手法を身につけて貰うのがもう1つの目的である。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | スライドによる講義、医学/外科学、腫瘍外科、血管外科、医学研究 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31434 | 火1 | 環境の認知と空間デザイン | 松田 雄二 | 工学部 | K301 |
| 授業の目標・概要 | <p>皆さんは、「自分は地図を読むことができない」とか、「慣れない場所だと迷いやすい」などと感じたことはありませんか。「自分は方向音痴だ」などと感じたことは、ありませんか。</p> <p>迷いやすい人もそうで無い人も考えてもらいたいのですが、ではなぜ、人によって迷いやすかったり、そうでなかったりするのでしょうか。私は建築の専門なので、「迷いやすいのは、環境が（自分にあわせて）きちんとデザインされておらず、適切な情報が発信されていないのが悪い」と考えます。問題は、環境のデザインのされ方なのです。</p> <p>私たちは、あたりまえですが環境の中に存在しています。これは、私たちが生きるために利用するすべての情報は、私たちが対峙する環境の中から取得されることを意味します。たどり着きたい場所になかなかたどり着けなかったり、迷ってしまったら、このようなことは、環境の中の情報を私たちが上手に利用できていないから発生します。</p> <p>この状況は、建築の設計者や都市構造の設計者などのデザイナーの立場からは、上述の通りきちんと環境がデザインされていないから発生する、とも考えられます。でも、環境はあまりにもあたりまえに私たちの目の前に存在するので、なにが「よくない/わかりにくい」デザインなのか、指摘することはそれほど簡単な事ではありません。</p> <p>この授業では、まず私たちがどのように環境を捉えているのかということについて、建築学や心理学などの分野で研究されてきた成果をもとに解説します。次に、それらの知見をもとに、私たちが「あたりまえ」のものとして感じている環境を見つめ直し、そこにどのような「意味」が隠されているのか、実際の環境を歩きながら考えます。</p> <p>引き続き、情報が環境に埋め込まれているという視点から身の回りの環境をじっくり観察し、目的とする行為に対し、環境がどのような情報を発していれば良いのか、既存の環境を改善する具体的な提案まで、検討することを目指します。</p> <p>本講義は、建築と環境のデザインに関わる内容ではありますが、デザインそのものは問題ではありません。本講義での到達目標は、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あたりまえ」の環境を、分析的な視点から観察すること ・「あたりまえ」の環境から、特徴や問題点を見つけ出すこと ・観察と分析の結果を、わかりやすくプレゼンテーションすること | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、工学/建築学、環境デザイン、フィールドワーク、プレゼンテーション | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31435 | 火1 | 体験で学ぶ電磁気学 | 関野 正樹 | 工学部 | K303 |
| 授業の目標・概要 | <p>【授業の概要】</p> <p>磁気浮上は、将来の高速鉄道への応用に関して注目を集めています。磁気による安定な浮上を実現する代表的な方法として、電磁力と制御技術の使用、超電導、反磁性効果などが知られています。電磁場を直接的に利用した現象である磁気浮上を通じて、目に見えない電磁場を体験的に理解することができます。本ゼミナールでは、科学おもちゃや、カエルを磁気浮上させた実験、超電導体など、様々な磁気浮上現象を題材として、磁気浮上の原理や、安定な浮上を実現する条件を考察します。磁場分布の測定も行い、電磁場を可視化することによって、理解を深めます。各回の講義のはじめに、電磁気学の初歩的な講義も行います。小グループに分かれて、グループ毎に題材を選んで理論的検討や実験を行い、その結果を発表します。電磁気学は、理科系の広い分野と関係しており、本ゼミナールで身につけた電磁気学の理解や、現象をモデル化する技法は、様々な場面で役に立つことが期待されます。</p> <p>【授業の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの力で課題を定義し、それを解決するプロセスを体験する。 ・物理学の理論を、実際の問題の解決に活用するための応用力を養う。 ・現象の本質を抽出して単純なモデルで表現し、その振る舞いを考察する技法を身につける。 ・自分の考えをまとめて分かりやすくプレゼンテーションする能力を身につける。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、工学/電気電子工学、電磁気学、磁気浮上、小実験 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 | | | | |
| | 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 | | | | |
| | 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|-----------------------------|-------|-----|--------|
| 31436 | 火 1 | 材料科学の課題と先端的应用 (問題発見・解決型) | 坂田 利弥 | 工学部 | K201 |
| 授業の目標・概要 | <p><授業の概要> これまで材料科学分野で未解決の課題や将来こんな材料があればといった課題設定に対して調査・議論することで教科書に載っていない問題や社会的意義についてまとめプレゼンテーションを行う。教員から設定された以下の3つのサブテーマに対し、その背景から問題の抽出や発展させるための研究方法などグループに分かれ調査・討議し、最終プレゼンテーションをグループごとに行う。</p> <p><サブテーマ> サブテーマ1「デバイスの未来を劇的に変える身近な材料」 ・半導体の集積化技術はシリコンに対して予想される原理的限界に到達しつつあります。半導体デバイスが今後進化し続けるためには、新しい優れた材料の開発が急務です。その鍵を握っているのが、皆に身近な「鉛筆」の中にあるカーボン系材料です。カーボン系の歴史的背景の調査や、鉛筆の電気伝導の測定・解析等を通して、それが応用されていくであろうナノテクノロジーの将来を考えたい。</p> サブテーマ2「生物に学ぶ機能性高分子材料」 ・人類は古くから自然や生物にヒントを得て材料を開発してきました。近年の分子生物学やナノテクノロジーの進展は生物の分子レベル・ナノレベルでの理解を大きく深めたため、生物模倣技術も新展開を迎えています。本サブテーマでは生物に学ぶ機能性高分子材料の開発例を調査した後、どのような未来材料が考えられるかを議論します。 サブテーマ3「ものづくりから考える健康診断」 ・糖尿病患者が合併症を引き起こさないためには日頃の血糖値を自己管理する必要があります。また、アレルギーの発症は乳幼児で最も高く、その検査には多くの血液を採取する必要があります。このような自身の健康状態を診断するために様々なテクノロジーを駆使したバイオセンサが使われ、金属、半導体、高分子といった特徴ある機能を持った材料が使われています。本サブテーマでは、ものづくりの視点に立って健康診断の現状と課題について議論したい。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、材料科学、ナノテクノロジー、バイオマテリアル | | | | |
| 教科書 | プリントを配布する。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31437 | 火 1 | システムダイナミクス入門 | 古田 一雄 | 工学部 | E25 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>システムダイナミクスは、多数の変数とその相互作用の数理的因果関係をグラフィカルな表現を用いてモデル化し、コンピュータシミュレーションによってシステムの動的挙動を解明する手法である。この手法は1970年代に人類の未来を予測したローマクラブレポート「成長の限界」で有名になり、以来、生態系や経済社会系などの複雑システムの解析手法として用いられている。本ゼミでは、主に力学系、生態系、経済社会現象などを題材に、システムダイナミクスによるシステムモデリングの基礎を修得するとともに、加えて各自が興味を持つ対象のモデリングを通じて応用力とシステム思考力を養う。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席、発表、発表会での質疑への参加、レポートに基づいて行う | | | | |
| 授業のキーワード | システムダイナミクス、システムモデリング、一般システム理論、シミュレーション、未来予測 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31489 | 火 1 | 薬学を支える基盤技術の役割と貢献 | 西田 紀貴 | 薬学部 | K402 |
| 授業の目標・概要 | <p>授業の目標、概要：新薬を開発するためには、少なくとも十数年に及ぶ研究期間と莫大な研究開発費を要します。創薬研究のプロセスは、探索研究、開発研究、臨床研究に大きく分類され、それぞれの研究段階において多くの研究分野が創薬を支えています。本授業においては、分子の細胞内動態・機能を明らかにする蛍光顕微鏡法、薬のターゲットであるタンパク質の立体構造を明らかにする X 線結晶構造解析や核磁気共鳴法、薬物が私たちの体内でどのような挙動を取るのかを明らかにする薬物動態を取り上げ、これらの技術が創薬においてどのような役割を果たしているのかを論文読解やグループワークを通して理解します。授業で取り上げる技術をはじめとする様々な創薬基盤技術の今後の可能性をグループで調査・議論し、プレゼンテーションを行います。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 情報収集・問題解決型、物理系薬学、蛍光顕微鏡法、X 線結晶構造解析、核磁気共鳴法、薬物動態 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|---|-----|-----------------|-------|---------|--------|
| 31397 | 木 2 | 生命現象のモデル化と実験検証 | 若本 祐一 | 物理 | 515 教室 |
| <p>授業の目標・概要 (授業の概要と目的) 生物学の歴史を振り返ると、メンデルの遺伝の法則に代表されるように、現象を担う「もの」の実体が理解されるより前に生命現象自体の「こと」としての定量的関係や法則性がまず理解され、その背景原理の解明につながった事例が多くみられます。近年になり、計測技術の進展も相まって、生命科学の研究では、定性的な実験データだけでなく、定量的なデータが多く得られるようになってきています。その結果、これまで物理学で主に行われてきたような、理論モデルの予言と実験結果の厳格な定量比較により、モデルや仮説の妥当性を厳しく検証し「こと」としての生命現象の本質に迫る研究が実現しつつあります。</p> <p>そこで本授業では、グループワークや文献紹介、モデル構築や実験を通して、生命現象にみられる定量関係、定量法則について理解を深めるとともに、自ら新たな仮説をモデルとして表現し、その妥当性を評価したり、自ら仮説を検証する実行可能な実験を立案・実行できる能力を養うことを目指します。</p> <p>この授業の具体的な目標は以下のとおりです。</p> <p>(授業の目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な生命現象にみられる定量関係、定量法則について理解を深める。 ・実験により明らかにされた生命現象に対し、その背景原理について自ら仮説やモデルを立てられるようになる。 ・自分の仮説を検証するための適切な検証実験を立案できるようになる。 ・自分のモデルをもとに、理論解析や数値シミュレーションなどにより、自ら結論や新たな予言を導くことができるようになる。 ・生命現象を「もの」の観点から知るだけでなく、「こと」として捉える観点を身につける。 <p>成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> <p>授業のキーワード 問題発見・解決型、物理/定量生物学、モデル化、実験、仮説検証、グループワーク</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会</p> <p>ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | | |
| 31402 | 木 2 | ホルモンからヒトの行動を考える | 坪井 貴司 | 生物 | K401 |
| <p>授業の目標・概要 (授業の概要) わたしたちの複雑な生命活動は、多種多様なホルモンが、環境変化に応じて、適切に血液中へ分泌されることによって調節されています。この多種多様なホルモンは、ごく微量で驚くべき作用をします。例えば、「恋」や「食欲」、そして「睡眠」もこのホルモンによって調節されます。</p> <p>本ゼミナールでは、ホルモンの生理作用やその生理作用を利用した先端医療への応用の可能性、そして生命倫理に関する課題について、各グループ内で討議を行い、その中で、仮説を設定し、そして結論を導き出し、その内容をゼミナール時間中にプレゼンテーションします。これらを通して、仮説から結論に至るまでの科学的な思考における基礎的な能力の習得を目指します。</p> <p>(授業の目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題における目的や問題点を認識し、その解決のための手段を考えるという活動を行います。 ・仮説をたて、結論に至るまでに必要な科学的プロセスを考え、行動します。 ・自分の考えを、分かりやすく他人に伝え、情報を共有することで新たなアイデアや知見を得るための、コミュニケーション能力の基礎を身につけます。 <p>成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> <p>授業のキーワード 問題発見・解決型、生物/生理学・神経科学、ホルモン、神経、内分泌、グループワーク</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名 みんなの生命科学 著者（訳者） 北口哲也、塚原伸治、坪井貴司、前川文彦 出版社 化学同人 ISBN 978-4-7598-1811-6</p> <p>ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | | |
| 31412 | 木 2 | 建築の可能性 | 川添 善行 | 生産技術研究所 | シラバス参照 |
| <p>授業の目標・概要 例えば、古い中世の教会を訪れ、その空間に感動したとします。そのとき、私たちは言語を超え、時代を超え、宗教を超え、その「空間」の持つ意味と力を理解し、感動したのだと思います。</p> <p>空間とは、言語のようなもので、ある時代や、それを生み出した人の意思を、言語とは違うかたちで伝えるものなのだと思います。この授業では、空間が持つ力を理解し、それを生み出すためのトレーニングを行います。</p> <p>開催場所：生産技術研究所 S棟 1F108 室</p> <p>成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> <p>授業のキーワード 建築、デザイン、空間、製作</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名 空間にこめられた意志をたどる 著者（訳者） 川添善行 出版社 幻冬舎 ISBN 4344952464</p> <p>ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | | |

| 時間割 コード | 曜日 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|------------------------------------|-------|-----|--------|
| 31438 | 木 2 | 社会インフラ構造物の計画と維持管理 ～橋梁と風力発電設備を例に | 山口 敦 | 工学部 | K301 |
| 授業の目標・概要 | 橋梁と風力発電設備を例として、社会インフラシステムの計画と維持管理について、学習する。橋梁は、国土/都市計画等から構造形式、コスト、環境影響、維持管理まで多様な観点から計画・架設され長期間にわたり供用される。多面的な検討に基づく橋梁の計画と維持管理を疑似体験し、考える。風力発電は再生可能エネルギーの中で最も注目されており、現在多くの計画が進められている。実際の計画において不可欠となる賦存量とコストの算定について、現実的なプロジェクトの計画を体験することにより学習する。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題解決型、橋梁工学、風力発電工学、橋梁モニタリング・維持管理、風力発電賦存量・コスト評価 | | | | |
| 教科書 | プリントを配布する。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31439 | 木 2 | 東京オリンピック 2020 から考える 環境問題と持続可能社会 | 片山 浩之 | 工学部 | K302 |
| 授業の目標・概要 | 2020年に開催される東京オリンピックでは、前回のロンドン大会に引き続き、会場整備や運営において、環境問題や持続可能社会への配慮が特に重視されている。五輪期間中には、延べ1000万人にも及ぶ来場者が想定されており、短期間に東京圏が受ける環境ストレスを緩和する方策も求められている。本授業では、東京オリンピック2020を題材として、環境問題や持続可能社会に関する知見を収集し、課題に対する対策を立案することを目的とする。具体的なトピックとしては、大会メダルの原料として着目されている都市鉱山、トライアスロン会場となるお台場海域における雨天時水質汚濁、大会インフラ整備における気候変動・生物多様性への対応（2020年は温室効果ガスの削減目標年であるとともに、生物多様性に係る愛知目標の目標年）、オリンピックとESG投資・持続可能な調達との関係などが挙げられる。また、前回1964年東京オリンピックから現在に至る東京の環境の推移についても理解を深める。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、工学/都市工学・環境工学、環境問題、低炭素社会 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31466 | 木 2 | 量子情報技術を「正しく」理解する | 村尾 美緒 | 理学部 | E25 教室 |
| 授業の目標・概要 | 従来型の情報処理や情報通信の限界を超えるブレイクスルーの候補として、量子コンピュータや量子暗号、量子テレポーテーションなどの量子情報技術が最近注目を集めている。これらの量子情報技術は、量子エンタングルメントや量子測定など、日常の直感に反する量子力学の特性を情報処理や情報通信に利用したものであり、量子情報技術を「正しく」理解するためには、情報処理の観点を取り入れた量子力学の正しい理解が必要である。しかし、量子力学は一般にはなじみの薄い概念であり、報道などにおいても不適切な解説をたびたび見かける。本講義では、量子情報技術を「正しく」理解し、量子力学を習ったことのない人々にもわかりやすく正しく説明できるようになることを目標とする。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 授業のタイプ（講義・演習・調査・発表）、物理学、量子力学、量子情報技術、量子計算、量子情報 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31467 | 木 2 | 生物はどこまで環境に適応できるか を考える | 國枝 武和 | 理学部 | 516 教室 |
| 授業の目標・概要 | (授業の概要と目的) 地球上には様々な生物が生息しており、それぞれの生物が独自の生存戦略を持って環境に適応している。生物が秘めるこうした多様な環境適応能力は、将来に渡って地球規模で危惧されている温暖化や砂漠化と言った環境変化や、宇宙などの新規環境への生命進出に資することが期待される。 本ゼミナールでは、生物の持つ環境適応能力・生存戦略に着目し、各グループごとにテーマを定め、生命の適応する環境にはどのようなものがあるのか、どのような生物が生息しているのか、適応する上で問題点は何か、それをどのように克服したらよいか/克服している例があるのか、生命の持つ制約は何か、等について文献調査、グループワークによる討議を経て、プレゼンテーションする。 最後は、上記の活動結果を踏まえ、温暖化や砂漠化に対する対抗策や宇宙等への進出に向けた提案を議論する。 | | | | |
| 成績評価方法 | (授業の目標) | | | | |
| 授業のキーワード | ・自ら調べ、考え、発表するスタイルを身につける。 ・情報収集・分析、資料作成、プレゼンテーションの基礎を身につける。 ・グループワークでの討議を通じて、他者と共同で問題を解決できるようになる | | | | |
| 教科書 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| ガイダンス | 問題発見・解決型、生物学/環境生理学、環境適応、多様性、宇宙 教科書は使用しない。 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|--------------------------|--------|-----|------|
| 31480 | 木2 | 福島放射能汚染を考える －農学的視点から－ | 益守 眞也 | 農学部 | K303 |
| 授業の目標・概要 | <p>概要</p> <p>2011年の福島第一原子力発電所事故により放出され福島県西部を中心に広く降下沈着した放射性物質は、8年経った現在でも様々な農林産物の生産・流通を妨げ、当該地域の農業復興を妨げる大きな要因となっています。</p> <p>本ゼミナールでは、この問題に関わる学術論文や報告書を収集・整理し、現在までに至る放射能汚染の状況変化と農林業への影響について学びます。さらに、土壌（農地）と林産物での放射性物質の挙動に関する科学的基礎知識を習得した上で、本問題の重要性と、社会経済、政策制度との関わりも含めて今後求められる放射能汚染対策について考えを進めていきます。本ゼミナールを通して、自然科学研究の思考や方法論についても理解してもらいます。</p> <p>事故以降、汚染地域での調査と放射性物質に関する研究室内での実験に携わってきた農学生命科学研究科の教員2人と大学院生が授業を担当します。</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決すべき問題に対して主体的に情報を取りし自ら課題を設定する力を身に付ける。 ・グループによる課題設定、進捗状況の共有、プレゼンテーションの実施、質疑応答といった共同作業のスキル、またグループワークにおける主体的な関わり方を身に付ける。 ・自然科学の研究技法を通じた論理的思考法・批判的思考法、建設的な議論の組み立て方を身に付ける。 <p>成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> <p>授業のキーワード 文献検索、グループワーク、農林業、土壌学、植物生理学、環境科学</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。</p> <p>書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会</p> <p>ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 31481 | 木2 | 人工光型植物工場を考える | 富士原 和宏 | 農学部 | K201 |
| 授業の目標・概要 | <p>高度環境制御型植物生産施設の一形態である人工光型植物工場および関連する植物環境制御技術の概要を理解し、それらの概略を説明できるようになります。また、人工光型植物工場の現状、問題点、今後の発展、および限界について客観的な意見を述べるできるようになります。</p> <p>人工光を用いた植物栽培における光照射法に関する論文を題材として読み、学術論文の基本構成、必要記載内容等の基礎的事項を理解します。また、その論文で取り上げている内容を理解することにより、植物の純光合成速度に及ぼす光環境の影響に関する基礎的事項を説明できるようになります。さらに、新しい研究テーマを提案するには、過去の関連研究の内容を慎重に読み込み正確に理解する必要があることを認識できるようになります。</p> <p>なお、本ゼミでは、プレゼンテーションソフトウェアを用いて効果的な科学技術発表ができるようになることも目標としています。</p> <p>成績評価方法 発表（とくにプレゼンテーションソフトウェアを用いた発表）、レポート、および出欠を含む授業に取り組む態度・積極性を総合的に評価します。第3回以降に4回以上の欠席（15分以上の遅刻は欠席扱い、2回の遅刻で1回の欠席扱い）、または個人・グループの発表にかかわらず発表時に2回以上の欠席で不可となります。</p> <p>授業のキーワード アクティブラーニング、農学／農業環境工学、植物工場、人工光植物栽培、LED、パルス光</p> <p>教科書 授業中に指示をする。</p> <p>書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会</p> <p>ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |

| グループ3 1年 理一(7-8,11,13,15,17)理二三(9-10,14,19) | | | | | |
|--|----|--|----------------------|---------|--------|
| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
| 31399 | 火3 | 分子の形を知り、物質をデザインする | 真船 文隆 | 化学 | K501 |
| <p>授業の目標・概要 (授業の概要) 水分子が、1個の酸素原子と2個の水素原子からなり、折れ曲がった二等辺三角形のかたちをとることはよく知られています。このように非常に小さな分子の構造はどのようにして決定されたのでしょうか。本初年次ゼミでは、この疑問から出発し、分子の形がどうすればわかるのかを調べ、なぜわかるのかを考えてもらいます。具体的にどのような測定データにもとづき分子の構造が決まるのかを、様々な文献やデータベースにもとづいて調べます。そのあと、それぞれ1個の元素を選び、その元素のもつ特徴を明らかにしながら、どういう物質を構成しうるのかを考えます。授業の進行は、4、5人のグループで行い、グループ毎にテーマを設定してもらいます。グループ中で様々なアイデアを出してもらい、また議論してもらい、最終的にグループ毎にまとめた結果を発表してもらいます。</p> <p>(授業の目標) 1. 分子のかたちはそうすればわかるかという素朴な問いから、この疑問を解き明かすというアカデミック体験をしてもらいます。 2. グループごとに1つの元素を選択し、その元素からどのような物質ができそうかを考えます。 3. 問題を解決するにあたって、グループワークをしてもらい、お互い疑問点を出し、議論し、分からない部分は教え合いコミュニケーション能力を身につけます。 4. 最終的に自ら設定した課題について、その結果を発表してもらい、プレゼンテーションの能力を身につけます。</p> <p>成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価する。 授業のキーワード 化学、原子・分子、構造、分光学、スペクトル 教科書 教科書は使用しない。 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | | |
| 31413 | 火3 | Quantum technologies and their future impact (英語) | HOLMES MARK JAMES | 生産技術研究所 | シラバス参照 |
| <p>授業の目標・概要 The overall aim of this course is not to gain a knowledge of quantum technologies per se, but to gain a knowledge of the scientific transferable skills required in a modern international research environment: Communication skills, scientific writing skills, group work skills, presentation skills. The course will proceed via the timeline of preparing for a “conference” that will be held in the final weeks, to which the students will submit their work, and give presentations.</p> <p>成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード Problem finding, Quantum technology, English, Communication, Writing, Presentation 教科書 教科書は使用しない。 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | | |
| 31415 | 火3 | バイオミメティック・エンジニアリング | 池内 与志穂 | 生産技術研究所 | E25 教室 |
| <p>授業の目標・概要 生物の優れた仕組みに着想を得たモノづくりの斬新な企画提案を行う。 そのために、 (1) 生物の優れた機能を解明した研究、またはバイオミメティック・バイオインスパイアドというキーワードに基づいて行われたモノづくり研究の過去の例を学ぶ(文献検索と読解、発表を通じた情報共有)。 (2) 小グループに分かれて、(1)で得られた情報などを参考に議論し、柔軟な発想で、生物の優れた仕組みに着想を得たモノづくりの企画を考える(課題解決のためのグループワーク)。 これらを通じて、 ・コミュニケーション能力を伸ばす。 ・プロジェクトを推進する時に、何が分かっている、何が分かっているのか、何が問題で、どうやったら解決できるのか、自分の頭で考える能力を身につける。 ・試行錯誤やプロジェクト推進の難しさと、計画性の重要性などを学ぶ。 ・自分の考えを、分かりやすく他人に伝え、情報を共有することで、新たなアイデアや知見を得るためのコミュニケーション能力の基礎を身につける。</p> <p>成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード プロジェクト提案/企画提案、バイオインスパイアド、バイオミメティック 教科書 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|----------------------------------|-------|-----|--------|
| 31440 | 火3 | 知能ロボット入門 | 新山 龍馬 | 工学部 | K401 |
| 授業の目標・概要 | <p>ロボットは、人間・機械・情報を結ぶ知的なシステムです。ロボットは、コンピュータ単体とは違って、自ら移動したり、ものを動かしたりすることができます。生物の仕組み、特に脳神経系の働きは、知的なロボットを作るヒントになります。一方、人間以上の速度やパワー、インターネット上の知識の利用など、生物を超え得る潜在力を持っています。この授業では、知能ロボットを構成する基本要素や、知的な振る舞いの作り方を学ぶため、最新版のLEGO Mindstormsを利用して実際にロボットを作ってもらいます。ただし、LEGO はあくまで入門の道具であって、授業の中では、最新のロボット研究の成果にも触れてもらい、知能とはなにか、現代社会で必要とされるロボット・システムとは何かを、議論してもらいます。また、グループワークを通じた、工学的な思考方法の習得や、問題解決のアイデアをわかりやすく伝える技術の学習も狙いです。</p> <p>授業の目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロボットや知能といった未定義で学際的なことに対して、グループ討論や能動的な調査に基づいて客観的に論じることができるようになる ・ 工学の観点から問題を発見し、実際の製作を通じてそれを解決するプロセスを身につける ・ 自分の考えを整理し、適切に他人と分担して、複雑なシステムであっても、順序立てて簡潔に説明できる能力を身につける | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、工学/知能機械・ロボティクス、グループワーク、ものづくり、知的情報処理 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31441 | 火3 | 物理のための数学ゼミ | 吉川 純一 | 工学部 | E38 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>物理学では、様々な現象の中に法則性を見い出して、それを数学的に記述します。また、その数学から予想される現象は、実験的に確かめられます。こうした過程の中で、それまで思いもよらなかった応用が見つかることがあります。例えば、量子力学の応用としての量子コンピュータなどです。</p> <p>この授業では、基礎となる数学を学び、物理の記述にどう生かされるのかを調べ、受講者同士の議論を通して理解を深めます。文献の検索、発表資料の作成、科学的な内容でのコミュニケーションの経験を積みみます。最終的には、4名程度のグループに分かれて、興味のあるテーマを自ら設定し、他の受講者の前で発表してもらいます。物理に関連していれば基本的にどんなテーマでもよいので、面白い発表を期待しています。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、物理学/量子力学、相互学習、サイエンスコミュニケーション、グループワーク | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31442 | 火3 | 暗号理論・情報セキュリティ入門 | 高木 剛 | 工学部 | K301 |
| 授業の目標・概要 | <p>暗号技術は、現在、幅広く使われており、すでになくはならない技術となっています。その一方で、暗号技術は、常に、攻撃にさらされる環境にあり、強い暗号が必要となります。強い暗号とは、様々な角度から安全性を検証されて（安全性解析）、事実上攻撃手段がない暗号や、安全であることが理論的に証明された（安全性証明）暗号を指します。この授業では特に、現実の世の中で用いられている暗号、もしくは、将来用いられると期待される暗号に対して、その安全性証明と安全性解析について体験します。本授業の冒頭に暗号理論の基礎を学んだ後、グループに分かれてより具体的な課題を選択して関連する英語文献を読み、暗号の安全性証明手法や安全性解析手法について基礎的な能力の習得を目指します。その後、文献調査、学生間の討論を通して、暗号方式の改善や安全性解析の改良を試み、最終的にグループ毎に研究成果の発表をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究課題における目的や問題点を認識し、その解決のための手段を考える。 ・ 自分の考えをわかりやすく他人に伝え、情報共有することで新たなアイデアや知見を得るためのコミュニケーション能力を身につける。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 論文講読+問題発見解決型、数理工学/暗号理論、安全性証明、安全性解析、アルゴリズム | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31443 | 火3 | 化学のブレークスルーに学ぶ(1) (無機化学・物理化学編) | 齊藤 圭亮 | 工学部 | K303 |
| 授業の目標・概要 | <p>化学のブレークスルーに学ぶ(1)(無機化学・物理化学編)では、工学部応用化学科で現在 精力的に研究が行われている無機化学・物理化学系の世界最先端のトピックをとりあげ、その研究がもたらした各分野のブレークスルーを学びます。本講義では、無機化学・物理化学をベースにした材料開発について、基本原理から実際の研究の様子、応用展開に至るまでを論文輪読、文献調査およびそれらに携わった研究者達の話の中でより身近に感じ、学ぶことができます。主に、触媒、電池、燃料電池、蛋白質などを題材にして、これらの研究がどのように生まれ、どのようなブレークスルーがあったか、また、これらの研究やその応用展開が現在どのように社会の役に立っているのかを、ゼミナール形式の授業で、分かりやすく学ぶことができます。また、実際の研究現場を見学することで、最先端の研究がどのように生まれるか、どのように行われているかを体験していただけます。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 応用化学、無機化学、物理化学 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|--------------|-------|-----|------|
| 31468 | 火3 | 解析学の基礎 | 松本 久義 | 理学部 | K302 |
| 授業の目標・概要 | <p>「数」というものがなかったらどうなっていたらう。まずお金というものが成り立たなくてコンビニで三角サンドが買えないことになる。時間が数で表せないので授業時間をきめて学生や教員が教室に集まるのも無理だろうし、体温を計るのにも困るので医者も大変である。まあ要するに人間は物事を「数」に結び付けて理解しているのであり、そういうわけで算数も含めると数学が学校教育の多くの部分を占めており、また他の多くの学問の基礎となっているわけである。特に「長さ」と「数」を結びつけると、棒切れに等間隔に目盛を打つことになって、「物差し」ができる。こういったことから「数」と「直線上の点」を対応させるという発想が自然に生まれる。「直線上の点」に対応する数が「実数」である。物理学や統計学や工学を始めとして多くの分野で使われる解析学(高校の微分・積分を発展させた数学の分野)は実数を舞台としているし収束概念は解析学の柱石ともいえる基本要素である。</p> <p>高校までの微分積分や点列の収束の扱いと異なり、学問としての数学において、解析学は厳密に議論が展開される。そのなかでも基本となるのは「デデキントの切断による実数の定義」と「イプシロン・デルタ論法による点列の収束の定義」である。体験上ここで多くの学生はとまどったり、ややもすると拒否反応をおこしたりする場合もある。</p> <p>「学問としての数学」などと権威主義っぽい書き方をしたが、当然「実数」とか「収束」とかいうことについてはいろいろな人がいろいろなことを考え(厳密性にこだわることへの批判もあった)、それを公表して長きにわたって戦いが行われてきたのである。(「デデキントの切断」は150年ぐらい、「イプシロン・デルタ論法」は200年ぐらいの歴史がある。)これらの古典的な数学はあるいは現在の数学のありかた(他の学問もおなじだろうが)は、こういったタフな戦いの勝ち残りなのであり、こうして大学で教えられていることにはそれなりの理由がある。</p> <p>この授業においては、全体を小グループにわけ、担当教員による講義、グループディスカッションなどを授業計画によって進め、最終的に「デデキントの切断による実数の定義」あるいは「イプシロン・デルタ論法による点列の収束の定義」のいずれかのテーマについて、この授業に参加していないような学生にもよくわかるような「理想的な講義」を自分達の手で作らなければならないのが目標である。このような体験を通じ、題材としてとりあげたテーマについて理解を深めるのみならず、文献・資料の収集法、グループによる共同学習の手法などについても習得する。また数学の意義についての自分なりの観念の確立に資するようにもしたい。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 原理解明・伝達型、数学/解析学、実数、デデキントの切断、イプシロン・デルタ論法、収束 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | <p>書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会</p> <p>第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 31403 | 木3 | 哺乳類の受精・卵割の特性 | 大杉 美穂 | 生物 | K301 |
| 授業の目標・概要 | <p><概要> 受精・卵割による新たな生命の誕生は、異形配偶子形成を行う生物に普遍的な生命現象である一方、生物種によって驚くほどの多様性も示します。 本ゼミナールでは、まず受精に関連するキーワードを含む一般のニュース記事(過去1年分)の中から興味をもったものを選び、内容について科学的に説明するためのグループごとの調査・発表を通して受精についての普遍的な知識を得ます。 その後、その記事の元となった学術論文について調査・発表を繰り返す過程で、受精過程が多様であることにどのような意義や利点があるのか(あるいはないのか)、私たちヒトを含む哺乳動物の受精・発生にはどのような特性があるかについて議論を進め、理解を深めます。</p> <p><目標> ・教科書的な知識を丸覚えするのではなく、それがどのような観察結果や実験結果から導かれたものであるかを理解する。 ・「まだわかっていないことは何か」を意識しながら学び、科学的課題の設定や仮説の立て方とその検証方法について知る。 ・人にわかってもらうためのプレゼンテーション技術の基礎を身につける。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年時ゼミナール理科の評価方法によって評価します | | | | |
| 授業のキーワード | 生命科学、受精、繁殖、哺乳類、生殖医療・再生医療 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|--|-------|---------|--------|
| 31414 | 木 3 | デザイン・エンジニアリング・ワーク ショップ ～ 機能的で美しいものを作るための観察、コンセプトワーク、 スケッチ、プロトタイピング | 山中 俊治 | 生産技術研究所 | シラバス参照 |
| 授業の目標・概要 | <p>※開講場所：生産技術研究所（駒場第二キャンパス） S棟 2階 ギャラリー-S2 会議室</p> <p>【背景】 デザインという言葉は、かつては装飾的な「意匠」の意味で使われていましたが、今日では人々の生活を豊かにするための幅広い価値創出の技術として、様々な分野で活用されるようになりました。本授業ではデザインについて、次のような新しい定義を採用します。 「デザイン：人工物あるいは人工環境と人との間で起こるほぼ全てのことを計画し、幸福な体験を実現すること」 便利で使いやすく美しい人工物をデザインするには、基本機能を設計するための幅広い自然科学と、人のふるまいを理解するための人文科学の知識、自然物や抽象形態に対する繊細な美的感覚と表現力が必要です。いずれも習得に時間がかかる巨大な体系ですが、最も重要なのはそれぞれの方法論の違いを理解し、常に多視点、多重思考で考えることです。</p> <p>【目的】 ・科学知識と美的感覚、論理思考と手作業、概念操作とプロトタイピングなど、相反する創造プロセスを同時に扱うための「振り子」思考を身につける ・アイデア創出の方法を学ぶ ・アイデアを具現化し、人に伝えるためのプロトタイピング手法を学ぶ ・スケッチや立体物製作のための基本となる物の見方、身体の使い方を学ぶ</p> <p>【概要】 後述の3つの課題に挑戦してもらいます。 制作は、しばしばホームワークであり、かなりハードワークになります。</p> <p>【参考】 教員のひとりとなりを知りたい場合は、下記のブログや Twitter を参考にしてください。 ・ブログ「デザインの骨格」 http://lleedd.com/blog/ 2014年から更新されていませんが、デザインの基礎となるものの見方や考え方をエッセイ風に記録したものです。 ・twitter @Yam-eye https://twitter.com/Yam_eye ・Instagram https://www.instagram.com/yam_sketch/ 山中のスケッチ置き場です。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見解決型演習、デザイン・エンジニアリング、スケッチ、プロトタイピング、アイデアの作り方、ユーザビリティ | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31419 | 木 3 | 身近な CO ₂ ・PM _{2.5} 濃度の変動を 捕らえる | 今須 良一 | 大気海洋研究所 | K501 |
| 授業の目標・概要 | <p>(授業の概要) 地球温暖化は温室効果ガスの大量放出により引き起こされます。その中で最も重要で身近なものは二酸化炭素(CO₂)です。一方、健康に深刻な影響を及ぼす大気汚染物質の一つとして PM_{2.5} が問題となっています。本ゼミナールでは、簡易測定装置を用いて身近な環境における CO₂ や PM_{2.5} の濃度変動を測定し、そのデータの解析、結果の考察を通じて、科学的なものの考え方や論理の展開の仕方を身につけます。また、関心がある場合には、赤外線強度の測定装置（サーモグラフィ）も用いた実験も行えます。これらは、グループ単位での測定実験、解析、発表、および、全員での質疑応答の形式で行います。これと併せ、あるテーマについて講義形式で話題提供し、グループ討議や全体討論を通じて、科学的なものの見方の幅を広げていくことを目指します。</p> <p>(授業の目標) ・自分たちで行った測定結果を題材に、論文や口頭発表の構成要素である、序論・手法・結果・議論の展開ができるようになる。 ・実験の立案、実施、まとめの過程で、個人の考えを出し合い、議論を通してグループとしての考えや提案をまとめる能力を身につける。 ・研究発表に対して質問する能力を向上させる。また、発表者は質問や批判に対する対応力を強化する。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 定期試験は行わず、毎回の作業への取り組みや、発言頻度・内容により評価を行います。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、地球科学/気象、気候変動・地球環境、発想力、調整能力、観察力 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-------------------------------|-------|------------------|------|
| 31420 | 木 3 | 先端科学技術の現場を「体験」する | 石北 央 | 先端科学技術研究 センター | K302 |
| 授業の目標・概要 | この授業では、皆さんが今いる駒場キャンパスと先端科学技術研究センター（先端研）が位置する駒場リサーチキャンパスを舞台に、世界と競い合う最高水準の先端科学技術を体験してもらいます。最先端研究が、キャンパスの殻の中に閉じこもる旧来型の研究ではなく、学術の進展や社会の変化に機動的に挑戦して人間と社会に向かっていることを、この授業で実感できるはず。先端研の根幹の研究領域（環境・エネルギー、情報、材料、生物医学、バリアフリー、社会科学）の中から、今年の講義では、基礎的な概論とともに3つの話題を紹介し、基礎から最新のトピックまでじっくりと体験できるはず。 | | | | |
| 成績評価方法 | 「概論」（石北）：先端研の最先端研究の概略を紹介するとともに、光エネルギー、光合成、蛋白質、量子化学、理論計算の接点をテーマに先端科学技術の一端をちょっとだけ覗いてみます。 | | | | |
| 授業のキーワード | 1) 先端研「エネルギー環境」分野（×3回） 2) 先端研「生命データサイエンス」分野（×3回） 3) 先端研「政治行政システム」分野（×3回） | | | | |
| 教科書 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| ガイダンス | 問題発見・解決型、光エネルギー変換、光合成、太陽電池、次世代シーケンサ、ビッグデータ解析、空間と政治・建築、日本政治外交史、蛋白質、理論化学 教科書は使用しない。 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31749 | 木 3 | 聴覚・平衡覚・嗅覚・発声の不思議 に迫る | 山嵜 達也 | 医学部 | K402 |
| 授業の目標・概要 | 初回に聴覚、平衡覚、嗅覚、発声について概略を座学で授業する。その後、2週単位で聴覚、平衡感覚、嗅覚、音声についてテーマを与え、それぞれゼミ形式で発表する。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 「問題発見・解決型」、学術分野 医学/感覚器、感覚器、発声 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31444 | 木 3 | 途上国開発に学ぶプロジェクトマネジメントとコンクリート工学 | 高橋 佑弥 | 工学部 | K303 |
| 授業の目標・概要 | 途上国開発をはじめとした国際建設プロジェクトにおいては、調査・計画・契約・施工などそれぞれの段階で、技術者が工学的判断を行うことが必要である。様々な制限や制約条件下で複数の要因のトレードオフの中、技術者の主体的判断のもと問題を解決することが求められるが、時として、異なる関係主体に関する理解が不十分なことによりプロジェクトの成功が危ぶまれることもある。例えば、橋の建設において、工事手順への配慮に欠いた造形を重視した設計が施工会社の工事失敗リスクを増大させてしまうような事例も生じている。援助国・被援助国政府、住民、設計会社、コンサルタント、施工会社といった異なる主体間の連携と相互理解のもと、それぞれが適した判断を行うことが大切である。 | | | | |
| 成績評価方法 | 本ゼミナールでは、上記の観点から、途上国のインフラ開発を題材として、国際建設プロジェクトの運営を疑似体験する。案件形成・計画からプロジェクト遂行・建設までを異なる立場で体感することで、問題の発見・解決の姿勢や多角的視点を身に着けると共に、建設プロジェクトに関わる工学分野（建設マネジメント、コンクリート工学）の基礎を学ぶことを目標とする。 | | | | |
| 授業のキーワード | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 教科書 | 問題発見・解決+ものづくり型、工学/建設マネジメント・建設材料、海外建設プロジェクト、途上国開発、プロジェクトマネジメント、コンクリート 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-----------------|--------|-----|--------|
| 31445 | 木 3 | データ分析を通じた未来予測 | 合田 隆 | 工学部 | 515 教室 |
| 授業の目標・概要 | データ分析とは現時点で入手可能なデータから（個別のデータにはあまり意味を持たない場合でも）重要な情報を抽出することが目標であり、取り扱うデータの種類、性質、どのような情報を抽出したいのか、などに応じて適切な分析手法を選択する必要があります。特に将来予測、すなわち現時点までの推移データから将来起こりうる推移を「外挿」することを目的とする場合、分析結果の少しの違いが予測幅に大きな変化をもたらします。 | | | | |
| 成績評価方法 | 本ゼミナールでは、ある事象の最大値（あるいは最小値）、例えば | | | | |
| 授業のキーワード | <ul style="list-style-type: none"> ある地点において今後 10 年間で観測しうる最大降雨量 人間の寿命の限界（そもそも存在するのか） 100m 走の世界記録の限界 | | | | |
| 教科書 | <p>といった値について、れまでに観測あるいは記録されたデータを基に予測する分析手法について扱います。（あまり深く立ち入りませんが）分析手法の学習、文献調査、（興味のある事象についての）データ収集、分析手法の適用、結果の解釈とまとめ、という一連の流れを体験することによって、データ分析への関心が高まることを期待しています。</p> <p>初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> <p>問題発見・解決型、データ分析、数理統計、極値理論</p> <p>次の教科書を使用する。</p> <p>書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科</p> <p>著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編</p> <p>出版社 東京大学出版会</p> | | | | |
| ガイダンス | 第 1 回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31469 | 木 3 | 材料をつくり出す化学 | 長谷川 哲也 | 理学部 | 516 教室 |
| 授業の目標・概要 | 化学がつくり出す様々な先端材料（超伝導体や磁性体、太陽電池など）について、なぜそのような性質を示すのか、またどのような応用あるかについて調べ発表を行うとともに、簡単なデモンストレーションや実験を通して材料を体験する。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、化学/材料化学、先端材料、物性化学、デバイス | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第 1 回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31490 | 木 3 | 薬学を支える生物学の役割と貢献 | 小山 隆太 | 薬学部 | K401 |
| 授業の目標・概要 | 薬学部では、生命現象の理解を究めつつ、最終的なアウトプットとして創薬を視野に入れた研究を行っています。生命現象を深く理解するためには、生物を構成する最小単位である細胞のことを詳しく知る必要があります。そして細胞のことを詳しく知る方法として正常な細胞と正常でない細胞を比較し、その違いがどこから生じているのか調べることはとても有効な手段です。数多ある病気の原因は各々ですが、究極的には特定の細胞の機能異常が病気を引き起こしているとみなすことができます。これはすなわち病気の原因を探ることが正常な細胞の本来あるべき姿を知る手がかりにもなることを意味します。 | | | | |
| 成績評価方法 | このゼミナールでは創薬の対象となりうる各種の病気やその発症原因について学習しながら、正常な細胞の姿の一端を知ることを目的とします。さらにそれらの疾患を治療するためにはどのような戦略を取り、どのような創薬ストラテジーがあるかということグループで考え、プレゼンテーションも行います。これらの作業を通じて文献やデータベースの探索方法、グループディスカッションの仕方、わかりやすいスライドの作成・発表方法などの習得も目指します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 教科書 | 論文読解型・問題解決型、生物学/薬学、細胞生物学、分子生物学、創薬、グループワーク | | | | |
| ガイダンス | 教科書は使用しない。 | | | | |
| | 第 1 回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| グループ4 1年 理一(23,26,28-29,33,36-37)理二三(12,16,24) | | | | | |
|--|---|--------------------------------------|-----------------|-------|------|
| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
| 31407 | 火4 | 人間行動のメカニズムを科学的に探る —創造性と意思決定を例にして— | 横山 ゆりか 植田 一博 | 情報・図形 | K303 |
| 授業の目標・概要 | 人間行動のメカニズムに関する科学的関心が、現代日常世界の課題と関係していることを理解し、日常世界の体験と科学研究の両者を結ぶ研究テーマを企画することを試みる。 第I部では創造性の向上が現代社会の様々な場面で課題となっていることを学び、創造性を高める環境デザインを対象にして研究テーマを考える。実際に企業・研究所で行われている創造性向上のためのオフィス環境改善の事例を見て、その背景にある研究を探索する。探索を通して最終的には自分の実証したい新しい研究テーマを見つけ、探索した研究の手法を参考にして実証研究を企画することを目標とする。 また第II部では、日常における判断と意思決定を対象にして研究テーマを考える。認知科学分野で行われている判断と意思決定の実験を体験し、実験に不可欠な統計について学んだあと、統計処理を念頭に入れた自分たちの実験計画を作成する。前半より踏み込んだかたちで、実際に実施可能な実験計画を作成することを試みる。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 (この講義での個別の評価基準) 日常的な出来事から研究のテーマを見つけ出し、科学的検討のプロセスに落とし込むことができたか | | | | |
| 授業のキーワード | 論文読解・問題発見・研究企画、認知科学、環境心理学、心理学実験・フィールド調査 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31446 | 火4 | 知能ロボット入門 | 山本 江 | 工学部 | K401 |
| 授業の目標・概要 | ロボットは、人間・機械・情報を結ぶ知的なシステムです。ロボットは、コンピュータ単体とは違って、自ら移動したり、ものを動かしたりすることができます。生物の仕組み、特に脳神経系の働きは、知的なロボットを作るヒントになります。一方、人間以上の速度やパワー、インターネット上の知識の利用など、生物を超え得る潜在力を持っています。この授業では、知能ロボットを構成する基本要素や、知的な振る舞いの作り方を学ぶため、最新版のLEGO Mindstormsを利用して実際にロボットを作ってもらいます。ただし、LEGOはあくまで入門の道具であって、授業の中では、最新のロボット研究の成果にも触れてもらい、知能とはなにか、現代社会で必要とされるロボット・システムとは何かを、議論してもらいます。また、グループワークを通じた、工学的な思考方法の習得や、問題解決のアイディアをわかりやすく伝える技術の学習も狙いです。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、工学/知能機械・ロボティクス、グループワーク、ものづくり、知的情報処理 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31447 | 火4 | 体験的ものづくり学 —3Dプリンタによるコマづくり— | 三村 秀和 | 工学部 | K201 |
| 授業の目標・概要 | (授業の概要) 日本は、「ものづくり」が重要と言われていますが、「ものづくり」とは何でしょう？自動車、パソコン、テレビ、携帯・・・と製品が、まず思い浮かびますね。こうした製品に加えて、ライト、センサー、タイヤ、レンズなどの部品や、銅、ウエハ、ガラス、プラスチックなどの素材を生み出すことも、「ものづくり」です。 この「ものづくり」というのは、目標とする機能があり、それを満たす設計を行い、その設計に基づいて実際に作製し、作られた製品を評価するという一連の流れで成り立っています。「ものづくり」は、お互いが関連しており、作製方法を知らなければ、設計できませんし、目標とする機能の設定もできません。 本講義では、「コマ」の作製を通じて、ものづくりの一連の流れを体験してもらいます。「コマ」は誰もが知っていますね？なぜ、「コマ」は倒れずに回るのでしょうか？よく回る「コマ」はどういったものなのでしょう？その答えを、剛体と回転に関する力学を勉強してもらい、理解してもらいます。そして、その物理的な理解をベースに各グループが自由な発想の元、「オリジナルなコマ」を提案、設計し、実際に3Dプリンタで作製してもらいます。3Dプリンタは、優れていますが何でも作れるというものではありません。3Dプリンタを実際に体験し、精度などの特徴を理解して、設計にフィードバックします。 このように、本講義では、コマの力学、設計、3Dプリンタを勉強し、「世界オンリーワンのコマ」の作製を通して、「ものづくり」に関する総合的な知識を身につけます。 | | | | |
| 成績評価方法 | (授業の目標) ・回転、剛体に関する力学、ものづくり設計、3Dプリンタに関する知識を学びます。 ・与えられた課題の物理的特徴を理解し、ものづくり設計に活用する思考法を身につけます。 ・作製方法を理解し、ものづくり設計にフィードバックする能力を身につけます。 | | | | |
| 授業のキーワード | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 教科書 | 実験データ解析型、工学/力学、設計、生産、3Dプリンタ、剛体の力学、設計、CAD | | | | |
| ガイダンス | 教科書は使用しない。 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|--|-------|-----|--------|
| 31448 | 火 4 | 原子力エネルギー・放射線医療と社会/ Nuclear Energy / Radiation Medicine and Society | 上坂 充 | 工学部 | 517 教室 |
| 授業の目標・概要 | 原子力エネルギーと放射線医療の原理を理解し、それらの社会受容性をシナリオ・プランニング手法を活用して討論する。原子力エネルギーにつき、他のエネルギー源との比較、地球環境、国際関係、放射線がん医療につき、放射線人体影響、放射線安全、他の治療法との比較、社会受容性につき、リスクコミュニケーションを学習し、討論する。複雑な問題の中から課題とその解決方法の発見を試みる。最後は討論内容をプレゼンテーションし、発表技術も向上させる。 | | | | |
| 成績評価方法 | 問題発見・解決型、工学/システム創成、原子力発電、放射線がん治療、社会受容性、シナリオ・プランニング | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、工学/システム創成、原子力発電、放射線がん治療、社会受容性、シナリオ・プランニング | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31470 | 火 4 | 解析学の基礎 | 下村 明洋 | 理学部 | シラバス参照 |
| 授業の目標・概要 | 大学での標準的な数理科学の立場から観ると、高等学校までの数学において極限と連続性や微分積分の取り扱いはやや直観に頼ったものであり、大学での学問としての数理科学ではこの分野は厳密な理論が展開される。「数理科学の立場から厳密に記述された微分積分学（解析学の初歩）の文献の極限と連続性に関する部分」を受講生が輪読する事により、この分野に関する理解を深める事を目標とする。この科目は、受講生による発表形式（黒板を使用）で行うので、受講生が能動的に学習し発表内容を他の人に説明する能力を身に付ける事も目標とする。この分野の能動的な学習を通して、数理科学的な思考力を養う事も目標である。 | | | | |
| 成績評価方法 | 個別授業の開講場所：数理科学研究科棟 126 教室。 | | | | |
| 授業のキーワード | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 教科書 | 文献輪講型、数理科学/解析学、数列と関数の極限、連続関数、イプシロン・デルタ論法 | | | | |
| ガイダンス | 授業中に指示をする。 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31471 | 火 4 | 宇宙・惑星・地球物理学の進め方 | 笠原 慧 | 理学部 | E39 教室 |
| 授業の目標・概要 | 地球惑星科学が対象とする分野は地球の内部から太陽系外の宇宙空間まで、多岐に渡ります。なかでも気候変動や宇宙・惑星のトピックはニュース・テレビ番組や科学雑誌でしばしば取り上げられるため、中高生でも科学好きであれば「現象論的な知識」を得る機会は多いでしょう。ところが、報道内容のような結論がどのような「観測根拠」と「推論過程」で導かれたのかについては、理解されていないことがほとんどです。これら観測根拠や推論過程は、発見の事実と比べたら地味で小難しい内容であることが大抵ですが、これらこそが科学を科学たらしめている本質です。惑星探査プロジェクトのような 100 億円超の大型予算を要する研究計画も、こうした理学的議論に立脚して形成されていきます。本ゼミでは、こうした観測データと物理の基本法則に基づいた科学的議論を体験します。前半は気候変動に関するデータ解析、後半は、宇宙・惑星探査の計画立案を扱います。 | | | | |
| 成績評価方法 | (1) 気候変動 | | | | |
| 授業のキーワード | エルニーニョ現象は、東太平洋赤道域の海面水温が、平年よりも暖くなる気候変動現象である。この現象が発生すると、世界各地に異常気象を引き起こすことから、活発に研究が行われている。本ゼミでは、いくつかのグループに分かれて、エルニーニョ現象に関するデータ解析を実際に行い、得られた結果に関する考察を行う。 | | | | |
| 教科書 | 【テーマ例1】温暖化に伴い、エルニーニョ現象は、どのように変化するのだろうか？気候変動に関する政府間パネル（IPCC：Intergovernmental Panel on Climate Change）が利用した大気海洋結合モデルによる温暖化実験の結果の解析を行うことにより調べる。 | | | | |
| ガイダンス | 【テーマ例2】エルニーニョ現象は太平洋熱帯域で発生するが、同様の現象が、インド洋や大西洋でも発生するのだろうか？インド洋や大西洋の海面水温データ等を解析することにより、他の現象について調べる。 得られた結果は、レポートにまとめる。また、他のグループの学生が執筆したレポートのピアレビューを行う。 | | | | |
| | (2) 宇宙・惑星探査 | | | | |
| | 複数のチームを作り、それぞれ過去の宇宙・惑星探査の調査、および将来探査の提案プレゼンテーションを実施する。 | | | | |
| | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| | 講義・輪講・理論実習、気候変動・エルニーニョ現象、宇宙・惑星探査、探査ミッション、観測、データ解析 | | | | |
| | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜日 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|------------------------------|-------|-----|--------|
| 31482 | 火 4 | 食料の“健康”を考えてみる | 伊藤 直樹 | 農学部 | E38 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>人類は有史以来、食料を効率的に生産することに多大な努力を払い、様々な植物、畜産物、そして水産物の domestication を成し遂げてきました。世界規模での人口増加が予想される現在、効率的食料生産技術開発の重要性はますます増加していくと予想されます。</p> <p>一方で、このような効率性食料生産技術に起因する様々な問題も顕在化しています。例えば、高密度環境での生産は病原体の伝播が起りやすく、また生産対象生物の移動に伴う病原体の移動は、感染症の拡大をもたらします。人工飼育条件下で与えられる人為的な餌が、生産対象種の健康に影響を及ぼす例も知られています。</p> <p>『食』は人類が生きていくためには必須な存在です。そのため、人類社会の持続的発展には、食料生産技術に関連する課題への解決も求められることとなります。</p> <p>本講義では、水産学と獣医学の専門家が担当します。前半は水産生物、後半は畜産物を中心に、“健康”に関連するトピックごとに考えていきます。講義の中では、関連する資料に基づいてグループディスカッションを行い、討議を通じて問題の理解と課題解決への道筋を探っていきます。</p> <p>講義の一部で、実際の食料生産・供給現場を訪問することで、食料を安全に提供することに対してどのような取り組みを実施しているか、また、それが限りなく完全に実施されるためには、どのような仕組みを取り入れているか、また、規制当局の関与についても学んでいきます。</p> <p>初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 問題発見・解決型、農学、食料生産、健康 | | | | |
| 授業のキーワード | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31483 | 火 4 | 私たちの身近にあるワンパクな タンパク質を科学する | 田中 智 | 農学部 | K302 |
| 授業の目標・概要 | <p>【授業の概要】</p> <p>生体内で起こるほとんどすべての生命現象はタンパク質を必要としています。タンパク質はアミノ酸が連結した高分子ですが、その配列によって機能が異なります。例えば、物質輸送にかかわるタンパク質、貯蔵にかかわるタンパク質、運動に必要なタンパク質、生体構造を維持するタンパク質、生体防御にかかわるタンパク質、情報を伝えるタンパク質などが存在します。我々は、これらのタンパク質を取り出し、食べることによって栄養素として、あるいはいろいろな産業応用をして、実生活に役立てています。そこで本講義では、私たちの身近にある興味あるタンパク質を選び、性質やその利用法を考えると同時に、その重要性を体験し、この経験をもとに、他の人達に、そのタンパク質の重要性を納得してもらおうツールを作ることを目標とします。</p> <p>【授業の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通じて、集団での問題設定、情報共有、討論、役割分担などコミュニケーションスキルを身につけます。 ・自分たちの知りたい科学情報を検索する手法を習得します。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 (この講義での個別評価基準) | | | | |
| 授業のキーワード | 自分で考え、自分で課題を見つけ出す。 | | | | |
| 教科書 | 問題発見・解決型、生物/タンパク質、グループワーク | | | | |
| ガイダンス | 教科書は使用しない。 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31491 | 火 4 | 薬学を支える有機化学の役割と貢献 | 尾谷 優子 | 薬学部 | E25 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>(授業の概要)</p> <p>医薬分子による生体機能の操作は、医薬分子と生体分子や細菌などとの化学的な相互作用に由来し、この現象は分子レベルで化学の知識を用いて理解することができます。また同時に、このような相互作用を理解することで、どのように医薬品分子を分子設計すれば、どのような効果が期待できるかなどを予想することができます。また、望みの物質(化合物)をつくりだすために有機化学は大きな力を発揮します。このように有機化学は薬学の根幹をなす学問です。本授業では、化学の視点から各担当教員が専門とする最先端の研究を通して、薬学の面白さを学んでいきます。本授業の初めに、文献検索法、研究倫理、統計、批判的思考などを学び、議論します。その後、小グループに分かれ、3つのテーマについて協調して調査し、発表や議論を通して科学的な思考における基礎的な能力の習得を行います。</p> <p>(授業の目標)</p> <p>本講義を通して、サイエンスの面白さを学ぶと共に、以下のスキルを身につけることを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題における目的や問題点を認識し、その解決のための手段を考える力。 ・実験データの理解方法と、そこから導かれる結論を論理的かつ客観的に論じる力。 ・自分の考えを分かりやすく他人に伝え、情報を共有することで新たなアイデアや知見を得るためのコミュニケーション能力。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、薬学/有機化学・天然物化学、医薬分子、酵素、抗菌薬、ものづくり | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|------------------------|-------|-----------|--------|
| 31410 | 金 1 | フューチャー・オブ・マインド | 坂口 菊恵 | 教養教育高度化機構 | K302 |
| 授業の目標・概要 | <p>脳機能や身体運動のイメージング技術の普及と、得られたデータの機械学習の組み合わせにより、頭で想像することにより機器を操作したり、思考をデータ化して他者に送り、仮想現実を体験させたりといった SF のような技術の基礎は既にできており、今後の急速な発展が見込まれている。これらは工学的応用の側面だが、そうしたアイディアのもととなる基礎的知見は、心理学や行動学による身近な事象の観察と、それに疑問を持ちメカニズムを解明しようとする営みにより積み上げられてきた。</p> <p>本授業の前半では、ミチオ・カク著「フューチャー・オブ・マインド：心の未来を科学する」をグループに分かれて読み、その近未来的なビジョンを楽しんでもらうとともに、これまでの神経科学や心理学の知見について、適宜原著論文にあたって理解することを目的とする。そして、SF 的な技術を実現するために現在どこまで技術が進んでいるか、ボトルネックはどこにあるのかを考察する。</p> <p>後半では、ウェアラブル脳波計など簡易的なデバイスを用い、量販される機器でどれだけのことができるか体験し、可能性を検討する。得られたデータを利用して動作する作品を作る、もしくは技術を利用した基礎研究や応用研究の計画を立案する、ことをゴールとする。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 現在の知見や技術をもとに、いかに奔放に想像力を飛ばかせるかを評価する。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見解決・データ解析型、生物学／心理学、ブレインマシンインターフェース、モバイル脳機能計測、ニューロリハビリテーション | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 フューチャー・オブ・マインド：心の未来を科学する 著者（訳者） ミチオ・カク 出版社 NHK 出版 ISBN 978-4140816660 | | | | |
| ガイダンス | 第 1 回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31424 | 金 1 | 感染症の克服に向けて：日本と世界での取り組み | 水口 雅 | 医学部 | K303 |
| 授業の目標・概要 | <p>【授業の概要と目的】 1950~1980 年ころ、抗菌薬（抗生物質）の開発やワクチン（予防接種）の普及など医学・生命科学の急速な進歩によって、あたかも感染症は制圧される寸前であるかのように見えました。ところが現実には、1980 年以降今日に至るまで、感染症の逆襲とも言える状況が続いています。この間、AIDS や新型インフルエンザ、病原性大腸菌 O-157 に代表される新興・再興感染症、ブドウ球菌、緑膿菌やマラリアの薬剤耐性など新たな問題が生じ、2019 年現在も世界と日本で大きな問題を起こし続けています。</p> <p>本ゼミナールでは感染症をテーマとして、「何が問題なのか?」、「克服に向けて医療、保健分野でどのような取り組みがなされているか?」を学生が主体的に調べ、学び、まとめ、発表します。</p> <p>【授業の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症に関する日本の問題、世界の問題、それらに対する取り組みの一端に触れる。 ・医学・生命科学分野における Web・文献検索、科学的思考、ディスカッション、プレゼンテーションの初歩を体得する。 ・研究には基礎医学、臨床医学、社会医学など多様な分野があることを理解する。 ・学術論文には総説と原著があること、それらの構造と読み方について理解する。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 授業のタイプ：論文読解型、学術分野：医学／微生物学、新興・再興感染症、細菌、ウイルス、寄生虫 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第 1 回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31449 | 金 1 | 東京の街を歩き、その空間について考える | 廣井 悠 | 工学部 | 114 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>本授業は、フィールド体験型ゼミナールとして、駒場キャンパス及びその周辺や東京の街を歩き、その空間の特徴を把握しながら魅力と課題を発見し、それらを表現する力を養うことを目的としています。授業では、まず、1つの小さな街とも言える駒場キャンパス及びその周辺をフィールドに、現地踏査と情報収集（写真撮影、寸法測定、観察等）、収集した情報に基づく空間の特徴の把握、魅力や課題に関する討議と整理、整理した内容の表現・発表（大判ポスター）といった一連の作業を 7 名程度の少人数グループで行います。次に、個人で、東京の街を歩き、魅力的な街を 3ヶ所選び、その魅力について発表を行います。そして、小人数グループで「東京の魅力的な街マップ」を作成します。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出席点、平常点(授業における貢献度)、個人課題・グループ作業の成果物 | | | | |
| 授業のキーワード | キャンパス、街、資料収集・分析、現地踏査、発表、グループ作業 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第 1 回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|--|---|-----------------|----------------|-----|--------|
| 31450 | 金 1 | ロケット工学から見た深宇宙探査 | 小泉 宏之 | 工学部 | E38 教室 |
| 授業の目標・概要 成績評価方法 授業のキーワード 教科書 ガイダンス | <p>深宇宙探査において目的地に到達するための方法を学ぶ。学問としては、軌道力学と宇宙推進工学がメイン。初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> <p>授業のタイプ：現象シミュレーション型、宇宙工学、軌道力学、深宇宙、宇宙推進 次の教科書を使用する。</p> <p>書名 宇宙はどこまで行けるか 著者（訳者） 小泉宏之 出版社 中央公論新社 ISBN 4121025075</p> <p>第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 31451 | 金 1 | 社会シミュレーション入門 | 和泉 潔 | 工学部 | K201 |
| 授業の目標・概要 成績評価方法 授業のキーワード 教科書 ガイダンス | <p>※後半の数回分(グループワーク)を6月土曜日の午後に本郷キャンパスで行う予定です。履修希望者は上記日程の都合が合うことを確認して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●社会現象のモデリング&シミュレーションにより「答えのない問題を解く力」を身につける ●「研究の基礎的な流れ」を学ぶ <p>(授業の概要) 現実社会では正解がない問題、答えがひとつとは限らない問題、解法の指針がわからない問題が数多く存在します。実際に社会に出た時、そういった問題に向き合うためには、自ら考え仮説を立て検証する「仮説検証能力」が必要となります。</p> <p>本授業では、仮説検証能力向上のアプローチとして、社会現象を対象としたモデリング&シミュレーションの技術を学びます。特に、現実社会では実験が難しい事象について、コンピュータを用いて検証を行う技術を身につけます。エージェントと呼ばれる社会の中での個人のような働きをするプログラムが多数集まって社会現象を再現するエージェントシミュレーションという技術を学びます。</p> <p>また仮説検証能力は、学術研究分野において重要な基礎であり、モデリング&シミュレーションの考え方は、今後研究活動を始めるにあたり効果的な事前学習となります。</p> <p>(授業の目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> - プログラミング言語の習得だけではなく、現象をモデリングするスキルを身につける。 - 実際の研究・開発の流れを学ぶ。 - 社会経済現象に関するデータを解析しモデルを構築する工学的手法を学ぶ。 - モデルを用いた計算機シミュレーションから、予測・制御・設計を行う手法を学習する。 - シミュレーション言語を用いた、社会現象のマルチエージェントモデルの作成を行う。 - グループワークを通して自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することでプロジェクト実施時におけるコミュニケーション能力を養う。 <p>出席と通常講義での課題・発表及びレポートで評価します。</p> <p>問題発見・解決型、システム科学、社会シミュレーション、モデリング 教科書は使用しない。 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 31472 | 金 1 | 分子の世界への招待 | 磯部 寛之 佐藤 宗太 | 理学部 | E39 教室 |
| 授業の目標・概要 成績評価方法 授業のキーワード 教科書 ガイダンス | <p>Central Science とも称される「化学」の成り立ちについて学ぶ。データベース検索などを活用し、知識が形成される過程を、学術論文を中心として学生自身が主体的に学び取る。また、学んだことをグループ学習によるプレゼンテーションにより他者にわかりやすく伝える体験を通して、プレゼンテーションに関わる技能を学ぶ。化学の分野を題材にしながら、科学一般の基礎となる学術的スキルを実践的に習得することを目標とする。また、1コマは本郷の研究室にて有機化学の最前線の研究現場を見学し、関連する化学実験を体験する。</p> <p>初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> <p>論文読解・演習型、化学/有機化学、少人数ゼミ、化学、情報検索、プレゼンテーション 次の教科書を使用する。</p> <p>書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会</p> <p>第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|---------|-------|-----|------|
| 31484 | 金 1 | 人間社会と森林 | 櫻井 武司 | 農学部 | K501 |
| 授業の目標・概要 | <p>(授業の概要)</p> <p>森林は木材だけでなく、薪炭その他の様々な産物を人間社会に提供するという経済的価値を有している。さらに、景観の提供、水源涵養、土壌流出の防止、二酸化炭素の吸収などといった公共的役割も果たしている。科学技術の発展は森林の前者の役割を減少させているが、発展途上国の農村ではいまだに一定の役割を果たしている。経済的な価値の減少は、過剰な採取による森林資源の減少という問題を軽減させているが、他方で公共的な役割を持つ森林を保全する動機の提供を困難にしている。この授業では、このような人間社会と森林の関係を社会科学的視点（農業経済学）と自然科学的視点（林学）から学び、さらに両者を融合することで新しい問題を発見することを試みる。</p> <p>(授業の目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題における問題点を文献に基づき把握する。 ・異なる学問分野を融合することの意義を知る。 ・成果をとりまとめて発表し、コメントに応じて修正するというプロセスを経験する。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 論文講読＋問題発見型、学術分野（農学/農業経済学、林学）、森林、農業経済学、林学 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 | | | | |
| | 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 | | | | |
| | 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| グループ5 1年 理一(21,25,27,30-32)理二三(1-3,5,11,13,21) | | | | | |
|--|--|----------------------------------|--------------|-------|-------------------|
| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
| 31404 | 水2 | 光合成を科学する | 増田 建 | 生物 | KALS (17号館 2階) |
| 授業の目標・概要 | <p>(授業の概要) 光合成生物は、太陽から放射される光エネルギーを光合成により化学エネルギーに変換し、二酸化炭素を有機物の形に変換することで蓄えています。地球上のほぼ全ての生物は、光合成生物が固定するこの有機物に依存して生存しています。また近年の研究から、静的に見える植物においても、光合成の反応は環境条件に応じてダイナミックに変化していることが分かってきています。</p> <p>本ゼミナールの前半では光合成の基礎について、分担した課題についての調査発表により共通の知識を得た後、光合成の環境応答について、グループ毎に光合成の可能性に関するテーマを設定して、実際に光合成の測定などの実験を行いながら、仮説から結論に至るまでの科学的な思考における基礎的な能力の習得を目指します。文献調査、発表、学生間の討論を通して、最終的にグループで発表を行います。</p> <p>(授業の目標) ・ 研究課題における目的や問題点を認識し、その解決のための手段を考えるという活動に取り組む。 ・ 仮説をたて、結論に至るまでに必要な科学的プロセスを組み立てる。 ・ 自分の考えを、分かりやすく他人に伝え、情報を共有することで新たなアイデアや知見を得るための、コミュニケーション能力の基礎を身につける。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、生物/植物、光合成、食糧問題、エネルギー問題、グループワーク | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31421 | 水2 | Seeing the world through sensors | Lippmaa Mikk | 物性研究所 | K201 |
| 授業の目標・概要 | <p>The goal of this seminar is to introduce the basic concepts of the scientific process and scientific thinking. We start by learning the importance of empirical evidence in science and practice performing various measurements with smartphones and tablets. The seminar will be organized around small groups of 2 to 3 students who can work together on solving a series of tasks that illustrate various aspects of the scientific process, starting from collecting measurement data, processing the data, learning how to draw conclusions from measurements, and practicing presentation of the results.</p> <p>Students are encouraged to bring their mobile devices to the seminar, learn about the sensing capabilities of the phones and tablets and use the mobile devices for performing actual experiments.</p> <p>The seminar is divided into four main parts: (1) learn what is special about science, where knowledge comes from (2) learn how to observe, how to perform measurements (3) learn numeric data processing (4) practice reporting the measurement and analysis results.</p> <p>The seminar presentations and discussions will be done mostly in English. Students will be provided with written materials that should be reviewed before each seminar. The seminar time will be used mostly for practical work, discussion, and short presentations. All group communications, information sharing, questions and answers, etc. are done online.</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | problem solving、physics/engineering、sensor、numeric data、analysis、presentation | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|----------------------------------|--------|-----|------|
| 31452 | 水 2 | 工学×デザイン～ワークショップで 学ぶ理系のためのデザイン | 村上 存 | 工学部 | K303 |
| 授業の目標・概要 | <p>■ 授業の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なるテーマのワークショップを通して、ものづくりにおけるデザイン（設計）を体験します。 グループワークによる問題設定、分析、アイデア発想、プレゼンテーションのプロセスを身につけます。 デザインに必要な基礎的な工学的知識を身につけます。 <p>■ 授業の概要</p> <p>良いデザイン（設計）とは何でしょうか。それは、単に見た目が美しいだけでなく、安全で、使いやすく、使うと嬉しくなるような人にとって思いやりのある設計を指すかもしれません。あるいは、シンプルな構造で優れた性能を発揮する巧妙な設計を意味することもあるかもしれません。この様に、ものづくりにおける「デザイン」の意味は多様です。本ゼミでは、グループワークによるワークショップを通して、ものづくりにおける多様なデザインの観点と、それに必要な方法を理解します。</p> <p>前半では、身の回りから、危険、非効率、分かりにくい、使いにくいなどの「困った」デザインを調査・発掘し、問題の本質を議論します。そして、それらを「よい」デザインに変えるアイデアを提案、プレゼンテーションします。</p> <p>後半では、軽くて安全な構造物をデザインすることを目的に、バスタで橋を作るバスタブリッジコンテストを通じて、機能を達成するための工学デザインを体験します。最終回は、グループごとに発表会を行い、それぞれのデザインについて議論します。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、機械工学／設計、デザイン、力学、理論＋実践、発想・創造 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 | | | | |
| | 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 | | | | |
| | 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31453 | 水 2 | 数学・物理をプログラミングで考える | 田浦 健次朗 | 工学部 | K401 |
| 授業の目標・概要 | <p>より詳しくは以下の URL を参照 http://pmp.eidos.ic.i.u-tokyo.ac.jp/ コンピュータ（プログラミング）を使って、数学や物理の問題、実世界の問題を数学や物理の言葉で定式化した問題を解く方法を学びます。そうすることを通してプログラミング、数学、物理を学ぶとともに、それらの分野に対する勉強の動機・意欲が高まることを期待します。</p> <p>実際の問題をいくつか、例・テンプレートとして提示し、グループに別れて解法や、問題の発展形や一般化などについて議論します。それと並行して、プログラミングの基本について、演習します。最後に、お互いが解いた問題について発表しあう、発表会を行います。途中でも、グループの間でのアイデア交換や進捗状況の共有のため、適宜ミニ発表会を行います。KOMCEE でグループごとに机を分け、ノート PC を用いてプログラミングや文献調査を行います。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 出欠、授業への参加意欲など | | | | |
| 授業のキーワード | プログラミング、Python、物理シミュレーション、微分方程式 | | | | |
| 教科書 | プリントを配布する。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜日 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------------------------------|--|------------------|-------|-----|--------|
| 31454 | 水2 | 材料科学の最前線 | 南部 将一 | 工学部 | K302 |
| 授業の目標・概要 | <p>『とても堅くて、どんな鋭い矛(ほこ)でも突き通せない楯』— そんな不可能を可能にする学問について考えてみましょう。実際、社会から科学技術への期待や要求の中には、不可能とさえ思えるほどの無理難題が多くあります。一般には、強固な物質はしなやかな変形ができません。電気抵抗の小さな材料は電流をよく通しますが、高い電圧をかけられません。これらの全く異なる要求を両立させることはとても困難に見えるかもしれませんが、しかし、もし2つの相反する要求(トレードオフ)を満たす物質が作り出せるとしたら・・・材料科学には、そんな一見すると不可能に見える要求を実現するという重要な使命があります。例えば、強くてタフな材料、低抵抗になったり高抵抗になったりする材料。社会が求める機能を発揮させるように生み出された新しい材料(マテリアル)が、現代の技術革新(ブレークスルー)には重要な役割を果たしています。</p> <p>本講義は、そんな最先端の材料科学について基礎を学びます。材料技術の進展によって、原子レベルに至る微細構造を制御することが可能になりつつあり、所望の特性を持つ材料を自由に設計して創り出せる時代は、すぐそこまで来ています。この授業では、高強度材料や電子デバイス材料、医療用材料などの技術についての解説文を題材としながら、いかにして相反する要求(トレードオフ)を克服する技術を生み出すことができるのか、その基礎を学びます。これらの実例を通じ、社会に貢献するための科学技術とは何かを体感してください。</p> <p>【 題材の例 】</p> <p>1) 超高強度材料を目指せ： 持続可能な社会を可能にするためには輸送機器の軽量化と安全性の両立が不可欠であり、今までにない強くて伸びる新材料の開発が求められています。これを実現可能とするための、最先端の材料研究を調査します。</p> <p>2) 電流のオン/オフを変えられる材料とその仕組み： 情報機器の頭脳となる集積回路では微細加工されたトランジスタが何億個も並び、それぞれの材料中の電流がオン・オフと切り替わって動作します。どのようにこのスイッチを実現するのか、最先端電子デバイスの材料と構造を調査します。</p> <p>3) ハイドロゲルの医用応用： ハイドロゲルは、90%程度の網目状高分子から出来ています。その組成は、生体軟組織と極めて近く、医用材料として注目を集めています。医用応用を行う上で、どのような材料設計が重要になるのか、最先端の医用材料について調査します。</p> <p>【 授業の目標 】</p> <p>学術論文の構成を知り、学術研究を行ううえでの基礎を身につけます。調査・研究とグループ討議や研究発表を通じ、学術的なコミュニケーション能力を身につけます。材料科学を題材にしながら基礎研究と最先端技術との関連についての実例を学び、科学技術が社会にどのように関わり、貢献することができるのかを議論し、理解を深めます。</p> | | | | |
| 成績評価方法 授業のキーワード 教科書 ガイダンス | <p>初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> <p>論文読解型、材料工学、構造材料、電子デバイス材料、高分子ゲル プリントを配布する。</p> <p>第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 31455 | 水2 | 化学を使って生命や分子の謎を解く | 加藤 隆史 | 工学部 | E39 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>授業の概要：</p> <p>「生命」は化学物質の変換を巧みに行い自律的に活動する複雑なシステムです。また「分子」はそれら化学物質の基本的な構成単位であり、その活動や機能の発現において中心的な役割を担っています。生命や分子を「化学」の視点から眺め理解することは、我々自身やまわりの現象を深く知る上で欠かすことができません。</p> <p>わたしたちは「化学」の力を使って、自らの創造力を「分子」をデザインすることにより具現化することができます。それによって生命現象の理解や病気の治療法を考案したり、自然界にはない新たな機能を持つ分子や素材を生み出すことが可能となります。まさにこの分野は、21世紀の人類社会が抱える多くの諸問題を解決する糸口を提供します。</p> <p>本ゼミナールでは、生命現象や機能性分子・機能素材に焦点を当て、様々な課題を解決するために、化学や分子の視点からどのようにアプローチし、どのようにアイデアを具現化するかについて、文献調査やディスカッションを通じて主体的に考え、オリジナリティの高い提案を行うことを目標に進めていきます。</p> <p>具体的には、生物に学ぶ機能分子・分子集合体・材料をデザインすることに挑戦します。生物がどのような仕組みで有機分子や無機物などから自分達の体をつくりあげ、精密な秩序構造や動的構造を形成して高機能を発現しているかなどを考えてみましょう。さらにそれらを人工的に模倣することによって、生物機能を凌駕するような新しい物質・材料の設計のための創造的討論と発表を行います。世界でまだ誰も考えていない生物模倣材料をつくることを考えてみましょう。</p> <p>授業の目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決すべき問題に対して自ら課題を設定し、解決法を提案する主体性を育成する。 ・グループによる課題設定、進捗状況の共有、プレゼンテーションの実施、質疑応答といった共同作業のスキル、またグループワークにおける主体的な関わり方を身に付ける。 ・自然科学の研究技法を通じた論理的思考法・批判的思考法、建設的な議論の組み立て方を身に付ける <p>初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> <p>問題発見・解決型、化学/生命科学・有機化学、生物機能模倣科学、材料化学、超分子化学 授業中に指示をする。</p> <p>第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 成績評価方法 授業のキーワード 教科書 ガイダンス | <p>初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> <p>問題発見・解決型、化学/生命科学・有機化学、生物機能模倣科学、材料化学、超分子化学 授業中に指示をする。</p> <p>第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|-----------------|--|---|-------|-----|--------|
| 31473 | 水 2 | 宇宙の未解決問題を考える。 Unsolved problems in Astronomy: Dark matter | 柏川 伸成 | 理学部 | 118 教室 |
| 授業の目標・概要 | 今年度はダークマターについて考える。これまでの研究史を振り返りながら、どうしてこの概念が現代天文学で必要とされているのかを知る。ダークマターに深く関与する観測事実について理解し、現代天文学においてダークマターはどのような意味を持つか、またその正体を暴くにはどうすればよいかを最終的には議論する。 | | | | |
| 成績評価方法 | 出席とレポート。欠席は3回まで。欠席することがあらかじめ分かっている場合には、メールで連絡すること（メールアドレスはUTAS参照）。 | | | | |
| 授業のキーワード 教科書 | 授業のタイプ（「問題発見・解決型」など）、天文学/Astronomy、銀河/galaxy、ダークマター/dark matter、宇宙論/Cosmology 次の教科書を使用する。 書名 The dark matter problem : A historical perspective 著者（訳者） Robert H. Sanders 出版社 Cambridge University Press ISBN 9781139192309 その他 教科書を購入しなくてもプリントで配布します。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31485 | 水 2 | 食糧生産の現場で科学者は何ができるか | 神谷 岳洋 | 農学部 | E35 教室 |
| 授業の目標・概要 | 世界人口は増え続け、2050年までに90億人に達すると予測されている。くわえて、温暖化の進行により、耕地に適した土地は少なくなり、深刻な食糧不足が生じることが予測されている。我々、科学者は来るべき食糧危機に備えて、最新の技術を用いた作物の育種や栽培方法を通して、食糧問題の解決を図っている。本授業では、グローバルおよびローカルでどのような食糧問題が起きているかをsh資料検索、文献読解等を通じて把握することを目指します。加えて、問題解決に向けて、現場の科学者がどのような取り組みを行っているかを、文献だけではなく、実際の研究の現場を見学することにより学び、未来を見据えた解決策を議論しながら提案することを目指します。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード 教科書 | 問題発見・解決型、農学、食糧、農業、ゲノム、生命科学 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31395 | 金 3 | Arts and Sciences | 池上 高志 | 物理 | K302 |
| 授業の目標・概要 | 駒場は、文系といわれる学問と理系と言われる学問から成り立っています。しかしこの2つの学問領域の境界は実は曖昧で、明確な区切りはないのです。アートとサイエンスは、異なる言語の下で共に進化してきた領域です。ここではinterdisciplinary（学際）ではなくtransdisciplinary（分野横断的）、つまり自分でサイエンスもアートも自分で開拓できる精神を共有したいと考えています。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード 教科書 | レクチャー＋ワークショップ、複雑系の科学、アート、サウンドアート、プログラミング 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31400 | 金 3 | 液体としての水の特異性について考える | 平岡 秀一 | 化学 | K201 |
| 授業の目標・概要 | 水 = H ₂ O は我々にとっても最も身近でかつ不可欠な物質です。水はその極めて単純な分子構造にもかかわらず、様々な特異な性質が知られています。これらの水の特異な性質は何に由来しているのでしょうか？また、水は我々生命にとって必須の物質だと考えられていますが、なぜなのでしょう？水がないとどのようなことが起こり、水の代わりとなる別の物質はないのでしょうか。溶媒としての水の特異性の一つに疎水効果と呼ばれる現象がありますが、なぜそのようなことが起こるのでしょうか。また、疎水効果に相当する現象は、水以外の溶媒では起こらないのでしょうか。このように、水を取り巻く様々な現象を水分子に着目し、考えてみたいと思います。後半では、水中における分子の集合化について考え、新しい分子のデザインにも挑戦します。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード 教科書 | 水、化学、疎水効果、自己集合、ファンデルワールス力 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-------------|--------|-----------|--------|
| 31405 | 金 3 | ダイエット・減量の科学 | 寺田 新 | スポーツ・身体運動 | K301 |
| 授業の目標・概要 | 書店では、健康の維持・増進のための食事法や減量法・ダイエット法に関する書籍が数多く販売されており、ネット上にも様々な情報が氾濫している。これらの情報のうち、どれを信じてよいのかわからなくなったことはないだろうか。このように世の中に溢れる健康情報に対して、それらを総合的に考え、自分に当てはまる情報を取捨選択する能力を身につけることが必要とされている。このゼミでは、まず、世の中に広まっている減量・ダイエット理論がどのようにして構築されてきたのか？それらはどのような科学的根拠に基づいているのか？ということについての検証を通じて「健康リテラシー」を身につけることを目指す。さらに、簡単な実習・実験を行いながら、実際に自分たちが研究者となって健康やダイエットに関する新たな科学的理論を構築しようとした場合、どのような実験を行ったらよいのか？また、得られたデータをわかりやすく伝えるためには、どのような発表を行えばよいのか？ということについて考え、一連の研究プロセスについて学ぶことを目標とする。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 論文読解型/データ解析型、栄養学・スポーツ栄養学、健康科学、スポーツ科学、健康リテラシー | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31750 | 金 3 | 産婦人科学入門 | 甲賀 かをり | 医学部 | 516 教室 |
| 授業の目標・概要 | 医学部産婦人科では妊娠出産を扱っています。昨今の生殖医療の進歩により、多くの疾患が克服されてきましたが、同時に多くの倫理的問題が発生してきました。本ゼミナールでは下記のような問題を題材に、文献調査、学生間の議論を通して、プレゼンテーションスキル、論文作成スキルを身につけます。 1) 出生前検査（妊娠中に染色体数の異常など胎児の疾患を診断すること） 2) 緊急避妊ピル（性交渉の後に薬を内服することで妊娠を回避できる） 3) 代理懐胎（他人の卵子をもらって出産する、あるいは他人の子宮を借りて出産してもらう） | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、ディベート、プレゼンテーション、産婦人科学、生殖医療、生命倫理 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31456 | 金 3 | 建物振動の計測と制御 | 伊山 潤 | 工学部 | E25 教室 |
| 授業の目標・概要 | 建物を想定した振動応答解析理論の概要を学び、応答解析計算、計測の自習および応答制御を想定したケーススタディを行います。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 実験・実習、工学/建築構造、振動・応答、構造解析 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31486 | 金 3 | 種と成長をわけるもの | 中西 啓仁 | 農学部 | K401 |
| 授業の目標・概要 | 私たちは多様な生物と生態系との関りの中で生活をしています。私たちの衣食住を支え、私たちの精神生活に潤いをもたらす多様性は、生命の誕生以来 38 億年にわたる悠久な進化の歴史によりもたらされたものです。このゼミナールでは、みんなが植物を水耕栽培します。種（たね）が発芽すると、成長とともに次第に多様化して、種（しゅ）と個体の個性が引き出されてくることを実感します。実感しつつ生物の進化と適応を推し量り、生物の個性を利用したバイオテクノロジーの現在を見つめます。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、生物学/生物多様性、種の多様性、環境と適応、バイオテクノロジー | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|--|-----|-----------------------------|-------|-----|--------|
| 31457 | 金 3 | 物理のための数学ゼミ | 荒井 俊人 | 工学部 | 517 教室 |
| <p>授業の目標・概要 (授業の概要) 大学で物理学を勉強するに当たり必要と思われる数学的知識をゼミ形式の演習と発表を通して理解を深めます。物理学習得のための数学の初歩を学び、学んだ数学が実際にどのように使われているかを自分で調べ、調べた内容を他の受講者の前で発表します。力学、電磁気学、身近な物質の性質を研究対象としている物性物理学を中心的な題材としますが、それ以外の興味ある物理学のトピックに着目しても構いません。受講者を4,5名から成るグループに分け、各グループで興味ある物理学のテーマを設定し、そこに使われている数学について解説したり、自分で関連した問題を作成して解法を解説する形式で進めます。受講者間の討議や文献検索を通して内容をまとめ、それをプレゼンテーションによって他人に分かりやすく伝える事を学びます。</p> <p>(授業の目標) ・演習を通して既存の課題の目的や問題点を認識し、その解決のための手段を学ぶ。 ・新しいテーマを自ら設定し、課題解決のために必要な道筋を考える力を身につける。 ・自分の考えを分かりやすく他人に伝え、情報を共有することで新たなアイデアや知見を得るためのコミュニケーション能力の基礎を身につける。</p> <p>成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、物理学/物性物理学、物理数学、グループワーク、サイエンスコミュニケーション 教科書 教科書は使用しない。 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | | |
| 31458 | 金 3 | やってみよう！化学を使った社会設計 | 杉山 弘和 | 工学部 | K501 |
| <p>授業の目標・概要 本ゼミでは、化学の知識を活かして、私たちの社会に関する課題を発見し、解決策を提案することを目指します。まず基礎知識を取得するために、以下のような演習課題を解きます。 ・エアコンの効率が100%にならないのはなぜか？(熱力学の応用) ・スイッチを冷やすまでにどれくらいの時間が必要か？(微分方程式の応用) ・PETボトルのリサイクルは環境に良いのか？(プロセス工学の応用) これらの知識を土台に、グループワークで以下のようなテーマに取り組みます。テーマ設定は自由です。 ・医療・医薬の問題 ・環境問題 ・エネルギー問題</p> <p>本ゼミの狙いは、受講生が講義で学ぶ基礎知識をネットワーク化し、それを実際の課題解決に活用できるツールとして身につけることです。</p> <p>成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、化学・システム工学、演習・グループワーク、情報学、工学、モデル化・シミュレーション・最適化 教科書 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | | |
| 31474 | 金 3 | 地球の環境と生物 ～物質循環と生態系の相互作用～ | 板井 啓明 | 理学部 | E35 教室 |
| <p>授業の目標・概要 この授業では、地球の表層における物質の循環プロセスと、その生物との関わりについて学習します。地球表層は、大気・海洋・土壌など性質の異なるシステムから構成され、物質循環の解析法はシステムごとに特徴があります。これら環境中の化学および微生物生態に関するデータの基礎的な解析方法を実習を通して身につけるとともに、ヒ素(土壌-地下水)や水銀・放射性物質(大気-海洋-生物)などを題材にグループワークを実施し、環境動態・生体毒性・環境浄化など異なる視点から問題発見および解析のプロセスを学習します。授業を通じ、以下の目標を達成します。 ・地球環境における物質循環要素を理解できるようになる。 ・環境・生態系を対象にした基礎的なデータ解析ができるようになる。 ・環境汚染に対する理学・工学的視点を身につける</p> <p>成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、物質循環/微生物、グループワーク、微量元素、放射性物質、基礎統計学 教科書 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | | |

| グループ6 1年 理一(22,24,34-35,38)理二三(17-18,22-23) | | | | | |
|---|----|--|--------|-----------|--------|
| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
| 31394 | 水3 | 相対論について考える | 酒井 邦嘉 | 物理 | K302 |
| 授業の目標・概要 (授業の目標) ・サイエンスにおける問題発見と解決方法の基礎を学び、結論だけでなく科学者の思考過程そのものを理解できるようになる。 ・「科学発表の3原則」である、「正しく、分かりやすく、短く」を心がけて実践に生かせるようになる。 ・自ら問題に取り組みながら科学研究に必要な「論理的な思考力」を磨くことで、学問の進め方の基礎を身につける。 (授業の概要) 物理学の発展の歴史に相対論を位置付け、アインシュタインの仕事を通して発見の軌跡を自分たちで追体験します。また、科学研究の成果をいかに正確に、そして分かりやすく伝えるかを重視して、議論や発表の基本を学びます。小グループ分けによる協調学習を通して、論理的な思考力を深めることを目指します。 成績評価方法 授業のキーワード 教科書 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 問題発見・解決型、物理学/物理一般、アインシュタイン、相対論、科学の基礎 次の教科書を使用する。 書名 『高校数学でわかるアインシュタイン』 著者(訳者) 酒井邦嘉著 出版社 東京大学出版会 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | | |
| 31406 | 水3 | 心の動き(emotion)と身体の動き (locomotion)の harnessing mechanisms | 柳原 大 | スポーツ・身体運動 | K301 |
| 授業の目標・概要 【授業の概要と目標】 私たちの生命活動及び行動において、身体運動、とりわけ姿勢(posture)や歩行・走行(locomotion)はその基盤となり、一方で、情動(emotion)は多種多様な環境下で発現します。本ゼミナールでは、運動や情動が脳を含めた生体のどのような仕組みにより発現し、調節されているのか、また、どのように相互作用、協調しているのかについて、実際の実験と観察を交えながら学習していく。グループ内で討議を行い、「参考資料及び文献の収集」、「問いあるいは仮説の設定」、「研究方法の設定」、「論述の組み立て」などのアカデミックスキルを学ぶ。それらの内容はゼミナール時間中にプレゼンテーションします。これらを通して、仮説から結論に至るまでの科学的な思考における基礎的な能力の習得を目指します。 【学術分野】神経生理学、運動生理学、計算論的神経科学、バイオメカニクス 成績評価方法 授業のキーワード 教科書 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 運動、情動、生理学、脳、筋骨格、問題発見・解決型 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | | |
| 31459 | 水3 | 未来医療工学 | 牛田 多加志 | 工学部 | K303 |
| 授業の目標・概要 医療の発展はめざましいものがあるが、それは医学の基礎知識に工学の技術を複合させることにより実現している。さらなる将来の医療の発展を目指して様々な医療工学が現在、研究されている。本ゼミでは、その中から再生医療工学、医療機器デザインの視点から、それぞれの基礎知識、文献検索、医療工学技術の提案、プレゼンテーションについてグループワークを進める。 成績評価方法 授業のキーワード 教科書 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のタイプ(「問題発見・解決型」など)、学術分野(大分類/小分類) 機械工学、医療機械、再生医療工学 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | | |
| 31460 | 水3 | データ解析により予測する2050年の 世界の鉄鋼産業 | 井上 純哉 | 工学部 | E25 教室 |
| 授業の目標・概要 授業のキーワード「鉄」は3000年に渡り、私たちの生活と社会を支えてきました。自動車、鉄道、建物など身の回りの多くの製品には鋼材が使われています。世界最長の吊り橋の明石海峡大橋、東京スカイツリーなどのランドマークも鋼材により作られています。これから先も、鋼材が私たちの社会の基盤材料であることは間違いありません。本授業では、日本および世界の過去(1950-2015年)の様々なデータ(人口、経済発展(GDP/人)、粗鋼生産量、鋼材の用途別消費量、製品の寿命など)を解析し、鋼材消費量がどのような因子と相関があるかデータ解析を行います。そして、相関解析から得た知見を基に、2050年までの世界の鉄鋼需要の予測を行います。 成績評価方法 授業のキーワード 教科書 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 データ解析、マテリアル工学・産業エコロジー、将来需要推計、環境制約 次の教科書を使用する。 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|----------------------------------|--------|-----|-------------------|
| 31461 | 水3 | 化学のブレークスルーに学ぶ(2) (有機化学・分析化学編) | 澤田 知久 | 工学部 | KALS (17号館 2階) |
| 授業の目標・概要 | 有機化学・分析化学におけるブレークスルーとなる発見や成果をもたらした研究に関して、その背景と基礎知識を講義や文献読解により学ぶとともに、世界最先端の研究現場やその舞台裏に触れる。研究の基礎となる理論や手法を身につけた上で、それを基に研究がどのように展開され応用技術や新しい概念に結びついたのかを順を追って学ぶ。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 応用化学、有機化学、分析化学 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31475 | 水3 | 世の中を変えた物理、変える物理 | 長谷川 修司 | 理学部 | K402 |
| 授業の目標・概要 | 本ゼミでは、調査研究やグループ討論、プレゼン、相互批評などを通して、一つのテーマについて、自分自身で調査のやり方や方向性を決め、能動的に情報を集め、体系化して論文にまとめあげるという体験をする。テーマとしては、物理学（とその周辺分野）における歴史的な発見や発明、あるいは将来大きな影響力を持つと考えられる物理学に関するトピックスを一つ選び、その内容を調べるだけでなく、それがその後どう展開され、現代社会や未来社会にどう繋がっているのか、われわれの認識や考え方、生活のしかたをどう変えた（る）のか、などを深堀する。テーマの設定や調査研究の進め方などは、グループディスカッションを通して自立的に設定する。最終的には、各個人のそれぞれのテーマに関して論文形式のレポートにまとめる。その作業過程で、プレゼンテーションや相互批評（ピアレビュー）などを行い、コミュニケーションスキルを高めるとともに最終レポートのブラッシュアップに役立てる。 | | | | |
| 成績評価方法 | 議論のとっかかりとして、最初に、すべてのノーベル物理学賞と関連するノーベル賞の一覧表を提供するが、それにとらわれず、自由にテーマを選んでよい。また、発明や発見の内容を学術的に正確に記述することにとらわれず、その発明や発見の意義を広く理解してもらえらる表現や議論を重視して進める。 | | | | |
| 授業のキーワード | ゼミ形式、物理学、ノーベル賞、科学史、科学と社会 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31476 | 水3 | 生命を分子・情報から読み解く | 飯野 雄一 | 理学部 | E35 教室 |
| 授業の目標・概要 | 2008年のノーベル化学賞の対象となったのは下村脩博士らによる緑色蛍光蛋白質（GFP）の発見とその応用であった。緑色蛍光蛋白質は生物学や医学の研究を塗り替え、いろいろな生命現象を目の当たりに見ることができるようになった。本ゼミナールでは緑色蛍光蛋白質がどう見つかりどう使われているか、実際の観察を交えながら学習し、今後どういう可能性があるかについて各グループで調べながら考察する。さらに、生命現象を支える分子についての理解をふまえ、ゲノミクス、バイオインフォマティクス、システム生物学などそれらの全体像を捉える生物情報科学分野の近年の進展とその社会との接点（合成生物学、個人ゲノム解析、遺伝子検査など）に関して考察する | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、生物学／分子生物学、生物学／生物情報科学、生命現象のしくみ、蛍光蛋白質(GFP) | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-----------------------------------|--------|-----|------|
| 31487 | 水 3 | 2050年の農業・農村と環境を考える | 橋本 禪 | 農学部 | K501 |
| 授業の目標・概要 | <p>国連の推計によると、受講生の皆さんが社会の中心的な役割を担う世代となる2050年には、世界の総人口は97億人を超えると推定されています。そのため世規模でみると、増加する人口を支えるためにさらなる食料の増産が求められており、その使命が農業と農村に課せられています。他方、日本の人口はすでに減少局面に入り、2050年には1億人を割るといわれています。日本の農山村では過疎化や高齢化、農業の後継者不足等から、われわれにさまざまな恵みをもたらしてきた里地里山の利用・管理の低下、それに伴う耕作放棄地の増加、農村社会の衰退などさまざまな問題が指摘されています。農業・農村やその周辺環境は今後どのような姿になっていくのでしょうか。</p> <p>そこで本ゼミナールでは主に日本に焦点をあて、皆さんとともに2050年の農業・農村や環境の姿について考えたいと思います。本ゼミナールを担当する教員2名はそれぞれランドスケープ・プランニングと農業経営学を専門としています。学問分野の細分化が進む中、2つの分野の視点を踏まえた相乗的な議論を行うことを目指しています。ゼミナールではまず、農業と農村を取り巻く現状や問題点、それを解決していくための技術や社会的対応について、論文読解と情報収集を通して知識を深めます。続いて、得られた客観的情報をもとに各グループで議論を行い、次の時代の農業と農村のあるべき姿を、根拠をもって具体的に提案します。最後に、得られた提案を発表し、さらにその発表に対して再検討を行います。レポートにまとめます。これらの過程で、情報収集、論文読解、グループ討論、計画立案、プレゼンテーションといった活動を実際に体験し、能動的な問題解決能力を身に着けます。</p> <p>(授業の目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会の問題解決における自然科学、社会科学の役割について理解を深める。 ・科学研究を行う上で必要な基本的スキル(情報収集、論文読解、グループ討論、計画立案、プレゼンテーション等)を身につける。 ・考えを分かりやすく他人に伝え、情報を共有することで新たなアイデアや知見を得るための、コミュニケーション能力を磨く。 <p>初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 問題発見・解決型、ランドスケープ・プランニング、農業経営、多面的機能、多面的機能、グループ討論 | | | | |
| 授業のキーワード | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| 教科書 | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 | | | | |
| | 著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 | | | | |
| | 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31401 | 金 4 | 化学で切り開く新しい生命科学： 研究者に求められる能力とは？ | 吉本 敬太郎 | 化学 | K301 |
| 授業の目標・概要 | <p>【はじめに】</p> <p>皆さんの「化学」のイメージは、周期表や反応式、化合物名や成経路の暗記、さらにモル収支の計算など、覚えることばかりで計算が面倒、泥臭い実験、汚い白衣のイメージ、、、なんて方が多いでしょうか。一方、「生命科学」のイメージは、オートファジー、iPS細胞、難病治療薬、などのトピックスが最近メディアでも華々しく報道され、非常に輝いて見えるのかもしれませんが。しかし、「化学」と「生命科学」はとても深く密接な関係にあります。化学の発展無しには生命科学の発展はありえません。</p> <p>本授業は、「生命科学」の研究分野において「化学」が極めて重要な要素・学問であることを学び、皆さんに「今まで知らなかった"生命化学"」に出会ってもらうことを大きな目的としています。さらに、研究者という職業について深く知ること、また昨今話題となっている研究者のモラルについても考えたいと思います。研究者を公平に評価する"物差し"を皆さんとディスカッションしながら考えていきたいと思っています。</p> <p>研究者を評価する物差しや化学と生命の融合領域について考えるなかで、アイデアの出し方、グループディスカッションの経験を積んでいただくことを大きな目的としています。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>「分子認識化学」「材料化学」「生命科学」をキーワードとする各テーマについて、グループディスカッション・発表・討論することを最終的な目標として設定しています。このための事前準備(議論、提案、プレゼンなどの訓練)も本講義内で行います。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 化学(材料化学・バイオマテリアル)、生命科学、メカノバイオロジー、幹細胞、学者・研究者、グループディスカッション | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|--|---|-----------------|--------|--------|
| 31417 | 金 4 | 世界の海底物理・地質情報から プレートテクトニクスを"視る" | 清水 久芳 | 地震研究所 | E35 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>今から約 100 年前、Alfred Wegener は、世界地図の上で大西洋を挟んだアフリカ・南アメリカ大陸両海岸線の類似した形を見て、大陸移動のアイデアを思いつきました。このアイデアは、当初、大陸を移動させる駆動力について明確な説明ができず、地球科学界では忘れ去られてしまいます。しかし、1950 年代以降、地球科学上の新しい証拠によって再評価され、プレートテクトニクス理論へと確立されました。その間にも、地形や地震・火山の分布の特徴や規則性から、地球のダイナミクスや歴史について様々な発見がされています。</p> <p>現在、私たちは、Wegener の時代とは比較にならない膨大な地球情報や、それを視たり手を加える便利なツールを手にしています。人工衛星や調査船による地形・3 次元地下構造探査、掘削による地下物質・状態の直接観察、海底ケーブルによる地震・地殻変動モニタリング、等により、地球の表面や内部が「どのようになっているか」は、ずいぶん詳しく分かってきました。一方で、「なぜそのようになっているか」については、多くの問題が残されています。例えば、海溝型地震・津波が超巨大になる要素は何か、地球磁場なぜ逆転するのか、生物大量絶滅はなぜ起きたのか、などの根源的な問題はまだ理解されていません。</p> <p>深海底は大半のプレート境界がある活動的な場所であり、また、新しいタイプの極小海底火山などの「発見」や、地殻とマントルの境界面がどこにあるのか、といった探索の要素が未だ残されています。残された秘境とっていいでしょう。</p> <p>本ゼミナールでは、最新のデジタル地球データを駆使して、皆さんにあまりなじみのない世界の海底の姿を観察し、その特徴が語る地球の歴史や未来の姿を描き出します。新しい規則性の発見や、斬新な仮説がこのゼミナールから生まれることを期待します。</p> <p>(目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「どのようになっているか」を知るため、情報を収集・分析するスキルを身につける。 ○「なぜそのようになっているか」という問題意識を持ち、解決に向けて取り組む姿勢を身につける。 ○グループで問題設定、情報共有、議論を行い、考えをまとめるグループワークを経験する。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、地球科学、デジタル地球データ、プレートテクトニクス、地球の進化 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| ガイダンス | <p>書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科</p> <p>著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編</p> <p>出版社 東京大学出版会</p> <p>第 1 回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。</p> | | | | |
| 31422 | 金 4 | 疾患克服を目指した医科学研究の実際 －疾患の分子病態から予防、診断、 治療法を考える－ | 井元 清哉 渡邊 すみ子 | 医科学研究所 | K302 |
| 授業の目標・概要 | <p>がん・アレルギー疾患・感染症・神経疾患をはじめとする難病を克服し、健康で長生きできる社会を実現するためには、疾病の原因となる分子や遺伝子を同定して、その異常と病態発症、進展におけるメカニズムを解明することが極めて重要です。そして、得られたデータを様々な手法で解析することにより新しい予防・診断・治療法の開発へと発展させて行く必要があります。これらの情報が、近年注目を集めている医療分野の人工知能 (AI) の開発にも繋がっていきます。私たちの医科学研究所では、モデル動物、患者サンプルなどを使った実験的基礎医学から、高度な数学的手法を用いたデータ解析、さらにモダリティと呼ぶ様々な薬や治療法のデザインまでカバーし、一体となって医科学研究を行なっています。</p> <p>本ゼミナールでは、がんを主な題材として、基本的な科学用語の検索から、病気の発症メカニズムを共同学習しながら能動的に学習して発表し、議論することで医科学研究の実験生物学からスーパーコンピュータを用いた情報解析、それが治療や創薬に繋がっていく実際を体験してもらいます。また、グループ学習を通して、疾病に対する診断、治療、予防法などを考えてプレゼンテーションも行う予定です。その過程で、実際に研究施設を見学し、研究の現場を体験する機会を設けるとともに、研究に必要な学術的スキル（問題発見、検索、グループワーク、考察、プレゼンテーションなど）を習得します。</p> <p>開催場所：通常は駒場キャンパスで実施 第 3 週、4 月 26 日（金）は休講とし、代わりに 5 月 11 日（土）に医科学研究所の施設見学（スパコン、バイオバンク、実験施設等）を行う。 （集合時間：10 時、集合場所：白金台キャンパス近代医科学記念館）</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決型、医学、ゲノム・精密医療、人工知能、創薬 | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第 1 回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31425 | 金 4 | コホート研究をしてみよう | 小林 廉毅 | 医学部 | E25 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>喫煙と種々の疾病の関係はすでに多くの人の知るところですが、それらの関係を明らかにしたのは、コホート研究などをはじめとする疫学の方法論です。疫学研究を計画するためには、疾病のメカニズム、調査におけるバイアス、統計学的手法、倫理的配慮などへの理解が必須です。この授業では、コホート研究を題材として、上記の事項を参加型授業とおして学習してもらおうことを目的とします。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 参加型授業、医学 / 社会医学、疫学、コホート研究、バイアス、研究倫理 | | | | |
| 教科書 | プリントを配布する。 | | | | |
| ガイダンス | 第 1 回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|-------------------|-------|-----|------|
| 31462 | 金 4 | 社会のためのロボティクス | 山下 淳 | 工学部 | K201 |
| 授業の目標・概要 | <p>(授業の概要) 医療・福祉・生産から極限環境調査や災害対応まで、さまざまな現場でロボット技術 (Robot Technology) が活用されています。</p> <p>本授業では、ロボットについて初めて学ぶ学生のために、世界の第一線で活躍中のロボット研究のトップランナーたちが、社会とロボットの関わり、社会のための最先端ロボット技術について解説します。また、文献調査、グループ討論、プレゼンテーション実習などを行い、社会のためのロボット技術に関する理解を深め、ロボットの役割について考えます。ロボット実習では、実際のロボット技術に触れ、最新のロボットについて学習します。更に、これらの体験を通じて学習した内容に関してプレゼンテーションやグループ討論を行い、科学技術に関するコミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>ロボティクスは、精密工学、情報科学、機構学、運動学、制御工学、計測工学、人工知能などの幅広い内容を含む総合的な学問です。</p> <p>授業を通じてロボットに関する基礎知識を身に付け、ロボット研究の奥深さや面白さを感じとって下さい。また、社会とロボットの関わりについて、考えてみて下さい。</p> <p>本授業はきっかけを与える入口です。自分から積極的に情報収集をすることにより、ロボットに対する理解と興味が更に深まることでしょう。</p> <p>(授業の目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会のためのロボット技術に関する理解を深め、最先端ロボット技術に関する知識を身につけます。 ・ロボット実習の結果を解析し、そこから導かれる結論を論理的かつ客観的に考察する力を身につけます。 ・自分の考えを他人に分かりやすく伝える科学技術プレゼンテーション能力と、他人とディスカッションを行うコミュニケーション能力の基礎を身につけます。 | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 問題発見・解決・実験データ解析型、工学・情報科学/ロボティクス、ロボット技術、ロボットと社会・人間、ロボットと医療・福祉、ロボットとサービス | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 | | | | |
| | 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 | | | | |
| | 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31463 | 金 4 | 数学・物理をプログラミングで考える | 山崎 俊彦 | 工学部 | K401 |
| 授業の目標・概要 | <p>昨年までの講義の様子は以下の URL を参照 http://www.eidos.ic.i.u-tokyo.ac.jp/~tau/lecture/programming_math_physics/ コンピュータ (プログラミング) を使って、数学や物理の問題、実世界の問題を数学や物理の言葉で定式化した問題を解く方法を学びます。そうすることを通してプログラミング、数学、物理を学ぶとともに、それらの分野に対する勉強の動機・意欲が高まることを期待します。</p> <p>実際の問題をいくつか、例・テンプレートとして提示し、グループに別れて解法や、問題の発展形や一般化などについて議論します。それと並行して、プログラミングの基本について、演習します。最後に、お互いが解いた問題について発表しあう、発表会を行います。途中でも、グループの間でのアイデア交換や進捗状況の共有のため、適宜ミニ発表会を行います。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | プログラミング、Python、微分方程式、シミュレーション | | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行く。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 講義題目 | 担当教員 | 所属 | 教室 |
|------------|---|----------------|-------|-----|--------|
| 31464 | 金 4 | 電子回路で学ぶモデリング手法 | 三田 吉郎 | 工学部 | E38 教室 |
| 授業の目標・概要 | <p>本ゼミでは、凡そ理科を志す者にとって必須のスキルとなる「未知の現象を正確に観察、定量化し、モデルを立てて振舞いを理解する」作業を、具体的な電子回路を例にとってわかりやすく学習し、身に付けることを目的とする。本講義では昨年に引き続き、学生の理解の進捗を注意深く観察し、講義・演習の長短を含め柔軟に対応する。</p> <p>学習する回路の例:</p> <p>(0)実験設備製作体験</p> <p>(1)線型な回路、非線形な回路(スケールの議論)</p> <p>(2)振動する現象 I(定常状態)</p> <p>(3)振動する現象 II(過渡的応答)</p> <p>(4)能動素子の考え方</p> <p>(5)増幅回路</p> <p>(6)発振回路</p> <p>(7)変調復調回路(AM 送受信機)</p> <p>(8)その他の素子(MEMS 等)</p> <p>身に付けられるスキルの例:</p> <p>(あ)現象を数式で表現して理解する手法</p> <p>(い)スケール(ログ、リニア)を変えた特性の評価</p> <p>(う)周波数領域での事象の理解</p> <p>(え)時間領域での事象の理解と周波数との関連性</p> <p>(お)線形化による見通しのよい特性理解</p> <p>(か)電気系で使用する様々な器具に触れる(オシロスコープなど)</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 講義と演習、工学/実験による現象理解、電子回路、線形回路、非線形回路、線形化 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 | | | | |
| | 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 | | | | |
| | 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |
| 31488 | 金 4 | 見えない微生物の大きな役割 | 勝山 陽平 | 農学部 | K303 |
| 授業の目標・概要 | <p>微生物は自然環境中のあらゆる場所に存在し、人間に多大な影響を与えて来た。しかし、その小ささから近代まで生物として認識されて来なかった。にもかかわらず、人類らはこれらの生物を「発見」する前から、それらの能力を利用して来た。発酵食品の製造はその代表的な例である。一方で、微生物は腐敗や感染症を引き越す問題児でもある。近代に微生物学が確立されたことによって微生物の利用法は拡大した。現代では微生物の存在は欠かせないものになり、医薬品、産業用酵素、発酵食品の製造、排水浄化など様々な場面で利用されている。また、微生物は優れたモデル生物でもあり、分子生物学の発展に欠くことのできない存在である。本ゼミナールではグループワークを通して微生物に関する基礎的な知識を身につけるとともに、微生物を取り巻く近年の状況や利用法に関して学ぶ。同時に文献を検索、プレゼンテーションのトレーニングを行う。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 | | | | |
| 授業のキーワード | 論文読解・演習型、微生物学、微生物、発酵、環境浄化、病原菌 | | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 | | | | |
| | 書名 科学の技法：アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 | | | | |
| | 著者（訳者） 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 | | | | |
| | 出版社 東京大学出版会 | | | | |
| ガイダンス | 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 | | | | |

基礎科目 社会科学

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|----|---|------|------|-----|---------|------------------|
| 30586 | S | 法 I | 西村 弓 | 法・政治 | 火 5 | 1331 教室 | 1 年 文二 2 年 文二 |
| 講義題目 授業の目標概要 | | 法学入門—国際的視点から この授業では法学を学んでいくにあたっての基礎的な思考方法を修得することを目指します。条文・判決文・学説等の法学的テキストを厳密に読み、解釈する力を養うことがその目標の1つとなります。 具体的な素材は授業中に示しますが、現代においては国内社会と国際社会が相互に大きく影響しあっていることから、法規律の国際的側面を中心に引き上げ、さまざまに生じている具体的な事案に即して検討を進める予定です。 | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | | 定期試験 教科書は使用しない。 特に行わない。 | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|----|--|--------|------|-----|--------|------------------|
| 30621 | S | 法 I | 早川 眞一郎 | 法・政治 | 水 1 | 900 教室 | 1 年 文一 2 年 文一 |
| 講義題目 授業の目標概要 | | 法 I (文科 I 類) ★この講義を受講できるのは、文科 I 類の学生のみであるので注意すること★ 法に関する基礎知識と法学の思考方法を学ぶ。 司法(裁判) 制度及び法体系全般についてその概要を説明した後、主として私法とくに民法(契約、家族、事故などをめぐり、一般市民の間の関係を規律する基本法)を素材として、法と法学に関する入門的な講義を行う。それを通じて、われわれの社会にとって法がどのような役割を果たしているか、学問としての法学にはどのような意味と面白さがあるかを考えてみたい。 授業には、最新版の六法(ポケット六法サイズでよい。有斐閣または三省堂の出版したものが望ましい)を必ず持参すること。 授業に使用する資料は、授業開始後に、ITC - LMS で入手できるようにする予定であるので、教室での指示に従い、各自がダウンロードして教室で読める形で持参すること。 | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | | 平常点+筆記試験 教科書は使用しない。 特に行わない。 | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|-----------------|----|--|-------|------|-----|---------|------------------|
| 30622 | S | 法 I | 弥永 真生 | 法・政治 | 水 1 | 1331 教室 | 1 年 文三 2 年 文三 |
| 講義題目 授業の目標概要 | | 社会における法の役割 主として社会・ビジネスにおいて、法がどのような役割を果たしているのかについて、ニュース記事などを題材にして、解説を加える。そのプロセスにおいて、法律学〔主として、私人間の関係を規律する私法〕の基本的知識を併せて理解していただくことを目的とする。 | | | | | |
| 評価方法 | | グループ・レポート(1 グループ 5 人以内。ただし、1 人で提出することも認める)40 点、定期試験 60 点の割合で評価する。ただし、授業中に発言を求めた際の的確な発言に対しては、当該学生に与えられたグループ・レポートの評価に、合計の得点が 40 点を超えない範囲で、加点を行う。 | | | | | |
| 教科書 ガイダンス | | 授業中に指示をする。 特に行わない。 | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|----|--|--------|------|-----|---------|------------------------|
| 30172 | S | 政治 I | 鹿毛 利枝子 | 法・政治 | 月 3 | 1313 教室 | 1 年 文二 文三 2 年 文二 文三 |
| 講義題目 授業の目標概要 | | 比較政治学入門 政治学の基本的な概念や考え方を紹介する。詳細は初回の授業時に説明する。 | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | | 定期試験。 教科書は使用しない。 第一回授業日に行う。 | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|---|---|-------|-------|------|-----|--------|------------------|
| 30173 | S | 政治 I | 上神 貴佳 | 法・政治 | 月 3 | 743 教室 | 1 年 文一 2 年 文一 |
| 講義題目 授業の目標概要 評価方法 教科書 ガイダンス | <p>政治学の基礎概念 本講義は政治学における基礎的な概念を紹介し、受講生が政治現象を理解するための一助となることを目標とする。とくに、現代の政治を構成する中心的な原理としてのデモクラシーについて考察する。</p> <p>定期試験で評価する。 次の教科書を使用する。 書名 現代政治理論 [新版] 著者(訳者) 川崎修・杉田敦編 出版社 有斐閣アルマ ISBN 978-4-641-12454-7 第一回授業日に行う。</p> | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|---|--|-------|--------|-------|-----|---------|------------------|
| 30174 | S | 経済 I | 松原 隆一郎 | 経済・統計 | 月 3 | 1106 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 評価方法 教科書 ガイダンス | <p>経済学概説 経済学が背景とする論理を明示しつつ、その限界を理解する。 論述形式の定期試験による。 教科書は使用しない。 特に行わない。</p> | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|---|---|-------|------|-------|-----|---------|------------------|
| 30587 | S | 経済 I | 中西 徹 | 経済・統計 | 火 5 | 1313 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 評価方法 教科書 ガイダンス | <p>経済 I：発展途上国における経済と社会 発展途上国の社会経済を対象として経済学の分析が有する意義と限界について検討します。 開発政策の原理とその歴史、および貧困層の経済行動を検討することによって、発展途上国の社会変動についての理解を深めると同時に、これを補完ないしは代替する地域研究の役割について理解することを目標とします。 原則として定期試験(レポート課題を課す場合にはレポートを含める)による。 講義初回に説明する。 教科書は使用しない。 第一回授業日に行う。</p> | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|---|---|-------|-------|----------|-----|--------|------------------|
| 30588 | S | 社会 I | 橋本 摂子 | 社会・社会思想史 | 火 5 | 743 教室 | 1 年 文三 2 年 文三 |
| 講義題目 授業の目標概要 評価方法 教科書 ガイダンス | <p>近代社会と官僚制 この講義では「社会とは何か」という社会学における根源的な問いから、官僚制をキータームにわれわれの生きる近代社会特有の諸問題を把握する。特に官僚制の極限事象とみなされる全体主義とホロコースト、その後のアイヒマン裁判および裁判をめぐる論争を学び、現代に通底する問題構成を理解する。 定期試験(もしくはレポート)を中心としておこなう。 教科書は使用しない。 特に行わない。</p> | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|---|--|-------|------|----------|-----|---------|------------------------|
| 30623 | S | 社会 I | 小山 裕 | 社会・社会思想史 | 水 1 | 1313 教室 | 1 年 文一 文二 2 年 文一 文二 |
| 講義題目 授業の目標概要 評価方法 教科書 ガイダンス | 社会学入門 現代社会の諸問題を念頭におきつつ、社会学の基礎概念と基礎理論を学習する。 定期試験を中心におこなう。 教科書は使用しない。 第一回授業日に行う。 | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|---|---|-------|------|----|-----|--------|------------------|
| 30589 | S | 数学 I | 志甫 淳 | 数学 | 火 5 | 761 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 評価方法 教科書 ガイダンス | 数学 I 文科学向けに一変数関数の微分法と積分法に関する基礎的内容を扱う科目である。社会科学に関連する題材を織り交ぜ、数学的な概念を把握することに重点をおいて講義する。講義内容はおおむね授業計画に記載されている通りであるが、担当教員によって順序は異なることがある。 主として定期試験によるが、担当教員によっては小テストやレポートを含めて評価する場合がある。 授業中に指示をする。 特に行わない。 | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|---|---|-------|-------|----|-----|--------|------------------|
| 30624 | S | 数学 I | 北山 貴裕 | 数学 | 水 1 | 761 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 評価方法 教科書 ガイダンス | 数学 I 文科学向けに一変数関数の微分法と積分法に関する基礎的内容を扱う科目である。社会科学に関連する題材を織り交ぜ、数学的な概念を把握することに重点をおいて講義する。講義内容はおおむね授業計画に記載されている通りであるが、担当教員によって順序は異なることがある。 主として定期試験によるが、担当教員によっては小テストやレポートを含めて評価する場合がある。 授業中に指示をする。 特に行わない。 | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|---|---|-------|------|----|-----|--------|------------------|
| 30625 | S | 数学 I | 林 修平 | 数学 | 水 1 | 743 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 評価方法 教科書 ガイダンス | 数学 I 文科学向けに一変数関数の微分法と積分法に関する基礎的内容を扱う科目である。社会科学に関連する題材を織り交ぜ、数学的な概念を把握することに重点をおいて講義する。講義内容はおおむね授業計画に記載されている通りであるが、担当教員によって順序は異なることがある。 主として定期試験によるが、担当教員によっては小テストやレポートを含めて評価する場合がある。 次の教科書を使用する。 書名 入門微分積分 著者(訳者) 三宅敏恒 出版社 培風館 ISBN ISBN-10: 4563002216 ISBN-13: 978-4563002213 特に行わない。 | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|---|---|-------|-------|----|-----|--------|------------------|
| 30590 | S | 数学Ⅱ | 古田 幹雄 | 数学 | 火 5 | 531 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 評価方法 教科書 ガイダンス | <p>数学Ⅱ 文科生向けの、ベクトルと行列に関する基礎的な内容や、計算手法を理解するための科目である。講義内容はおおむね授業計画に記載されている通りであるが、担当教員によって順序は異なることがある。この科目を履修した後に、より進んだ内容を総合科目「数理科学概論Ⅱ」で学ぶことができる。 主として定期試験によるが、担当教員によっては小テストやレポートを含めて評価する場合がある。 授業中に指示をする。 特に行わない。</p> | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|---|---|-------|-------|----|-----|--------|------------------|
| 30626 | S | 数学Ⅱ | 白石 潤一 | 数学 | 水 1 | 525 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 評価方法 教科書 ガイダンス | <p>数学Ⅱ 文科生向けの、ベクトルと行列に関する基礎的な内容や、計算手法を理解するための科目である。講義内容はおおむね授業計画に記載されている通りであるが、担当教員によって順序は異なることがある。この科目を履修した後に、より進んだ内容を総合科目「数理科学概論Ⅱ」で学ぶことができる。 主として定期試験によるが、担当教員によっては小テストやレポートを含めて評価する場合がある。 授業中に指示をする。 特に行わない。</p> | | | | | | |

基礎科目 人文科学

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|--|-------|-------|--------|-----|---------|------------------|
| 30175 | S | 哲学 I | 古荘 真敬 | 哲学・科学史 | 月 3 | 1331 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | <p>哲学の根本的問い わたしたちの誰もが一度は向き合ざるをえないであろう「哲学の根本的問い」の幾つかについての考察を展開していきながら、関連する哲学史上の古典的テキストを紹介し、受講生の皆さんの今後の哲学的思索の厚みが増すようにお手伝いしたい。</p> <p>考察の出発点は、わたしたちの日常生活である。まずは、各々の「わたし」が、生活の現場において遭遇するさまざまな問題に対処しながら生きる日常の基本構造を振り返ってみよう。そのうえで、「知の根拠」「行為と自由」「人格と倫理」「真理と価値」「生の意味」といった事柄をめぐる哲学の基本的な問いを、具体的に展開していきたい。</p> <p>実のところ、「哲学」とは、何ら特別なものではない。わたしたちは、さまざまな問題に忙しく対処しながら生きる日常のなか、ふと立ち止まり、「いったい自分たちは何をやっているのだろうか？ こうしたことはいったい何を意味しているのだろうか？」と問い直さざるをえなくなることもあるのではないかと。わたしたちは、走ってばかりはいられない。走るにしても、走ることを意味を問わざるをえない。その問いとともに始まるのが、急ぎ足で前進することとは異なる「哲学」の時間なのである。この営みには、人間の歴史と同じくらい古い歴史がある。人間は、人間であるかぎり哲学する。</p> <p>さあ、君も立ち止まって考えよう。</p> | | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>プリントを配布する。</p> <p>第一回授業日に行う。</p> | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|---|-------|-------|--------|-----|------|------------------|
| 30627 | S | 哲学 I | 鈴木 貴之 | 哲学・科学史 | 水 1 | K214 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | <p>哲学の根本問題から哲学とは何かを考える 哲学の根本問題の多くは、古代ギリシア時代から論じ続けられているものです。そして、哲学という学問には、その時代から大きな進歩がないようにも見えます。このことは、哲学の問いは無意味な問いであることや、それらは別の方法で探究した方がよいことを示唆しているのでしょうか。そうではないかもしれません。哲学の根本問題は、われわれが当然成り立つと考えている一連の事柄がじつは両立不可能だということや、一見説明できてあたりまえの事柄にじつはきちんとした説明を与えることができないことを明らかにするものだからです。哲学の根本問題は、われわれの常識的なものの見方には根本的な問題があることを示しているのかもしれないのです。</p> <p>この授業では、哲学の根本問題のいくつかを題材として、哲学とはどのような学問なのか、哲学の問題は他の学問が扱う問題とどのように異なるのか、哲学の問題に正解はあるのか、といったことについて考えていきます。</p> <p>学期末の筆記試験（70%）と小レポート（30%）の内容によって評価します。</p> <p>教科書は使用しない。</p> <p>第一回授業日に行う。</p> | | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>プリントを配布する。</p> <p>第一回授業日に行う。</p> | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|--|-------|-------|--------|-----|------|------------------|
| 30591 | S | 倫理 I | 阿部 善彦 | 哲学・科学史 | 火 5 | K212 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | <p>人間探求 自己探求としての倫理 今日に至るまで伝えられた「古典」と呼ばれるテキストを手がかりに、倫理に関する基本的なテーマを探求する。それは人間探求、自己探求としての意味を持つ。その探求の手がかりとして、主に、哲学、そして、キリスト教（中世キリスト教思想）に関するものを取り上げる予定である。そこから、探求すること、考えを深めることを学んでゆくことが求められる。</p> | | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | <p>定期試験のほか、教員の指示する講義ノートや小レポートなどの提出物、授業内での活動による。</p> <p>授業中に指示をする。</p> <p>第一回授業日に行う。</p> | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|----|--|-------|-----|-----|--------|------------------|
| 30176 | S | 歴史 I | 岡田 泰平 | 歴史学 | 月 3 | 533 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | | <p>近代植民地主義を考える——東南アジアにおける植民地支配と国民国家</p> <p>本授業では、東南アジアの近代植民地を中心として、テーマ別に近代植民地とはどのような政治・社会体制だったのかを学びます。おおむね東南アジアは 19 世紀末に西洋の近代植民地になり、1940 年代に独立を果たし、それぞれの国民国家が出来上がります。本授業では、この 20 世紀前半期を中心に扱います。</p> <p>ただし、この近代植民地主義は、植民地化以前の反乱やナショナリズムの問題、そして植民地支配から政治的・文化的・社会的に解放されることとは何か、という脱植民地化の問題と深く絡まりあっています。ついては、植民地化以前と以後も視野に取って授業を行います。</p> <p>この授業では、①東南アジア地域への理解を深めること、②20 世紀史の流れを理解すること、③近代史が 21 世紀の現在にどのようにつながっているのかを考えることを、当面の目的とします。</p> <p>なるべく幅広く異なった事例に言及していくことを希望しますが、私の能力の限界もあり、アメリカ合衆国とフィリピンについて多く言及することになると思います。</p> | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | | <p>ミニ・エッセーの合計点+期末課題</p> <p>教科書は使用しない。</p> <p>第一回授業日に行う。</p> | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|----|---|---------|-----|-----|---------|------------------|
| 30177 | S | 歴史 I | 長谷川 まゆ帆 | 歴史学 | 月 3 | 1101 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | | <p>近世フランスの社会とその変化</p> <p>この授業では、近世期フランスの社会と文化の特質を広く多面的に概観する。対象としては、地理、言語、宗教や土地制度、司法行政システム、軍隊や教育、家族や子育て、人口と移民、医療や出版、食糧など多岐にわたるが、これらをこの時期に確立されていく統治システムと関連させながら講義していく。それによって、この数百年の社会形成の実際を学ぶとともに、人と人との関わりや感じ考える仕方が、この時代にどのように脱構築され、再構築されていったかを考える。</p> | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | | <p>筆記試験</p> <p>授業中に指示をする。</p> <p>第一回授業日に行う。</p> | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|----|---|------|-----|-----|------|------------------|
| 30592 | S | 歴史 I | 田中 創 | 歴史学 | 火 5 | K011 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | | <p>ローマ帝国とローマ法の歴史</p> <p>共和政から帝政へと変容し、さまざまな問題に直面した古代ローマ帝国がどのような法制度を発達させて、現実社会に適用したのかを通覧する。その中で、現代社会にまで影響を及ぼしたローマ法が発達した歴史的・文化的背景についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>授業では古代ローマの歴史を講義形式で概観する一方で、いくつかの史料翻訳を具体的に取り上げながら、それぞれの時期の国制や統治領域の変化に応じて発達した法制度の諸相を考えていきたい。</p> <p>本講義は、法律上の概念や政治思想を論じるものではなく、主として所与の史料がどのように我々のもとに残されたかを考察することで、史料の扱い方に関する基本的姿勢を身につけることを目的とする。</p> | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | | <p>定期試験で評価する。</p> <p>プリントを配布する。</p> <p>第一回授業日に行う。</p> | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|----|---|-------|-----|-----|------|------------------|
| 30628 | S | 歴史 II | 渡辺 美季 | 歴史学 | 水 1 | K212 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | | <p>異文化交流から見た琉球・沖縄の歴史</p> <p>琉球は、12 世紀前後に王国形成を開始し、その後「沖縄県」として日本に組み込まれる 1879 年まで、東アジアの一王国として存続し、独自の文化的特徴を発展させた。本講義では、周辺諸国との交流の中で、琉球王国がいかにしてその文化的固有性を育んだのか、また沖縄県となった後、日本やアメリカとの関わりの中で、その文化がどのように継承され変容したのかを、時間軸に沿って講義する。近代とは異なる国家や国際関係のあり方への理解を深めることで、現在の諸地域や国家を相対化する視点を養い、変容しながらも近代以降に継承される文化を扱うことで、長いタイム・スパンで事象を捉える姿勢を身に付けることを目指したい。</p> | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | | <p>学期末のレポートを主とし、授業中の課題などを加味して総合的に判断する。</p> <p>プリントを配布する。</p> <p>第一回授業日に行う。</p> | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|----|--|-------|----|-----|--------|------------------|
| 30629 | S | ことばと文学 I | 遠藤 智子 | 英語 | 水 1 | 109 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | | 言語使用と体系の創発 この講義では、言葉についての学問である言語学が扱う諸現象を概観し、その基本的な全体像を理解することを目指すとともに、現在起きている言語現象についての分析を紹介し、言語は使用の中で変わり続けるものであり、また様々な意味で多様性を持つものですが、そのような言語を体系として扱うことはどのようにすれば可能なのか考えていきます。言葉の研究に興味のある人の受講を歓迎します。 | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | | ミニレポートと定期試験による プリントを配布する。 第一回授業日に行う。 | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|----|---|-------|-------------|-----|--------|------------------|
| 31741 | S | ことばと文学 I | 渡邊 淳也 | フランス語・イタリア語 | 水 1 | 159 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | | 「言語と論証 (argumentation)」 フランスの統合的語用論者オズヴァルド・デュクロが提唱した「言語内論証理論」を中心とし、関連する諸理論を概観するとともに、事例研究を紹介する。 | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | | 試験 教科書は使用しない。 特に行わない。 | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|----|---|------|--------|-----|--------|------------------|
| 30593 | S | ことばと文学 II | 田村 隆 | 国文・漢文学 | 火 5 | 109 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | | 『源氏物語』若菜巻の世界 上下二巻に分かれる若菜巻は『源氏物語』54帖の中でも最大の分量を有する。また、内容面でも前巻の藤裏葉で准太上天皇という栄華に上りつめた光源氏の舞台がこの若菜巻で暗転するという、きわめて重要な巻であり、著名な桐壺巻や若紫巻などを高校の教科書で学んできた皆さんにはその先の物語を是非味読してほしい。 本講義では 2017 年の 7 月から半世紀ぶりの改版が始まった岩波文庫をテキストに使い、若菜巻を一語一語にこだわりながら共に精読してゆく。併せて、『源氏物語』全体についても理解が及ぶよう努める。 | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | | 論述試験 (持込不可)。 次の教科書を使用する。 書名 源氏物語 (五) 梅枝—若菜下 著者 (訳者) 藤井貞和ほか 出版社 岩波文庫 その他 2019 年 3 月刊行予定。 第一回授業日に行う。 | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|----|---|-------|--------|-----|--------|------------------|
| 30178 | S | ことばと文学 III | 村上 克尚 | 国文・漢文学 | 月 3 | 109 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | | 日本近代文学における「ことばと文学」 この授業では、近代の日本語文学を事例として、作家たちが、いまだ表象されたことのない現実を表象するために、「ことば」をどのように作り変えてきたのかについて考えます。この作業を通じて、ある表現の内容と形式の相関関係の重要性を学ぶとともに、文学以外のジャンルの作品にも応用できる分析方法を習得することを目標とします。 | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | | 授業参加 30%、期末レポート 70% で評価します。 次の教科書を使用する。 書名 浮雲 著者 (訳者) 二葉亭四迷 出版社 岩波文庫 ISBN 978-4003100714 その他 760 円 (本体価格) 第一回授業日に行う。 | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|---|-------|-------|--------|-----|---------|------------------|
| 30179 | S | 心理 I | 四本 裕子 | 心理・教育学 | 月 3 | 1323 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | 心理学概論 ヒトや動物の心や行動を対象とする心理学は、その科学的測定の特異さゆえ、誤った理解や理論が社会に広がることも多い。心理学は、人間の心と行動の理解を目指す歴史ある学問であるが、心理学における研究手法は、科学技術の発達とともに常に変容しつづけている。本講義では、これまでの心理学実験の例やそこから導きだされた理論を学ぶことにより、心理学の基礎を学術的に理解することを目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | 持ち込み禁止の定期試験。 教科書は使用しない。 第一回授業日に行う。 | | | | | | |

| 時間割 コード | 開講 | 授業科目名 | 担当教員 | 所属 | 曜限 | 教室 | 対象 |
|----------------------|--|-------|--------|--------|-----|---------|------------------|
| 30594 | S | 心理 I | 田谷 修一郎 | 心理・教育学 | 火 5 | 1323 教室 | 1 年 文科 2 年 文科 |
| 講義題目 授業の目標概要 | 心理学概論 誰しも「心とはこういうものだ」という素朴な信念を持っているだろう。しかしそうした内省が、我々のものの見方の持つバイアス（歪み）の影響を逃れることは難しい。心理学とは科学的な手続きによってこのバイアスを回避し「心」の仕組みについて普遍性のある説明を与えることを目指す学問である。本講義ではまず「心理学の成り立ち」について触れ「心」を測定することの難しさと、その困難を先人たちがどのように乗り越えようとしてきたかを学ぶ。その上で、過去の研究から導かれる「人の心の基本的な仕組み及び働き」についてデモンストレーションや模擬実験を交えながら解説していく。単に現象や理論について知るだけでなく、研究の手続きについても学ぶことで、心理学の可能性と現時点における限界の双方について考えることのできる講義を目指す。 | | | | | | |
| 評価方法 教科書 ガイダンス | 試験を中心に評価する。コメントシートの内容など、授業への積極的貢献を評価する可能性がある。 教科書は使用しない。 特に行わない。 | | | | | | |

基礎実験Ⅲ・基礎実験Ⅳ

| 基礎実験Ⅲ・基礎実験Ⅳ | | 開講区分 | S |
|-------------------------|---|------|---|
| 授業の目標・概要 | 自然科学の学習に不可欠な基本的な知識・技能を習得する。 1) 将来の自然科学の発展に対応できるように、自然科学諸分野の基礎的な実験方法と概念を理解できるようにする。 2) 基礎講義の内容を、基礎実験によってよりよく理解できるようにする。 3) 未知の自然現象の解明を目的とする科学実験に必要な観察力・姿勢を養い、自ら実験を計画する場合に不可欠な基本的技法を習得できるようにする。 | | |
| 授業の方法 | 自然科学の学習に不可欠な基本的な知識・技能を習得する。 1) 将来の自然科学の発展に対応できるように、自然科学諸分野の基礎的な実験方法と概念を理解できるようにする。 2) 基礎講義の内容を、基礎実験によってよりよく理解できるようにする。 3) 未知の自然現象の解明を目的とする科学実験に必要な観察力・姿勢を養い、自ら実験を計画する場合に不可欠な基本的技法を習得できるようにする。 | | |
| 成績評価方法 | ◆基礎実験（物理学）では出席、試問、及び実験ノート（実験最終日に提出）で成績を評価する。 ◆基礎実験（化学）では出席、予習、実験ノート、試問、片付け、及び実験報告書（提出期限は次回実験日の午後1時）で成績を評価する。 | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 基礎実験（物理学）の教科書は学術図書出版社の『基礎物理学実験』、基礎実験（化学）の教科書は東京化学同人の『基礎化学実験』である。 その他 教科書は駒場生協で入手可能である。 | | |
| 履修上の注意 | ◆第1回授業日に行うガイダンスには必ず出席すること。 ◆過去ノートの持ち込みはカンニングとみなす。 ◆実験中は携帯電話の電源を切っておくこと。実験中の携帯電話の使用はカンニング行為とみなされる場合がある。 ◆実験室及び実験室のある建物内は禁煙である。また、実験室は飲食厳禁である。 【基礎実験Ⅳの履修】 ◆S2に開講される基礎実験Ⅳは、履修者数の状況によっては開講曜日の変更が行われる。その際には再度希望日の選択が可能である。 ◆履修登録方法などの詳細は、基礎実験Ⅲの初回に実施されるガイダンスで周知する。 | | |
| ※講義の詳細については、UTASを参照すること | | | |

| 時間割コード | 開講 | 曜限 | 科目名 | 対象クラス |
|--------|-----|----------|------------|-----------------------------|
| 30117 | S 1 | 月 3, 月 4 | 基礎実験Ⅲ(物理学) | 2年 理一(1-3,5,7-9,12-14) |
| 30464 | S 1 | 火 3, 火 4 | 基礎実験Ⅲ(物理学) | 2年 理一(20-25) |
| 30769 | S 1 | 水 3, 水 4 | 基礎実験Ⅲ(物理学) | 2年 理一(4,6,29,31,33-35,38) |
| 31007 | S 1 | 木 3, 木 4 | 基礎実験Ⅲ(物理学) | 2年 理一(10-11,15-19) |
| 31195 | S 1 | 金 3, 金 4 | 基礎実験Ⅲ(物理学) | 2年 理一(26-28,30,32,36-37,39) |
| 40014 | S 2 | 月 3, 月 4 | 基礎実験Ⅳ(物理学) | 2年 理一 |
| 40067 | S 2 | 火 3, 火 4 | 基礎実験Ⅳ(物理学) | 2年 理一 |
| 40206 | S 2 | 水 3, 水 4 | 基礎実験Ⅳ(物理学) | 2年 理一 |
| 40217 | S 2 | 木 3, 木 4 | 基礎実験Ⅳ(物理学) | 2年 理一 |
| 40232 | S 2 | 金 3, 金 4 | 基礎実験Ⅳ(物理学) | 2年 理一 |
| 30118 | S 1 | 月 3, 月 4 | 基礎実験Ⅲ(化学) | 2年 理一(1-3,5,7-9,12-14) |
| 30465 | S 1 | 火 3, 火 4 | 基礎実験Ⅲ(化学) | 2年 理一(20-25) |
| 30770 | S 1 | 水 3, 水 4 | 基礎実験Ⅲ(化学) | 2年 理一(4,6,29,31,33-35,38) |
| 31008 | S 1 | 木 3, 木 4 | 基礎実験Ⅲ(化学) | 2年 理一(10-11,15-19) |
| 31196 | S 1 | 金 3, 金 4 | 基礎実験Ⅲ(化学) | 2年 理一(26-28,30,32,36-37,39) |
| 40015 | S 2 | 月 3, 月 4 | 基礎実験Ⅳ(化学) | 2年 理一 |
| 40068 | S 2 | 火 3, 火 4 | 基礎実験Ⅳ(化学) | 2年 理一 |
| 40207 | S 2 | 水 3, 水 4 | 基礎実験Ⅳ(化学) | 2年 理一 |
| 40218 | S 2 | 木 3, 木 4 | 基礎実験Ⅳ(化学) | 2年 理一 |
| 40233 | S 2 | 金 3, 金 4 | 基礎実験Ⅳ(化学) | 2年 理一 |

基礎生命科学実験・生命科学実験

| 基礎生命科学実験・生命科学実験 | | 開講区分 | S | |
|-------------------------|--|--------|----------|----------------------|
| 授業の目標・概要 | <p>自然科学の学習に不可欠な基本的な知識・技能を習得する。</p> <p>1) 将来の自然科学の発展に対応できるように、自然科学諸分野の基礎的な実験方法の原理を理解できるようにする。</p> <p>2) 基礎講義の内容を、実験によってよりよく理解できるようにする。</p> <p>3) 未知の自然現象の解明を目的とする科学実験に必要な観察力・姿勢を養い、みずから実験を計画する場合に不可欠な基本的技法を習得できるようにする。</p> | | | |
| 授業の方法 | <p>自然科学の学習に不可欠な基本的な知識・技能を習得する。</p> <p>1) 将来の自然科学の発展に対応できるように、自然科学諸分野の基礎的な実験方法の原理を理解できるようにする。</p> <p>2) 基礎講義の内容を、実験によってよりよく理解できるようにする。</p> <p>3) 未知の自然現象の解明を目的とする科学実験に必要な観察力・姿勢を養い、みずから実験を計画する場合に不可欠な基本的技法を習得できるようにする。</p> | | | |
| 成績評価方法 | 成績は、出席、レポート、後片付けその他で評価する。 | | | |
| 教科書 | <p>次の教科書を使用する。</p> <p>書名 基礎生命科学実験 第2版</p> <p>出版社 東京大学出版会</p> <p>ISBN 978-4-13-062218-9</p> | | | |
| 履修上の注意 | <p>・ S1「基礎生命科学実験」の履修を希望する文科生は初回授業（4月5～11日）の希望曜日に必ず出席して受講希望の旨を教職員に申し出、履修希望カードを提出すること。これに加え、受講に際しては教務課に履修認定カードを提出する必要がある。下記HP参照のこと。</p> <p>・ S2「生命科学実験」履修希望者は火、水、木から希望する受講曜日を選択すること。また、2回目の訂正期間（6月13日～18日）に履修を変更する者は、6月5日のS2ターム開始前までに教職員に必ず連絡すること。</p> | | | |
| 関連ホームページ | <p>ガイダンスでは、「実験補遺」のPDF（http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cbioexp/hoi.pdf）を印刷して持参すること。教科書添付のDVDをみてくること。</p> | | | |
| ※講義の詳細については、UTASを参照すること | | | | |
| 時間割コード | 開講 | 曜限 | 科目名 | 対象クラス |
| 30166 | S1 | 月3, 月4 | 基礎生命科学実験 | 2年 理二三(1-4,6-8) |
| 30471 | S1 | 火3, 火4 | 基礎生命科学実験 | 2年 理二三(11,13,15,17) |
| 30780 | S1 | 水3, 水4 | 基礎生命科学実験 | 2年 理二三(14,21,23-24) |
| 31010 | S1 | 木3, 木4 | 基礎生命科学実験 | 2年 理二三(5,9-10,20,22) |
| 31208 | S1 | 金3, 金4 | 基礎生命科学実験 | 2年 理二三(12,16,18-19) |
| 40069 | S2 | 火3, 火4 | 生命科学実験 | 2年 理科 |
| 40208 | S2 | 水3, 水4 | 生命科学実験 | 2年 理科 |
| 40219 | S2 | 木3, 木4 | 生命科学実験 | 2年 理科 |

数理科学基礎

| 数理科学基礎 | | 開講区分 | S 1 | |
|---------------------------------|---|-------------------|--------|-----------------|
| 授業の目標・概要 | 科学・技術の礎となる数理科学の基礎的内容を学び、高等学校で学んだ数学から大学で学ぶ数学への橋渡しとする。講義は微分積分と線型代数の二つのテーマからなり、それぞれ通しの授業として開講される。本科目の講義内容はS2タームから始まる「微分積分学」「線型代数学」に接続する。 | | | |
| 成績評価方法 | 主としてS1ターム末に行われる定期試験によるが、担当教員によっては小テストやレポートを含めて評価する場がある。 | | | |
| 教科書 | 授業中に指示をする。 | | | |
| 関連ホームページ | http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/web/sugaku/ms_s1.html | | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | | |
| 時間割 コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 30001 | 月2,水1 | 田中 公、岡崎 龍太郎 | 721 教室 | 1年 理二三(1-7) |
| 30002 | 月2,水1 | 阿部 紀行、植野 義明 | 523 教室 | 1年 理二三(8-10) |
| 30003 | 月2,水1 | 緒方 芳子、小林 正典 | 524 教室 | 1年 理二三(11-13) |
| 30004 | 月2,水1 | 木田 良才、村上 順 | 724 教室 | 1年 理二三(14-17) |
| 30005 | 月2,水1 | 高木 俊輔、山浦 義彦 | 741 教室 | 1年 理二三(18-20) |
| 30006 | 月2,水1 | 斎藤 毅、関口 英子 | 723 教室 | 1年 理二三(21-24) |
| 30151 | 月4,木3 | 石毛 和弘、飯田 正敏 | 724 教室 | 1年 理一(20-23) |
| 30156 | 月4,木3 | 白石 潤一、松田 茂樹 | 723 教室 | 1年 理一(24-27) |
| 30158 | 月4,木3 | 逆井 卓也、下川 航也 | 523 教室 | 1年 理一(28-31) |
| 30160 | 月4,木3 | 金井 雅彦、梶原 健 | 741 教室 | 1年 理一(32-35) |
| 30162 | 月4,木3 | WILLOX RALPH、山崎 満 | 721 教室 | 1年 理一(36-39) |
| 30455 | 火4,金3 | 竹内 知哉、斉藤 義久 | 523 教室 | 1年 理一(1,17-19) |
| 30460 | 火4,金3 | 松井 千尋、大坪 紀之 | 531 教室 | 1年 理一(2,4-5,8) |
| 30461 | 火4,金3 | 木田 良才、戸瀬 信之 | 524 教室 | 1年 理一(3,11-13) |
| 30462 | 火4,金3 | 足助 太郎、津田 照久 | 724 教室 | 1年 理一(6-7,9-10) |
| 30463 | 火4,金3 | 大田 佳宏、大場 清 | 741 教室 | 1年 理一(14-16) |

微分積分学①

| 微分積分学① | | 開講区分 | S 2 | |
|--|-----|---|--------|-----------------|
| <p>授業の目標・概要 代数学、幾何学とともに、数学の根幹をなす解析学について、その基本的な考え方や方法を学ぶ。力学における運動方程式などに代表されるように、自然界の多くの現象が、微分積分学を用いて記述される。微分積分学は、あらゆる科学技術の基礎となっている。微分積分学は17世紀末に、ニュートンやライブニッツらによって創成された。ニュートンは量の変化の記述に注目し、速度、加速度などの物理量を表現するために微分を導入した。「微分積分学の基本定理」により、区分求積法によって定義される積分は、微分の逆操作であることが、明確に認識されるようになった。微分積分学では、極限をとること、無限和をとることなどの操作が重要な役割を果たす。このような微分積分学の基礎となる極限の厳密な定義は、19世紀後半から整えられていった。この授業では、「数理科学基礎」で学んだ極限の扱いに基づき、微分積分学の基礎と応用を学ぶ。具体的な項目は以下の通りである。S2タームの「微分積分学①」で項目1,2を扱い、Aセメスターの「微分積分学②」で項目3~6を扱うことを目安とするが、担当教員によって、順序や内容に一部変更が加えられる場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一変数関数の微分（微分の基本性質、テーラーの定理、テーラー展開） 2. 多変数関数の微分（偏微分と全微分、合成関数の微分の連鎖律） 3. 多変数関数の微分（続き）（高階偏微分、多変数のテーラーの定理とその応用） 4. 一変数関数の積分（区分求積法、微分積分学の基本定理） 5. 多変数関数の積分（多重積分と累次積分、多重積分の変数変換公式） 6. 無限級数と広義積分（関数列の収束、広義積分） <p>実数の連続性に基づく微分積分学の基礎の厳密な展開は、2年次Sセメスターの総合科目「解析学基礎」で学ぶことができる。将来、本格的に数学を使う分野に進学しようという場合は「解析学基礎」によって微分積分学の理論的基礎を修得することをすすめる。なお、「解析学基礎」は1年次Sセメスターでも履修することができる。また、2年次Sセメスターの総合科目として、「微分積分学」の直接的な続きにあたる「微分積分学統論」、および「微分積分学」で学んだ事項の応用にあたる「常微分方程式」、「ベクトル解析」が開講される。</p> | | | | |
| 成績評価方法 | | 主として定期試験によるが、担当教員によって小テストやレポートを含めて評価する場合がある。 | | |
| 教科書 | | 授業中に指示をする。 | | |
| 関連ホームページ | | http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/web/sugaku/calculus.html | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | | |
| 時間割コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 40002 | 月 2 | 岡崎 龍太郎 | 721 教室 | 1年 理二三(1-7) |
| 40003 | 月 2 | 阿部 紀行 | 523 教室 | 1年 理二三(8-10) |
| 40004 | 月 2 | 緒方 芳子 | 524 教室 | 1年 理二三(11-13) |
| 40005 | 月 2 | 木田 良才 | 724 教室 | 1年 理二三(14-17) |
| 40006 | 月 2 | 山浦 義彦 | 741 教室 | 1年 理二三(18-20) |
| 40007 | 月 2 | 斎藤 毅 | 723 教室 | 1年 理二三(21-24) |
| 40016 | 月 4 | 石毛 和弘 | 724 教室 | 1年 理一(20-23) |
| 40017 | 月 4 | 松田 茂樹 | 723 教室 | 1年 理一(24-27) |
| 40018 | 月 4 | 逆井 卓也 | 523 教室 | 1年 理一(28-31) |
| 40019 | 月 4 | 金井 雅彦 | 741 教室 | 1年 理一(32-35) |
| 40020 | 月 4 | WILLOX RALPH | 721 教室 | 1年 理一(36-39) |
| 40110 | 火 4 | 斉藤 義久 | 523 教室 | 1年 理一(1,17-19) |
| 40111 | 火 4 | 大坪 紀之 | 531 教室 | 1年 理一(2,4-5,8) |
| 40112 | 火 4 | 木田 良才 | 524 教室 | 1年 理一(3,11-13) |
| 40113 | 火 4 | 津田 照久 | 724 教室 | 1年 理一(6-7,9-10) |
| 40114 | 火 4 | 大場 清 | 741 教室 | 1年 理一(14-16) |

線型代数学①

| 線型代数学① | | 開講区分 | S 2 |
|---------------------------------|---|------|-----|
| 授業の目標・概要 | <p>線型代数学の萌芽である行列は多変数の連立一次方程式を効率的、統一的に扱う手法として発明された。また、行列式は方程式の解がただ一つ存在するための条件として発見された。ベクトルの概念の起こりは古典力学にあり、その意味で線型代数学の歴史は古い。しかし行列の本質である線型性概念の真の威力が認識され、数学の一分野として線型代数学が確立したのは新しく、20世紀にはいつてのことであった。</p> <p>自然界や社会科学における現象は一般には複雑で一次方程式で表せることはまれだが、一次近似によりその本質的な部分をとらえることは常套手段であり、線型代数学の考え方は非常に有効である。また、量子力学や、フーリエ解析などに現れる無限次元のベクトル空間を扱うための基礎ともなっており、線型代数学の応用については枚挙にいとまがない。このように、線型代数学の考え方は現代数学や理論物理学においてはもちろんのこと、工学、農学、医学、経済学などにおいても基本的な考え方として浸透しており、応用範囲も広い。線型代数学は理論的には単純で明快であるが、その反面、抽象的な概念操作にある程度慣れないと理解しにくい面もある。線型代数学を身につけるには、演習などのさまざまな問題にあたり、理解を深めることが必要である。「数理科学基礎」において学んだ線型代数に関する知識を前提とする。</p> <p>S2タームの「線型代数学①」で以下の項目1,2を扱い、Aセメスターの「線形代数学②」で項目3~6を扱うことを目安とするが、担当教員によって、順序や内容に一部変更が加えられる場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ベクトル空間、線型写像 2. 生成系、一次独立性、基底 3. 内積 4. 行列式 5. 固有値、固有ベクトル 6. 対称行列の対角化と二次形式 | | |
| 成績評価方法 | 主として定期試験によるが、担当教員によって小テストやレポートを含めて評価する場合がある.. | | |
| 教科書 | 授業中に指示をする。 | | |
| 関連ホームページ | http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/web/sugaku/linear_algebra.html | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | |

| 時間割コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
|--------|-----|-------|--------|-----------------|
| 40120 | 水 1 | 田中 公 | 721 教室 | 1年 理二三(1-7) |
| 40121 | 水 1 | 植野 義明 | 523 教室 | 1年 理二三(8-10) |
| 40122 | 水 1 | 小林 正典 | 524 教室 | 1年 理二三(11-13) |
| 40123 | 水 1 | 村上 順 | 724 教室 | 1年 理二三(14-17) |
| 40124 | 水 1 | 高木 俊輔 | 741 教室 | 1年 理二三(18-20) |
| 40125 | 水 1 | 関口 英子 | 723 教室 | 1年 理二三(21-24) |
| 40212 | 木 3 | 飯田 正敏 | 724 教室 | 1年 理一(20-23) |
| 40213 | 木 3 | 白石 潤一 | 723 教室 | 1年 理一(24-27) |
| 40214 | 木 3 | 下川 航也 | 523 教室 | 1年 理一(28-31) |
| 40215 | 木 3 | 梶原 健 | 741 教室 | 1年 理一(32-35) |
| 40216 | 木 3 | 山崎 満 | 721 教室 | 1年 理一(36-39) |
| 40227 | 金 3 | 竹内 知哉 | 523 教室 | 1年 理一(1,17-19) |
| 40228 | 金 3 | 松井 千尋 | 531 教室 | 1年 理一(2,4-5,8) |
| 40229 | 金 3 | 戸瀬 信之 | 524 教室 | 1年 理一(3,11-13) |
| 40230 | 金 3 | 足助 太郎 | 724 教室 | 1年 理一(6-7,9-10) |
| 40231 | 金 3 | 大田 佳宏 | 741 教室 | 1年 理一(14-16) |

数理科学基礎演習・数学基礎理論演習

| 数理科学基礎演習・数学基礎理論演習 | | | | | | |
|--------------------------|--|--|--|--|--|--|
| 授業の目標・概要 | 数学は講義を聴いただけでは意味を理解することが難しく、自分の手を動かして計算や証明をやってみる必要がある。S1 タームの「数理科学基礎演習」は「数理科学基礎」の講義と、S2 タームの「数学基礎理論演習」は「微分積分学①」・「線型代数学①」の講義と一体であり、練習問題を解くことによって講義に対する理解を助け、応用力を養う。講義内容に即した応用問題の他に、講義の理解を深めるための証明問題や、講義で触れられなかった内容に関する補足問題を適宜付け加えることもある。 | | | | | |
| 成績評価方法 | S1 タームの「数理科学基礎演習」の成績評価は、「数理科学基礎」の成績に演習の平常点などを加味して行う。S2 タームの「数学基礎理論演習」の成績評価は、「微分積分学①」「線型代数学①」の成績に演習の平常点などを加味して行う。 | | | | | |
| 教科書 | 授業中に指示をする。 | | | | | |
| 関連ホームページ | http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/web/sugaku/index.html | | | | | |
| ※講義の詳細については、UTAS も参照すること | | | | | | |

| 時間割コード | 開講 | 曜限 | 科目名 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
|--------|-----|-----|----------|-------------------|--------|------------------|
| 30168 | S 1 | 月 3 | 数理科学基礎演習 | 牛腸 徹 | 524 教室 | 1 年 理二三(11-13) |
| 40010 | S 2 | 月 3 | 数学基礎理論演習 | 牛腸 徹 | 524 教室 | 1 年 理二三(11-13) |
| 30169 | S 1 | 月 3 | 数理科学基礎演習 | 鮑 園園 | 724 教室 | 1 年 理二三(14-17) |
| 40011 | S 2 | 月 3 | 数学基礎理論演習 | 鮑 園園 | 724 教室 | 1 年 理二三(14-17) |
| 30165 | S 1 | 月 3 | 数理科学基礎演習 | 石毛 和弘、田中 公 | 721 教室 | 1 年 理二三(1-7) |
| 40008 | S 2 | 月 3 | 数学基礎理論演習 | 石毛 和弘、田中 公 | 721 教室 | 1 年 理二三(1-7) |
| 30170 | S 1 | 月 3 | 数理科学基礎演習 | 中村 勇哉 | 741 教室 | 1 年 理二三(18-20) |
| 40012 | S 2 | 月 3 | 数学基礎理論演習 | 中村 勇哉 | 741 教室 | 1 年 理二三(18-20) |
| 30171 | S 1 | 月 3 | 数理科学基礎演習 | 山本 宏子、田中 雄一郎 | 723 教室 | 1 年 理二三(21-24) |
| 40013 | S 2 | 月 3 | 数学基礎理論演習 | 山本 宏子、田中 雄一郎 | 723 教室 | 1 年 理二三(21-24) |
| 30167 | S 1 | 月 3 | 数理科学基礎演習 | 阿部 紀行、石本 健太 | 523 教室 | 1 年 理二三(8-10) |
| 40009 | S 2 | 月 3 | 数学基礎理論演習 | 阿部 紀行、石本 健太 | 523 教室 | 1 年 理二三(8-10) |
| 30567 | S 1 | 火 5 | 数理科学基礎演習 | 竹内 知哉、斉藤 義久 | 523 教室 | 1 年 理一(1,17-19) |
| 40115 | S 2 | 火 5 | 数学基礎理論演習 | 竹内 知哉、斉藤 義久 | 523 教室 | 1 年 理一(1,17-19) |
| 30571 | S 1 | 火 5 | 数理科学基礎演習 | 清野 和彦 | 532 教室 | 1 年 理一(14-16) |
| 40119 | S 2 | 火 5 | 数学基礎理論演習 | 清野 和彦 | 532 教室 | 1 年 理一(14-16) |
| 30568 | S 1 | 火 5 | 数理科学基礎演習 | 牛腸 徹 | 723 教室 | 1 年 理一(2,4-5,8) |
| 40116 | S 2 | 火 5 | 数学基礎理論演習 | 牛腸 徹 | 723 教室 | 1 年 理一(2,4-5,8) |
| 30569 | S 1 | 火 5 | 数理科学基礎演習 | 木田 良才、寺田 至 | 524 教室 | 1 年 理一(3,11-13) |
| 40117 | S 2 | 火 5 | 数学基礎理論演習 | 木田 良才、寺田 至 | 524 教室 | 1 年 理一(3,11-13) |
| 30570 | S 1 | 火 5 | 数理科学基礎演習 | 足助 太郎、津田 照久 | 724 教室 | 1 年 理一(6-7,9-10) |
| 40118 | S 2 | 火 5 | 数学基礎理論演習 | 足助 太郎、津田 照久 | 724 教室 | 1 年 理一(6-7,9-10) |
| 31046 | S 1 | 木 4 | 数理科学基礎演習 | 中村 勇哉 | 724 教室 | 1 年 理一(20-23) |
| 40220 | S 2 | 木 4 | 数学基礎理論演習 | 中村 勇哉 | 724 教室 | 1 年 理一(20-23) |
| 31047 | S 1 | 木 4 | 数理科学基礎演習 | 山本 宏子、白石 潤一 | 723 教室 | 1 年 理一(24-27) |
| 40221 | S 2 | 木 4 | 数学基礎理論演習 | 山本 宏子、白石 潤一 | 723 教室 | 1 年 理一(24-27) |
| 31048 | S 1 | 木 4 | 数理科学基礎演習 | 清野 和彦 | 523 教室 | 1 年 理一(28-31) |
| 40222 | S 2 | 木 4 | 数学基礎理論演習 | 清野 和彦 | 523 教室 | 1 年 理一(28-31) |
| 31049 | S 1 | 木 4 | 数理科学基礎演習 | 金井 雅彦、梶原 健 | 741 教室 | 1 年 理一(32-35) |
| 40223 | S 2 | 木 4 | 数学基礎理論演習 | 金井 雅彦、梶原 健 | 741 教室 | 1 年 理一(32-35) |
| 31050 | S 1 | 木 4 | 数理科学基礎演習 | WILLOX RALPH、山崎 満 | 721 教室 | 1 年 理一(36-39) |

| | | | | | | |
|-------|-----|-----|----------|-------------------|--------|---------------|
| 40224 | S 2 | 木 4 | 数学基礎理論演習 | WILLOX RALPH、山崎 満 | 721 教室 | 1 年 理一(36-39) |
|-------|-----|-----|----------|-------------------|--------|---------------|

力学A

| 力学A | | 開講区分 | S |
|---------------------------------|---|------|---|
| 授業の目標・概要 | <p>古典力学の基本法則とその具体的応用を微積分や解析幾何等の数学的手法を用いて考察し、物理学における論理的・体系的理解への基礎を学ぶ。高校での物理学を履修したという前提に立って講義する。具体的な項目は以下の通りだが、実際の内容や順序は教員によって多少の違いがあり、特に*印のついた項目は省略される場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：物理学の世界 2. 運動の記述 <ul style="list-style-type: none"> ・デカルト座標 ・ベクトルとその演算（内積、外積など） ・極座標（2次元、*3次元） ・次元と単位系 3. 運動の法則 <ul style="list-style-type: none"> ・ニュートンの三法則 ・質量と力 ・簡単な運動の例（自由落下など） ・力積と運動量 ・仕事とエネルギー（線積分） ・保存力とポテンシャル（グラディエント） 4. 運動の解析 <ul style="list-style-type: none"> ・落体の運動（速度に依存する抵抗がある場合を含む） ・慣性質量と重力質量 ・単振り子・調和振動 ・減衰振動 * 強制振動（共鳴） ・力のモーメント ・中心力と角運動量 ・万有引力とケプラーの法則 5. 運動の相対性と慣性力 <ul style="list-style-type: none"> ・慣性系とガリレイ変換 ・並進加速度系と慣性力 ・回転系（遠心力とコリオリ力） 6. 多粒子系 <ul style="list-style-type: none"> ・内力と外力 ・重心運動と相対運動 * 対称性と保存則 ・二体系（換算質量、衝突など） * 7. 剛体の運動 <ul style="list-style-type: none"> * 剛体の自由度と運動方程式 * 慣性能率 * 対称性と保存則 * 剛体の平面運動 * 8. 力学の原理 <ul style="list-style-type: none"> * 仮想仕事、ダランベールの原理 * ハミルトンの原理（最小作用） * 対称性と保存則 * ラグランジュの運動方程式 | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | |

| 時間割コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
|--------|-----|---------|---------|---------------------|
| 30809 | 水 4 | 金澤 直也 | 523 教室 | 1年 理一(20,38) |
| 30811 | 水 4 | 下村 裕 | 741 教室 | 1年 理一(21,27-28) |
| 30812 | 水 4 | ※ 鈴木 康夫 | 524 教室 | 1年 理一(22,29,34) |
| 30813 | 水 4 | 井上 純一 | 533 教室 | 1年 理一(23,30,35) |
| 30814 | 水 4 | 大井 万紀人 | 723 教室 | 1年 理一(24,31,36) |
| 30815 | 水 4 | 中島 直人 | 721 教室 | 1年 理一(25,32,37) |
| 30816 | 水 4 | ※ 大泉 匡史 | 532 教室 | 1年 理一(26,33,39) |
| 30817 | 水 4 | ※ 簗口 友紀 | 761 教室 | 1年 理二三(16,19-21) |
| 30818 | 水 4 | ※ 木本 哲也 | 1101 教室 | 1年 理二三(17-18,22-24) |
| 31242 | 金 4 | ※ 國場 敦夫 | 721 教室 | 1年 理一(1-4,18) |
| 31244 | 金 4 | 溝口 俊弥 | 761 教室 | 1年 理一(5,19) |

| | | | | |
|-------|-----|---------|--------|----------------------|
| 31245 | 金 4 | ※ 板倉 数記 | 724 教室 | 1 年 理一(6,10,14) |
| 31246 | 金 4 | 今井 伸明 | 531 教室 | 1 年 理一(7,11,15) |
| 31247 | 金 4 | 大谷 宗久 | 533 教室 | 1 年 理一(8,12,16) |
| 31248 | 金 4 | 酒井 一博 | 524 教室 | 1 年 理一(9,13,17) |
| 31263 | 金 4 | ※ 藤井 宏次 | 523 教室 | 1 年 理二三(1,6-7,10,13) |
| 31264 | 金 4 | 藤井 通子 | 741 教室 | 1 年 理二三(2,4,8,11,14) |
| 31265 | 金 4 | ※ 塩見 雄毅 | 723 教室 | 1 年 理二三(3,5,9,12,15) |

【注意】基礎科目「力学 A」を他クラス聴講する場合、または文科生が要求科目として履修（要履修許可科目）する場合は、上表のうち※印の付いている教員の授業を選択し履修すること。

力学B

| 力学B | | 開講区分 | S | |
|---------------------------------|---|-------|--------|------------------------|
| 授業の目標・概要 | <p>入試で物理学を選択しなかった学生のうち希望する者を対象とする。高度な問題や詳細には深入りをせず、例題や宿題を多用することにより、物理学がどのような局面で役に立つのかを学ぶ。具体的な項目は以下の通りだが、実際の内容や順序は教員によって多少の違いがあり、特に*印のついた項目は省略される場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：物理学の世界 2. 運動の記述 <ul style="list-style-type: none"> ・デカルト座標 ・ベクトルとその演算（内積、外積など） ・極座標（2次元、*3次元） ・速度と加速度 ・次元と単位系 3. 運動の法則 <ul style="list-style-type: none"> ・ニュートンの三法則 ・質量と力 ・簡単な運動の例（自由落下など） ・力積と運動量 ・仕事とエネルギー（線積分） ・保存力とポテンシャル（グラディエント） 4. 運動の解析 <ul style="list-style-type: none"> ・落体の運動（*速度に依存する抵抗がある場合を含む） *慣性質量と重力質量 ・単振り子・調和振動 *減衰振動 *強制振動（共鳴） ・力のモーメント ・中心力と角運動量 ・万有引力とケプラーの法則 5. 運動の相対性と慣性力 <ul style="list-style-type: none"> ・慣性系とガリレイ変換 ・並進加速度系と慣性力 ・回転系（遠心力と*コリオリ力） 6. 多粒子系 <ul style="list-style-type: none"> ・内力と外力 ・重心運動と相対運動 *対称性と保存則 ・二体系（衝突、*換算質量など） *7.剛体の運動 <ul style="list-style-type: none"> *剛体の自由度と運動方程式 *慣性能率 *剛体の平面運動 | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 | | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | | |
| 時間割コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 30810 | 水 4 | 新井 宗仁 | 531 教室 | 1年 理一(20-39)理二三(16-24) |
| 31243 | 金 4 | 陶山 明 | 511 教室 | 1年 理一(1-19)理二三(1-15) |

熱力学

| 熱力学 | | 開講区分 | S |
|----------------------------------|---|------|---|
| 授業の目標・概要 | <p>熱力学は、膨大な数の原子・分子等のマイクロ（微視的）な粒子の集団から成るマクロ（巨視的）な物質の状態を、温度、圧力、体積などのマクロな物理量を用いて記述し、いくつかの基本原理をもとに、マクロな観点から物質の状態がいかに変化するかを考察する学問体系である。熱力学は、力学、電磁気学とともに古典物理学の基礎を構成している。ここで学ぶ内部エネルギー、エントロピーなどの概念は理科生にとって必須の基礎概念である。</p> <p>以下に標準的な講義内容を示すが、担当教員によって項目の順序や内容は若干異なる。講義では、高校までに習った初等数学以外に、偏微分等の数学的手法を用いることがあるが、その場合は、そのつど必要に応じて講義で解説される。</p> <p>0.序論 熱力学とは何か？マイクロな系とマクロな系、力学や電磁気学との対比</p> <p>1.熱平衡状態 温度、圧力、状態量、示強変数と示量変数、状態方程式</p> <p>2.熱力学第一法則 熱量と仕事、熱の仕事当量、内部エネルギー、定積熱容量（定積比熱）と定圧熱容量（定圧比熱）</p> <p>3.熱力学第二法則 第二法則の諸表現（Thomson の原理、Clausius の原理）、可逆循環過程、Carnot サイクル、不可逆過程、準静的過程、熱機関の効率、熱力学的絶対温度、Clausius の不等式、エントロピー</p> <p>4.自由エネルギー Helmholz の自由エネルギー、Gibbs の自由エネルギー、Maxwell の関係式 その他、オプションとして取り上げられるトピックス 混合のエントロピー、エンタルピー、Joule-Thomson 過程、Legendre 変換、熱力学第三法則、相平衡、相律、Clapeyron-Clausius の式、Le Chatelier の原理、化学ポテンシャル、Gibbs-Duhem の関係式、Maxwell の等面積則</p> | | |
| 成績評価方法 教科書 | <p>定期試験 教科書は使用しない。</p> | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTAS を参照すること | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
|------------|-----|---------|---------|----------------------|
| 30062 | 月 2 | ※ 加藤 岳生 | 525 教室 | 1 年 理一(1-3,27-28,39) |
| 30081 | 月 2 | 福山 寛 | 1101 教室 | 1 年 理一(12,14-15,23) |
| 30083 | 月 2 | 岸根 順一郎 | 1102 教室 | 1 年 理一(22,31,33) |
| 30688 | 水 2 | 藤山 茂樹 | 531 教室 | 1 年 理一(4,34-35) |
| 30689 | 水 2 | ※ 池田 昌司 | 723 教室 | 1 年 理一(6,9,20) |
| 30771 | 水 3 | 森松 治 | 531 教室 | 1 年 理一(7,11,32) |
| 30935 | 木 2 | 富谷 光良 | 724 教室 | 1 年 理一(8,10,13) |
| 30939 | 木 2 | 下村 裕 | 721 教室 | 1 年 理一(16,18,29) |
| 30941 | 木 2 | ※ 関野 恭弘 | 723 教室 | 1 年 理一(19,38) |
| 31103 | 金 1 | ※ 福島 孝治 | 721 教室 | 1 年 理一(5,17,24) |
| 31106 | 金 1 | 尾関 之康 | 741 教室 | 1 年 理一(21,25,30) |
| 31197 | 金 3 | ※ 菊川 芳夫 | 723 教室 | 1 年 理一(26,36-37) |

【注意】基礎科目「熱力学」を他クラス聴講する場合、または文科生が要求科目として履修（要履修許可科目）する場合は、上表のうち※印の付いている教員の授業を選択し履修すること。

化学熱力学

| 化学熱力学 | | 開講区分 | S | |
|----------------------------------|--|--------|---------|---------------------------|
| 授業の目標・概要 | <p>熱力学では、多数の原子分子の集団から成る物質の状態を圧力、体積、温度などの巨視的な量を用いて指定し、いくつかの基本原理をもとに、巨視的な観点から物質がいかに変化するかを考察していく。これらは、化学平衡や化学反応を理解する上での基礎的な概念を与える。本講義では、化学への応用をめざして熱力学を学ぶ。以下に標準的な講義項目を示すが、教員によって実際の順序や内容は若干異なる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 熱平衡状態、温度と熱、状態量（示強性、示量性）、状態方程式（理想気体、ファン・デル・ワールス気体） 2. 熱力学第一法則 熱と仕事、内部エネルギー、準静的過程、定積過程と定圧過程、エンタルピー、熱容量（比熱）、ヘスの法則 3. 熱力学第二法則 熱機関とカルノーサイクル、第二法則の諸表現（トムソンの原理、クラウジウスの原理）、不可逆過程、クラウジウスの不等式、エントロピー 4. 自由エネルギー ヘルムホルツエネルギー、ギブスエネルギー、マックスウェルの関係式、ギブスエネルギーの圧力・温度依存性 5. 化学ポテンシャルと化学平衡 相平衡と相律、クラペイロン・クラウジウスの式、化学ポテンシャル、化学平衡、質量作用の法則、ル・シャトリエの原理 | | | |
| 成績評価方法 教科書 | <p>担当教員の UTAS シラバスを参照の事。 その他。</p> | | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTAS を参照すること | | | | |
| 時間割 コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 30469 | 火 3 | 松尾 基之 | 1225 教室 | 1 年 理一 理二三(4,16,18,20,22) |
| 30470 | 火 3 | 藤田 雅弘 | 741 教室 | 1 年 理一 理二三(6,8,11,15) |
| 30951 | 木 2 | 小倉 賢 | 1101 教室 | 1 年 理一 理二三(1-3,5,7,9-10) |
| 30952 | 木 2 | 若杉 桂輔 | 1102 教室 | 1 年 理一 理二三(12-14,17) |
| 30953 | 木 2 | 長谷川 宗良 | 741 教室 | 1 年 理一 理二三(19,21,23-24) |

物性化学

| 物性化学 | | 開講区分 | S 1 | |
|----------------------------------|---------|---|---------|------------------------------|
| 授業の目標・概要 | | 物質の多様な構造、性質および反応を理解するための、基礎的な化学の概念、理論を具体的な化合物を例にして学ぶ。以下の項目とその関連事項を内容とするが、教員により順序や重点の置き方に少し違いがある場合もある。 | | |
| | | 1. 多原子分子の構造 ルイス構造と分子構造、共有結合の方向性、混成軌道 | | |
| | | 2. パイ結合の化合物 共役二重結合、共鳴、ベンゼン、芳香族化合物 | | |
| | | 3. パイ電子と分子軌道 パイ電子近似、LCAOMO、変分法、HOMO と LUMO | | |
| | | 4. 配位結合の化合物 Lewis 酸・塩基、金属錯体と配位結合、遷移金属錯体と d 軌道、結晶場 分裂 | | |
| | | 5. 分子間相互作用と凝集系、生体高分子化学 van der Waals 力、水素結合 | | |
| | | 6. 結晶の構造と結合 最密充填、単純格子、イオン半径と結晶構造、金属と半導体 | | |
| | | 7. イオン結晶 格子エネルギー、Madelung 定数、Born-Haber サイクル | | |
| 成績評価方法 | | 担当教員の UTAS シラバスを参照の事。 | | |
| 教科書 | | その他。 | | |
| 関連ホームページ | | http://www.iis.u-tokyo/~houjou/hjlab_wiki/ | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTAS を参照すること | | | | |
| 時間割 コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 30063 | 月 2,木 2 | 青木 優 | 531 教室 | 2 年 理一(27,32)理二三(12,24) |
| 30064 | 月 2,木 2 | 豊田 太郎 | 532 教室 | 2 年 理一(25)理二三(14,16) |
| 30065 | 月 2,木 2 | 北條 博彦 | 533 教室 | 2 年 理一(4,26,39) |
| 30066 | 月 2,木 2 | 横田 泰之 | 1108 教室 | 2 年 理一(28)理二三(11,17,19) |
| 30067 | 月 2,木 2 | 内田 さやか | 1225 教室 | 2 年 理一(18)理二三(13,15) |
| 30152 | 月 3,木 3 | 増田 茂 | 1225 教室 | 2 年 理一(20,23,30,37) |
| 30153 | 月 3,木 3 | 佐藤 守俊 | 532 教室 | 2 年 理一(24,29,36,38) |
| 30154 | 月 3,木 3 | 竹中 康将 | 531 教室 | 2 年 理一(21-22)理二三(18,23) |
| 30456 | 火 3,金 3 | 浅井 禎吾 | 1101 教室 | 2 年 理一(3,12,35)理二三(5,20) |
| 30457 | 火 3,金 3 | 増田 茂 | 1108 教室 | 2 年 理一(15,17)理二三(6,22) |
| 30458 | 火 3,金 3 | 角野 浩史 | 532 教室 | 2 年 理一(13-14)理二三(3-4,10) |
| 30459 | 火 3,金 3 | 寺尾 潤 | 1102 教室 | 2 年 理一(1-2,5,8,11)理二三(1-2,9) |
| 30544 | 火 4,金 4 | 片山 正士 | 1101 教室 | 2 年 理一(33-34)理二三(8,21) |
| 30545 | 火 4,金 4 | 溝口 照康 | 1102 教室 | 2 年 理一(16,19,31)理二三(7) |
| 30546 | 火 4,金 4 | 田代 省平 | 532 教室 | 2 年 理一(6-7,9-10) |

生命科学

| 生命科学 | | 開講区分 | S1 |
|---------------------------------|---|------|----|
| 授業の目標・概要 | <p>本講義は理科1類の学生に特化し、生命現象の中でも数式で表しやすい内容を計算演習とコンピュータの活用により学ぶ。数理ダイナミクスの観点から生命現象の謎に迫るおもしろさを実感してもらうことを期待する。具体的には、以下のような内容を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命科学の基礎 2. 生体物質：細胞を作り上げる物質群 3. 細胞の構造と増殖 4. 生命の駆動力：代謝と自由エネルギー 5. 遺伝情報 6. 生命のシステムの理解 7. 生命のダイナミクスとパターン形成 8. マクロなダイナミクス 9. 生命科学の数理的展開 | | |
| 成績評価方法 | <p>毎回行う練習問題と試験</p> | | |
| 教科書 | <p>次の教科書を使用する。 書名 演習で学ぶ生命科学 著者（訳者） 東京大学生命科学教科書編集委員会 編 出版社 羊土社</p> | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | |

| 時間割 コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
|------------|-----|--------|---------|-----------------------|
| 30220 | 月 4 | 矢島 潤一郎 | 1102 教室 | 2年 理一(4,6,11,17) |
| 30221 | 月 4 | 佐藤 健 | 531 教室 | 2年 理一(16,23-24,32) |
| 30686 | 水 2 | 長谷川 禎彦 | 523 教室 | 2年 理一(1,15,21,27-28) |
| 30687 | 水 2 | 河原 正浩 | 524 教室 | 2年 理一(2-3,5,18,29-30) |
| 30694 | 水 2 | 寺田 透 | 533 教室 | 2年 理一(26,33,35,39) |
| 30936 | 木 2 | 山口 哲志 | 524 教室 | 2年 理一(12-14,37) |
| 30937 | 木 2 | 飯野 雄一 | 523 教室 | 2年 理一(8,34,36,38) |
| 31191 | 金 3 | 杉山 宗隆 | 533 教室 | 2年 理一(7,10,22,25) |
| 31192 | 金 3 | 館野 正樹 | 1225 教室 | 2年 理一(9,19-20,31) |

生命科学 I

| 生命科学 I | | 開講区分 | S | |
|---------------------------------|--|------------|---------|-------------------------|
| 授業の目標・概要 | 生命科学の基本概念と遺伝・膜構造・代謝を中心とした生命現象のしくみについて、分子から細胞までの構成原理を概観する。 1. 生物の多様性と斉一性 2. タンパク質の構造と機能 3. 遺伝子と遺伝情報 4. 細胞の構造 5. 代謝と光合成 | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | |
| 教科書 | 次の教科書を使用する。 書名 理系総合のための生命科学 第4版 著者(訳者) 東京大学教養学部理工系生命科学教科書編集委員会 編 出版社 (株)羊土社 ISBN 978-4-7581-2086-9 | | | |
| ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること | | | | |
| 時間割 コード | 曜限 | 担当教員 | 教室 | 対象クラス |
| 30232 | 月 4 | 豊島 陽子、増田 建 | 532 教室 | 1年 理二三(9,12,17,21-22) |
| 30233 | 月 4 | 美川 務 | 533 教室 | 1年 理二三(5,13-14,18,24) |
| 31108 | 金 1 | 矢島 潤一郎 | 1106 教室 | 1年 理二三(1,3,10,19-20,23) |
| 31109 | 金 1 | 和田 元 | 532 教室 | 1年 理二三(2,7-8,11,15) |
| 31200 | 金 3 | 渡邊 雄一郎 | 1331 教室 | 1年 理二三(4,6,16) |